

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	端末	製造者(製造元)	製品名	型番 (ソフトウェアの場合はバージョン管理番号)	製造年月日	製品の用途 A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御 C 端末の報知による人の危険回避	演算方式	受信装置の種類	価格		その他		(1) 端末基礎機能
									販売価格	通信費等運営費(月間)	製品紹介ホームページURL	(備考)	サーバーとの接続監視、通信障害の検知
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	1	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	ユレキテル	ver.1	2008年4月～	A、C	端末予報型	サーバシステム	数百万円程度(システム込み)	25万円 (配信費用月額 回線別途) 配信会社に委託	特になし(事例紹介)		約15秒おきヘルスチェック 24時間コールセンター等で監視電話連絡
株式会社エイツ	1	株式会社エイツ	HomeSeismo(ホームサイモ)	HS301	2007年9月11日～	A、C	端末予報型	緊急地震速報専用端末	N/A	(税込・年一括前払) ベーシックプラン:3,150円 ライトプラン:1,890円 スペシャルプラン:5,250円	http://www.a-2.co.jp/homeseismo/		対応。 端末とサーバー間で約10秒毎に死活監視を行い、切断したときはLEDランプでお知らせ。 ユーザーページ・端末設定画面(共に要ログイン)でも切断が表示される。
	2	株式会社エイツ	緊急地震速報受信装置	EQ-RV10(EQ-Reporter II)	2007年7月～	A	端末予報型	緊急地震速報専用端末	N/A	N/A	http://www.ccccc5.com/eq/ http://www.ccccc5.com/eq/v/		■シーファイブ配信サーバと接続の場合。 端末からサーバに向けて60秒毎に死活監視を送信。 切断時、端末側ではLEDランプの点滅で確認可能。 サーバ側では5分以上死活監視が途絶えた際に管理者へ切断通知のメール送信。 サーバによる端末のタイムアウト状況については8分毎にチェックする。 ■NTT-COM配信サーバと接続の場合。 HW-HC:NTT-COM側より30秒毎にping監視(西日本の場合は常にエラー) アプリ-HC:端末認証完了後、端末からサーバへ30秒毎にアプリケーションヘルスチェックを送る。 受信-HC:サーバから端末へ30秒毎にゲームデータを送信。受信結果はアプリケーションヘルスチェックの返答と併せて送られる。 NTT-COMサーバ側で10分間おきに状態確認が行われる。確認時に状態遷移があった場合メール通知。
株式会社先端力学シミュレーション研究所	1	株式会社先端力学シミュレーション研究所	緊急地震速報活用防災システムASU-QUICK	Version 2.24	2010年1月21日	B、C	端末予報型	Windows用のソフトウェア	¥200,000	(a)¥25,000(回線費除く)[ANETスタンダードプラン] (b)¥6,000(回線費除く)[ANETシンプルプラン] (c)¥200,000/年(回線費除く)[REICインターネット接続] (d)¥22,500(回線費除く)[アイテック版急報神] (e)¥30,000[スカパーJSAT]	http://www.astom.jp/quick.html		サーバーから定期的に送信される死活監視用の電文受信の監視と、サーバーへ定期的に送信する死活監視用の電文送信で死活監視を行う。切断したときには画面に表示。
	2	株式会社先端力学シミュレーション研究所	ASU-QUICK放送設備運動オプション	Version 2.24B	2010年1月21日	A、B	端末予報型	Windows用のソフトウェア	¥300,000	(a)¥25,000(回線費除く)[ANETスタンダードプラン] (b)¥6,000(回線費除く)[ANETシンプルプラン] (c)¥200,000/年(回線費除く)[REICインターネット接続] (d)¥22,500(回線費除く)[アイテック版急報神] (e)¥30,000[スカパーJSAT]	http://www.astom.jp/announce.html		サーバーから定期的に送信される死活監視用の電文受信の監視と、サーバーへ定期的に送信する死活監視用の電文送信で死活監視を行う。切断したときには画面に表示。
	3	販売者:アイテック版急報神株式会社 製造者:株式会社先端力学シミュレーション研究所	鉄道事業者向け緊急地震速報受信システムQuick-i	Version 2.20	2007年8月3日	A、B	端末予報型	Windows用のソフトウェア	Type-A:¥500,000 Type-B:¥850,000	¥22,500(回線費除く)	http://mm.itec.hankyu-hanshin.co.jp/service/sp/quick.html	アイテック版急報神株式会社へのOEM供給商品	サーバーから15秒毎に送信される死活監視用の電文受信の監視と、65秒毎にサーバーへ送信する死活監視用の電文送信で死活監視を行う。切断したときには画面表示とPCスピーカーからの出力、ネットワーク信号灯、表示端末(Patite FTE-D04)で知らせる。
	4	販売:株式会社高見沢サイバネティックス 製造:株式会社先端力学シミュレーション研究所	Tacy-Quick	Version 2.21	2008年2月13日	A、B	端末予報型	Windows用のソフトウェア	¥4,500,000程度(システム構成による)	N/A	http://www.tacy.co.jp/products/tokki/str/tacy_quick.html	株式会社高見沢サイバネティックスへのOEM供給商品	サーバーから定期的に送信される死活監視用の電文受信の監視と、サーバーへ定期的に送信する死活監視用の電文送信で死活監視を行う。切断したときには画面に表示。
	5	製造:シンクレイヤ株式会社 (予報業務:株式会社先端力学シミュレーション研究所)	告知放送受信端末	AFM-300シリーズ AFM-400シリーズ	2006年2月～	A、C	サーバー予報型	CATV網内での告知放送端末	(端末単体での販売はなし)	(端末単体での販売はなし)	http://www.synlayer.com/jp/nextzone/nfm/nfm.html	センターソフトはシンクレイヤ株式会社へのOEM供給商品	端末制御キヤリア監視機能あり。端末はセンターからのFSK-RF制御信号で動作するが、その信号が何らかの原因で途絶えた場合やキヤリアを捕捉できないとき、端末のLEDを早減速させて知らせる。
	6	販売:株式会社ピーシーデポコーポレーション 製造:ブラネックスコミュニケーションズ株式会社(予報業務:株式会社先端力学シミュレーション研究所)	MZK-WDPRI(PCD-SSWU01)	PCD-SSWU01	2010年3月14日	C	端末予報型	緊急地震速報受信機能付きルータ	(一般発売されていない)	(一般発売されていない)	http://www.pcdspnet.co.jp/co.jp/nrcss/2010/pdf/128803018910153.pdf	一般発売されていない。会員向けの無料サービス。	サーバーから2分おきに送信される死活確認用電文を監視し、5分間無通信の場合は切断し、再接続を行う。ソケットの切断は画面にアイコンで表示。通信状態は正常・異常ともに画面上に常時表示される。
情報事務資材株式会社	1	情報事務資材株式会社	緊急地震速報受信装置	EQR1	2007年2月1日	該当しない	端末予報型	サーバー	N/A	N/A	http://www.web-iis.jp/		ヘルスチェックによる監視
	2	情報事務資材株式会社	表示ソフトウェア	EQR1-HK	2007年3月1日	C	端末予報型	ソフトウェア	N/A	N/A	http://www.web-iis.jp/		ヘルスチェックによる監視
	3	情報事務資材株式会社	カウントダウン表示器	EQR1-CNT	2007年3月1日	C	端末予報型	専用機器	N/A	N/A	http://www.web-iis.jp/		ヘルスチェックによる監視

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(1) 端末基礎機能						音声や表示による報知機能		テスト報により試験ができること	端末単独で外部出力の試験ができること	端末単独で外部出力の試験機能の有している 有している: ○ 有していない: ×	訓練報により訓練支援の報知ができる できる: ○ できない: ×
	受信してから0.2秒以内に報知または制御を開始	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合の対処方法	動作履歴の保存	耐震固定等地震の揺れへの対策が可能	自己診断機能	外部出力機能	予測震度及び猶予時間の伝達*	画面表示やライトなど(具体的な報知内容を記述のこと)				
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	○	動作しない	○ 動作ログを保存	固定器具を使用	切断時ランプ表示あり	あり	○	画面表示及び表示灯、追加機器で音声可能	任意時刻テスト電文(申込制)によるセルフ訓練可能	○ 任意時刻テスト電文(申込制)によるセルフ訓練可能	○ 個別訓練可能	× 別途トレーニング機能で実施可能
株式会社エイツー	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	通常1ヶ月程度端末内に保存(期間ではなくデータ量で古いものから消えるため、端末の動作状況によって異なる)	対策可能。 地震計内蔵の為、固定して使うのが前提。	あり: センターとの切断が継続すると自動再起動	あり: 接点数3(a接点2、b接点1)放送運動(ガイダンスが流れている間動作)とワンショット(設定した時間動作)のどちらかを選択可。スタンバイプランはワンショット設定を選択した接点のみ、接点毎に閾値設定可。	○	音声による伝達 回転ライト、PC表示ソフト、LED表示機器等と連動可	テスト報を受けて音声出力と接点出力の試験が可能。	○ 「動作確認(試験放送)」にて接点出力も動作。 「動作確認(試験放送)」にて接点出力も動作。 スタンバイプランはワンショット(設定した時間接点出力動作)については、動作確認(試験放送)では動作させない設定可。 放送運動(ガイダンスが流れている間接点出力動作)については、必ず動作。	○ 「動作確認(試験放送)」にて接点出力も動作。 スタンバイプランはワンショット(設定した時間接点出力動作)については、動作確認(試験放送)では動作させない設定可。 放送運動(ガイダンスが流れている間接点出力動作)については、必ず動作。	○
	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	あり: 端末メモリの分保存。概ね1週間程度。	端末専用設置盤、或いは収納ラック等にねじ止め固定。	○ あり: シーファイブ配線サーバーと接続の場合。チェックアラート先(配信サーバー)へ到達できない状態が続いた場合自動リポート。 あり: NTT-COM配線サーバーと接続の場合。NTT-COMサーバーとの接続不可が続いた場合自動リポート。	あり: 接点数4、接点毎に震度閾値の設定が可能。	○ あり: アイホンインターホンとの接続の場合。設定した震度閾値を超えた場合に予測震度と猶予時間を報知。 あり: バナソニック電工製インターホンとの接続の場合。震度3以上~5弱未満: REIC報知音「地震が来ます」を繰り返す。繰り返すは間隔を短くした連報受信のタイミングより約60秒間。 5弱以上: REIC報知音「大きな地震が来ます」を繰り返す。繰り返すは間隔を超えた連報受信のタイミングより約60秒間。	なし	テスト報を受けて音声出力と接点出力の試験が可能。	○ テストコマンドで可能	○ テストコマンドで可能	○
株式会社先端力学シミュレーション研究所	○	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり: 動作ログに保存。保存期間は無期限。	PCの耐震固定器具を使用すれば可能。	あり: サーバーとの接続状態が異常の場合は画面に表示。	なし	○	PC画面(予想震度・猶予時間の表示、震央から地震波が伝わる様子のアニメーション表示)での伝達とPCスピーカーからの報知音出力。 また警報について、自地域が警報対象となっている場合、他地域に警報が発表されている場合に表示。	N/A	N/A	外部出力なし	○
	○(0.1秒以下)	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり: 動作ログに保存。保存期間は無期限。	PCの耐震固定器具を使用すれば可能。	あり: サーバーとの接続状態が異常の場合は画面に表示。	あり: 接点数4、接点毎に役割設定可能(緊急地震速報、キャンセル、訓練、リセット)。PATLITE PHC-100Aを接続。	○	PC画面(予想震度・猶予時間の表示、震央から地震波が伝わる様子のアニメーション表示)での伝達。 また警報について、自地域が警報対象となっている場合、他地域に警報が発表されている場合に表示。	○: ソフト内部でのテスト機能を使って出力可能。配信事業者から送信されるテスト報では、外部出力を行うことが可能。	○: ソフト内部でのテスト機能を使って、ソフトから制御対象機器までのテストを行うことが可能。配信事業者から送信されるテスト報では、制御対象機器まで含めた一連のテストを行うことが可能。	○	○
	○(0.1秒以下)	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり: 1年間保存、のち自動消去。	PCの耐震固定器具を使用。	あり: 配信事業者サーバーとの接続状態異常時、さらに上位の気象業務支援センターまでの状態で異常が生じた場合、画面とPCスピーカーからの出力、ネットワーク信号灯、表示端末で知らせる。下に接続したネットワーク信号灯、表示端末についても同様に異常検知時には出力。	あり: 接点数16、接点毎に対象評価点と閾値を設定可能。また、キャンセル時にも出力可能。	○	PC画面、ネットワーク信号灯(光とブザー)、表示端末(画面表示とブザー)による伝達。	○: テスト電文を受けて接点出力することが可能。(テストには接点出力ありなし2種類からの選択が可能。接点出力ありの場合は、パスワード入力を求める)	○: テスト電文を受けて、サーバーから制御対象機器まで含めた一連のテストを行うことが可能。	×: サーバーに接続した状態でのみテスト出力を行える仕様としてある。	×: 誤作動防止のため、訓練報は常に破棄する。
	○	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり: 動作ログに保存。保存期間は無期限。	PCの耐震固定器具を使用すれば可能	あり: サーバーとの接続状態が異常の場合は画面に表示。	あり: LAN内に接続された表示端末IP-361-3(予想震度・猶予時間の表示、4接点出力)に出力可能。	○	PC画面(予想震度・猶予時間の表示、震央から地震波が伝わる様子のアニメーション表示)での伝達とPCスピーカーからの報知音出力。 また警報について、自地域が警報対象となっている場合、他地域に警報が発表されている場合に表示と音声出力。	○: PCソフト内でテスト地震を発生させ、表示端末に出力可能。配信事業者から送信されるテスト報では、外部出力を行うことが可能。	○: PCソフト内でのテスト地震発生により、制御対象機器まで含めた一連のテストを行うことが可能。配信事業者から送信されるテスト報では、制御対象機器まで含めた一連のテストを行うことが可能。	○	○
	○	端末予報を行わないため、該当しない。	なし: 端末に録音機能はあるが、再生音声で誤認識するのを防ぐため、運用上緊急地震速報は端末録音を実施していない。	○: 壁掛け用のねじ止めあり	あり: ハードウェア障害通知機能あり。内部ICの動作状況を確認し、異常がある場合には、端末のLEDを早点滅させて知らせる。	特定用途端末(例えばAFM-410Bなど)ではあり、外部出力機能がない端末もあり。	○	端末本体のランプと音声出力。予想震度と5秒ごとの猶予時間を報知。	○: テスト報を受けて接点信号を出力することが可能。	○: テスト報を受けて制御対象機器まで含めた一連のテストを行うことが可能。	×	○
	○	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり: 動作ログに保存。保存期間は約1ヶ月(規定容量に達するまで)。	×	あり: サーバーとの接続状態は、常にアイコンで表示される。緑: 正常、赤: 異常。	なし	○	液晶画面で予想震度、主要動到達までの猶予時間、震央地名を表示。音声で「予想震度と5秒ごとの猶予時間を報知。	N/A	N/A	外部出力なし	○: ただし現時点ではウェザーニューズから訓練報は配信されていない。
情報事務資材株式会社	開始	過去の緊急地震速報や動作の判断に必要な要素が欠損したような電文では動作しない。ただし、電文は保存しておく。	あり	サーバーラックに取付	あり	あり	利用者毎の震度及び到達予想時間を計算して、各端末に送信する。	なし	なし	あり	○	×
	開始	過去の緊急地震速報や動作の判断に必要な要素が欠損したような電文では動作しない。ただし、電文は保存しておく。	あり	該当しないなし	なし	なし	電文受信時に評価地点の予測震度と主要動到達までの時間を表示し、身の安全を確保してくださいを繰り返して通報する。	なし	なし	なし	×	×
	開始	動作しない。	なし	壁等にアンカーによる固定	あり	なし	N/A	7セグメント及びLED(強・弱)による予測震度表示。 7セグメント(桁)による主要動到達までの時間を表示し、1秒毎にカウントダウンする。	できる	なし	×	×

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号)	(1) 端末基礎機能				(2) 地震動予報機能				(3) 報知・制御出力条件設定機能					
	訓練報により訓練用の外部出力を動作できる ○: できる ×: できない	端末単独で訓練報知できる ○: できる ×: できない	訓練電文を受信し、報知を確認できる ○: できる ×: できない	訓練が実施できる機能を有すること(オペレーターによる訓練も含む) ○: できる ×: できない	利用者の特定する場所での震度や到達時間の予想 ○: あり ×: なし	時刻のズレが日本標準時に対し1秒以内になるよう自動時刻校正 ○: あり ×: なし	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合は地震動予報を行わない ○: あり ×: なし	予報履歴の保存し、利用者が参照可能 ○: あり ×: なし	気象庁の発表する緊急地震速報の内容等の変更に対応可能 ○: あり ×: なし	予測震度や猶予時間の開値 ○: あり ×: なし	緊急地震速報(警報)による動作 ○: あり ×: なし	報知音の選択 ○: あり ×: なし	予想した震度や猶予時間の報知表現 具体的な数値を使わない表現にしているか? 利用者側で表示選択できる: ○: している ×: していない	緊急地震速報の精度情報による動作 ○: あり ×: なし
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	×	○	○	○	あり	NTPIによる自動校正	動作しない	あり	改修による	震度開値設定任意 猶予時間がない場合の報知もあり	接点動作内容任意	不可(追加機器により対応)	×(高度利用者向けのため、具体的表示のみ)	固定
株式会社エイト	○	○	○	○	あり	NTPIによる自動校正を10分毎に実施(同期安定時は最長1時間毎に実施)	行わない。 サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去のものや動作の判断に必要な重要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信しても地震動予報を行わない。	参照可能。 予測震度が1.0以上のとき、インターネット上のユーザー画面にて参照可能。2ヶ月分保存。	対応可能。 通信回線経由でソフトウェアの自動更新を無償で行う。	利用者が任意に設定 (デフォルト:震度4) 猶予時間がない場合の報知もあり	なし	NHKまたはREIC音の選択機能あり(デフォルトはNHK音)	利用者側でガイダンス内容を選択できる:○	設定機能あり(デフォルトは、1地点の緊急地震速報は使用しない)
	○	○	○	○	あり	■シーファイブサーバーとの接続の場合 NTPIによる自動校正を10分毎に実施(同期安定時は最長1時間毎に実施) ■NTT-COMサーバーとの接続の場合 NTP成功状態から失敗状態へ移行した場合のNTP再開 おおよそ300秒毎に実行される。 (※長時間の通信エラー下において端末が再起動する場合、認証成功となるまでのNTP間隔がおおよそ60秒毎) <NTP失敗時のNTP再開の確認> おおよそ80秒毎に実行される。 ※NTT-COM配信サーバーとの接続時はNTT-COM動作指定に準拠。	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去のものや動作の判断に必要な重要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信しても地震動予報を行わない。	なし:直接サービスを受けるユーザーは履歴の確認不可。シーファイブによる履歴確認は可能。 ※ユーザー:マンション入居者などを指す	■シーファイブ配信サーバー経由の場合 IPv4通信回線経由でファームの更新が可能。 ■NTT-COM配信サーバー経由の場合 遠隔地からのリモート対応は不可。現地対応が必要。	震度開値の設定が可能。猶予時間がない場合の報知は行方。	なし	音声ファイルの変更により報知音の変更可能。基本的にはNHK報知音を採用。 ※パナソニック電気製インターホンが使用されている場合のみREIC報知音を使用。	× あいまい表現なし	設定機能あり。デフォルトは1観測点の緊急地震速報は採用しない。
株式会社先端力学シミュレーション研究所	外部出力なし	×	○	○	あり	あり:NTPIによる時刻校正機能、またはナウキャストテスト電文による簡易校正機能。NTPを選択した場合、時刻校正間隔は設定可能。	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり:PC画面で参照可能。永久保存。	あり:ソフトウェアの自動更新。	予測震度:設定機能あり(デフォルトは震度1) 猶予時間:設定機能なし。主要動到達が過ぎた情報でも出力する。	設定機能あり:1点処理でも表示する。2点以上の処理時のみ表示する。警報発表時のみ表示する。警報対象時のみ表示する。の中から選択。(デフォルト:2点以上の処理時のみ表示する)	設定機能あり:デフォルトはNHK音	×	設定機能あり:1点処理でも表示する。2点以上の処理時のみ表示する。警報発表時のみ表示する。警報対象時のみ表示する。の中から選択。(デフォルト:2点以上の処理時のみ表示する)
	○	○	○	○	あり	あり:NTPIによる時刻校正機能、またはナウキャストテスト電文による簡易校正機能。NTPを選択した場合、時刻校正間隔は設定可能。	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり:PC画面で参照可能。永久保存。	あり:ソフトウェアの自動更新。	予測震度:設定機能あり(デフォルトは震度4) 猶予時間:設定機能あり(デフォルトは主要動到達後30秒、これより古い情報は出力しない)	設定機能あり:接点出力条件で、1点処理でも放送を実施する。2点以上の処理時のみ放送を実施する。警報対象時のみ放送を実施する。の中から選択。(デフォルト:2点以上の処理時のみ放送を実施する)	設定機能あり:デフォルトはNHK音	○:画面では具体的な数値を使うが、外部出力では具体的な数値を使わない。	設定機能あり:接点出力条件で、1点処理でも放送を実施する。2点以上の処理時のみ放送を実施する。警報対象時のみ放送を実施する。の中から選択。(デフォルト:2点以上の処理時のみ放送を実施する)
	×	×	×	×	あり	あり:NTPIによる時刻校正を2分毎に実施(時刻校正間隔は設定可能)。	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり:PC画面で参照可能。永久保存。	あり:ソフトウェアの自動更新。鉄道事業者の場合、更新作業可能な日時は非常に限られているため、自動更新の機能は必要ない。	予測震度:設定機能あり(デフォルトは震度4) 猶予時間:設定機能あり(デフォルトは主要動到達後15秒、これより古い情報は出力しない)	設定機能なし:動作しない	設定機能なし(PCからは音の出力はない。ネットワーク信号灯、表示端末には内蔵されている報知音選択あり)	○:画面では具体的な数値を使うが、外部出力では具体的な数値を使わない。	設定機能あり:震源決定を条件としない。2点以上の処理のみ採用。の中から選択。(デフォルト:2点以上の処理のみ採用)
	○	×	○	○	あり	あり:NTPIによる時刻校正機能、またはナウキャストテスト電文による簡易校正機能。NTPを選択した場合、時刻校正間隔は設定可能。	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり:PC画面で参照可能。永久保存。	あり:ソフトウェアの自動更新	予測震度(デフォルト:震度2)・猶予時間(デフォルト:10秒以上の猶予時間で出力)について設定機能あり。	設定機能なし:動作しない	設定機能あり(デフォルト:NHK音)	○:画面・表示端末では具体的な数値を使うが、外部出力では具体的な数値を使わない。	設定機能あり:震源決定フラグを条件としない。2点以上の処理結果のみ採用の中から選択。(デフォルト:2点以上の処理結果のみ採用)
	×	×	○	○	あり(地域で指定。CATVのサービスエリアを最大99のグループに分割可能。)	あり:センターソフトでNTPIによる時刻校正機能あり。時刻校正間隔は設定可能。	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり:センターソフトPC画面で参照可能。永久保存。	あり:センターソフトの自動更新	予測震度(デフォルト:震度3)・猶予時間(デフォルト:10秒以上の猶予時間で出力)について設定機能あり。ただし、CATV事業者が共通で条件設定を行うため、各戸個別の設定はできない。以下、全ての設定についても共通。	設定機能なし:動作しない	設定機能あり(デフォルト:オリジナルサイレン音)	×	設定機能あり:震源決定フラグを条件としない。2点以上の処理結果のみ採用から選択。
	外部出力なし	×	○	○	あり(郵便番号単位で指定)	あり:NTPIによる時刻校正を2時間毎に実施。	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	△:ルータ内にログとして記録されている。ログフォーマットは利用者には公開されていない。	あり:ファームウェアのネットワークでのアップデートが可能。	予測震度については設定機能あり(デフォルト:震度3)。 猶予時間については設定なし。-60秒以上の猶予時間で出力。	設定機能なし:動作しない	設定機能なし:NHK音	×	設定機能なし:2地点以上の緊急地震速報のみ使用。
情報事務資材株式会社	×	○	なし	N/A	あり	インターネット時刻のSNTPサーバーへの問合せによる校正。電波時計による校正。	過去のものや動作の判断に必要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信しても地震動予報を行わない。	可能	可能	予測震度の開値設定	あり	なし	×	あり
	×	×	なし	N/A	あり	インターネット時刻のSNTPサーバーへの問合せによる校正。電波時計による校正。	過去のものや動作の判断に必要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信しても地震動予報を行わない。	可能	可能	予測震度の開値設定	あり	NHK音のみ	×	あり
	×	×	なし	N/A	該当しない	なし	なし	なし	該当しない	該当しない	N/A	独自音(ビーロービーロー)	×	N/A

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(3) 報知・制御出力条件設定機能								配信・許可事業者の通信能力					
	100ガル超え緊急地震速報に対する動作	同一内容の緊急地震速報を複数受信した場合の動作	同一地震について複数回緊急地震速報(業)を受信した場合の動作 緊急地震速報(予報)の続報により緊急地震速報(業)の予想震度が小さくなる・猶予時間も短くなっても報知を変更しない? 変更しない:○ 変更する:×	ある地震の緊急地震速報を受信した後、続けて別の地震の緊急地震速報を受信した場合の動作	深発地震についての緊急地震速報(業)に対する動作	キャンセル報を受信した際の動作	訓練報を受信した際の動作	テスト報を受信した際の動作	気象庁の発表から端末に届くまで1秒未満	気象業務支援センターから事業者のサーバーまでの通信回線の冗長化	サーバーから端末間の論理通信回線の冗長化	複数サーバーから端末に緊急地震速報を同時に配信している:○ していない:×	セキュリティ対策(なりすまし防止等)	
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	×	配信側で対応	○	最大予測震度、最短到達時刻を優先	なし	なし	一部可(カスタマイズ対応)	N/A	○	○	可能	○	専用線・IP-VPN	
株式会社エイトー	動作しない	排他処理機能あり	変更する:× ただし一度報知を開始した地震について、設定閾値を越えない予想震度になっても報知の中断はされない。報知内容の変更のみ行う。	大きい方の予測震度、短い方の猶予時間をお知らせ	設定機能あり(デフォルトは動作しない)	ガイドランス発報中は、緊急地震速報ガイドランスを中止し、キャンセル報受信をお知らせ。放送運動設定の接続はガイドランス終了と共に動作終了。ワンショット設定の接続の動作はキャンセル報に影響されない。ガイドランス終了後は、最後に報知した地震に対してキャンセル報が出されたときに、お知らせするか設定機能あり(デフォルトはお知らせしない。放送運動設定の接続のみ動作。ワンショット設定にした接続は動作しない)	訓練報を受信するかの設定機能あり。(ユーザー登録時に選択。受信する場合、訓練報を受けた際に始めと終わりに訓練である旨のガイドランスが流れる。ベネックプランは、ワンショット設定の接続について動作させるか選択可。デフォルトは動作する)	インターネット上のユーザーページからユーザー自身がテスト報(震度、猶予時間を設定可)を配信する機能あり (受信時には、始めと終わりに訓練である旨のガイドランスが流れる他は、通常の緊急地震速報と同じように動作。ベネックプランは、ワンショット設定の接続についてのみ、動作させるか選択可。デフォルトは動作する)	○	将来対応予定	○:サーバーは2台1組の構成。	将来対応予定	対策済み。 VPN端末個別認証接続。 ユーザーページ。端末設定画面はパスワードによるアクセス制限。	
	動作しない(100ガル超えの緊急地震速報には地震情報が含まれていないため破棄します)	排他処理機能あり	×	最初の地震で予測震度が震度閾地を超えた場合一続きで受信した別地震は採用しない。 最初の地震で予測震度が震度閾地を超えない場合一続きで受信した別地震の予測震度が震度閾地を超えた場合動作。	採用しない。	既に報知した地震に対して動作中にキャンセル報を受信した場合のみ動作する。	設定機能あり。訓練報を採用した場合は試験であり本当の地震ではない事をアナウンスする。	設定機能あり。テスト報を採用した場合は試験であり本当の地震ではない事をアナウンスする。	○	○:気象業務支援センターと東西に設定している2箇所の配信サーバと接続	○:東西に設置している2箇所の配信サーバより速報を同時配信	○	配信サーバでIPアドレスによるアクセスを制限。	
株式会社先端力学シミュレーション研究所	設定機能あり:デフォルトは使用しない(精度情報による動作で、1点処理でも表示するに設定した場合は使用することになる)。	排他処理機能あり	×	設定機能なし:常に新しいものに更新される。	設定機能なし:動作しない	既に出力した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	設定機能あり:デフォルトでは動作しない設定。動作する設定では、訓練報受信時にPC画面に「訓練報」と表示。	(a)(b)設定機能あり:テストフラグのついた電文をテスト報として送信可能。訓練報と同じ動作をする。 (c)設定機能なし:顧客専用のWeb画面から本物と同じ電文をテスト報として送信可能。この場合、本物と同じ動作をする。 (d)設定機能なし:動作しない (e)設定機能なし:動作しない	(a)~(e)○	(a)~(e)○	(a)○ (b)× (c)× (d)○ (e)×	(a)○ (b)× (c)× (d)○ (e)×	(a)専用線・IP-VPN前提 (b)独自の暗号化 (c)配信電文の暗号化(AES,RC4,個別キー設定可能) (d)インターネットVPNとし、通信内容を傍受されないようにしている。 (e)配信情報は暗号化して送信され、契約情報をもとに受信側で暗号解除される。	
	設定機能なし:動作しない。	排他処理機能あり	○:画面では報知を変更するが、外部出力では変更しない。	設定機能なし:常に新しいものに更新される。	設定機能なし:動作しない	既に出力した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	設定機能あり:デフォルトでは動作しない設定。動作する設定では、訓練報に対応する接続出力が行われる。	(a)(b)設定機能あり:テストフラグのついた電文をテスト報として送信可能。訓練報と同じ動作をする。 (c)設定機能なし:顧客専用のWeb画面から本物と同じ電文をテスト報として送信可能。この場合、本物と同じ動作をする。 (d)設定機能なし:動作しない (e)設定機能なし:動作しない	(a)~(e)○	(a)~(e)○	(a)○ (b)× (c)対応可能 (d)対応可能 (e)対応可能	(a)○ (b)× (c)× (d)○ (e)×	(a)専用線・IP-VPN前提 (b)独自の暗号化 (c)配信電文の暗号化(AES,RC4,個別キー設定可能) (d)インターネットVPNとし、通信内容を傍受されないようにしている。 (e)配信情報は暗号化して送信され、契約情報をもとに受信側で暗号解除される。	
	設定機能なし:動作しない。	排他処理機能あり	○	設定機能あり:随時更新。ピークホール(予測震度がより大きいとき更新)、初期値ホール(更新しない)から選択。デフォルトはピークホール。	設定機能なし:動作しない	既に出力した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	設定機能なし:常に破棄する(誤動作防止のため)	設定機能あり:画面表示のみ行うか、接続出力まで行うか選択できる。画面表示では、「テスト報」と表示される。	設定機能あり:画面表示のみ行うか、接続出力まで行うか選択できる。画面表示では、「テスト報」と表示される。	○	○:専用線とIP-VPNで物理的に冗長化されている。	○	○	専用線/IP-VPNなどのオープンでない通信経路でサービスを行っている。インターネットを用いる場合は、インターネットVPNとし、通信内容を傍受されないようにしている。
	設定機能あり:画面出力については、精度情報による動作で震源決定フラグを条件としない設定にした場合は使用し、それ以外の設定では使用しない。(デフォルトでは動作しない)外部出力については動作しない。	排他処理機能あり	○:画面では報知を変更するが、外部出力では変更しないようにも設定できる。	設定機能なし:常に新しいものに更新される。	設定機能なし:動作しない	設定機能あり:既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたとき出力する。出力しないから選択。(デフォルト:既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたとき出力する)	設定機能あり:デフォルトは動作しない。動作する設定では、画面表示では「訓練報」と表示される。外部出力は本物と同じ動作。	設定機能あり:デフォルトでは動作しない。PCソフト内でのテスト地震により、画面表示では「テスト」と表示し、外部出力は本物と同じ動作をする。	設定機能あり:デフォルトでは動作しない。動作する設定では、音声出力開始時に「ただいまから、緊急地震速報の訓練を行います。」、終了時に「緊急地震速報の訓練を終了します。」と報知。また、画面にも訓練報と表示。	○	○	対応可能	○	回線に専用線またはIP-VPNを使用している
	設定機能なし:動作しない	センターソフトにおいて排他処理機能あり。端末へは同一内容の情報は送信されない。	○	設定機能なし:常に新しいものに更新される。	設定機能なし:動作しない	既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	設定機能あり:デフォルトは動作しない。動作する設定では、本物と同じ動作をする。訓練報出力時は、事前に訓練を行う旨の放送をセンターから行う運用とする。	端末には設定機能なし:動作する。センターソフトでテスト報を出力するグループを選択して、一部のグループに対してテスト報の出力が可能。テスト出力では、「ただいまから緊急地震速報の試験放送を行います」と報知する。	(a)CATV事業者がC-ALERT協議会から受信する場合:冗長化対応可能 (b)CATV事業者がスカパーJSATから受信する場合:冗長化されない	○	論理回線は一系統	×	CATV局が放送に使用するネットワークを使用するため、第三者がなりすますことはない。	
	設定機能なし:動作しない	排他処理機能あり	○	音声出力中は、別の地震の緊急地震速報の出力は行わない。	設定機能なし:動作しない	既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	設定機能あり:デフォルトは動作しない。動作する設定では、音声出力開始時に「ただいまから、緊急地震速報の訓練を行います。」、終了時に「緊急地震速報の訓練を終了します。」と報知。また、画面にもテストと表示。	テストは端末内の「テスト出力」ボタンからのみ行える。配信事業者からのテスト報配信はない。音声出力開始時に「ただいまから、緊急地震速報のテスト出力を行います。」、終了時に「緊急地震速報のテスト出力を終了します。」と報知。また、画面にもテストと表示。	インターネット回線を利用するため、1秒未満という保証はできないが、ベストエフォートの場合では1秒未満とする。	○	サーバーおよびIPアドレスは複数用意されており、冗長化されている。	×	サーバー接続時、ユーザー名とパスワードで認証を行う。その後はネットワーク接続を保つ。	
情報事務資材株式会社	通常通り	2通目以降は廃棄	×	最新の地震情報を報知	設定により各端末に報知	端末に対して取消しを指示	何もしない	設定により報知(表示、音声)	1秒未満	デジタル専用回線(64Kbps)二重化	可能	○	公開鍵認証方式を採用	
	通常通り	2通目以降は廃棄	×	最新の地震情報を報知オペレータにより選択可	“深発地震発生”を表示地図上に震源マークを表示	取消しました。のメッセージ表示	何もしない	ファイルに保存	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	
	N/A	N/A	×	N/A	深発地震発生用のマーク表示	表示が全て消える	N/A	全表示が点滅	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(4) 配信・許可事業者の能力											
	通信回線	サーバーから端末間の物理通信回線の冗長化	サーバーの機能	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合は配信を行わない	設置環境良好(耐震対策等)	端末毎に接続の確認可能	端末毎に個別配信可能	端末毎に利用者の求めに応じて訓練報・テスト報配信可能	配信履歴の保存・管理	冗長化	無停電化	保守体制が整備
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	専用線・IP-VPN推奨 固定IP	実施	高度セキュリティ確保済みのデータセンター	○	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	約15秒おきヘルスチェック 24時間コールセンター等で監視 電話連絡	お客様申し込み可能なテスト報	×	保存	受信サーバー・各種配信サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している	データセンターの機能十分	24時間電話受付 機器保守は別途保守契約による
株式会社エイツー	インターネット ・NTTフレッツ網IPv6網(東:ドットネット、西:v6アプリ)	対応可能(特約契約)	対策済み。 ウイルス対策、意図しない他者の侵入を防ぐソフトの導入済み	行わない。 過去のものや地震動予報に必要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信した場合は破棄し配信や緊急地震速報(業)に用いない。	・FISCO安全対策基準をクリア ・ビル全体は免震構造(震度7相当に対応)、ラック本体は架台へ固定 ・ビル及びデータセンター設備は、建築法と消防法に則り施工 ・系統異常電所受電及び非常用自家発電施設 ・警備員常時2名体制(24時間365日警備) ・7重セキュリティ ・システム24時間365日監視(HomeSeismoお問い合わせ窓口は平日9時30分~17時まで)	あり:ユーザーページにて接続状態をリアルタイム表示。端末のLEDサーバーとの切断が継続するとE-mailにて利用者へ伝達する設定機能あり。 ベーンクプラン:24時間以上 ライトプラン :1週間以上	端末毎に訓練報配信設定が可能 インターネット上のユーザーページからユーザー自身がテスト報(震度、猶予時間を設定可)を配信可能。 どちらも配信している: 1 テスト報のみ配信している: 3 どちらも配信していない: x	約半年間の端末ごとに配信した結果を保存可能。(期間ではなくデータ量で古いものから消える) 端末が震度1以上を予測した場合は震度の動作履歴をセンターにて別途保存管理	冗長化済み。サーバーは2台1組の構成。	対応済み。 データセンター提供の無停電電源装置の導入により断続も生じない	平日9時30分~17時までの対応 端末が故障したときには別途契約で代替端末を貸し出し可能(代理店による保守サービスもあり)	
	気象業務支援センターへ配信サーバー(IP-VPN/64k) 配信サーバー-端末(インターネット)	なし	データセンターのゲートウェイにファイアウォールを設置し外部からの通信遮断、通信確認を実施。	過去のものや地震動予報に必要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信した場合は破棄し配信や緊急地震速報(業)に用いない。	配信サーバーはデータセンターに設置	端末からの死活監視送信を記録し、送信がない場合は管理者へメール通知。	サーバーに個別配信機能はないが、遠隔地より端末毎のテスト配信が可能。 端末毎の個別配信選択は不可(サーバーへ死活監視を送信している端末へ配信される)	1	記録領域の空きがあれば継続的に保存可能。	東西のデータセンターへ各1台ずつ配信サーバーを設置し、それぞれ別回線で気象業務支援センターより緊急地震速報を受信。	データセンターに無停電電源装置が導入されている。	ユーザー専用問い合わせ窓口を用意。08:00-23:00 365日対応。端末故障時は保守者を持参し現地対応可能。配信サーバー故障時はサーバー保守業者による復旧体制あり。
株式会社先端科学シミュレーション研究所	(a)専用線・IP-VPNを前提 (b)安定した回線 (c)専用線/IP-VPN/インターネット (d)インターネット(ルータ間でインターネットVPNを構築) (e)衛星専用線	(a)ほとんどの場合実施 (b)実施 (c)対応可能 (d)対応可能 (e)対応可能	(a)(b)高度セキュリティ確保済みのデータセンター (c)ウイルス対策ソフトを導入済み (d) ウィルス対策、意図しない他者の侵入への対応をサーバー機、ルータ等の通信機器で行っている。 (e)配信システムはインターネットから独立しており、許可された運用者以外には操作できないセキュリティ対策が施されている。配信センターは、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)認定、ISO/IEC27001取得済み。	(a)(b) そのまま配信する。壊れた電文や古い電文への対応は端末にゆだねる。 (c) - (e) 電文が壊れている場合は破棄して再配信しない。フォーマットが正しく古い電文への対応は端末にゆだねる(配信する)。	(a)(b)耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み (c)免震化されたデータセンターに設置 (d) 耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み (e)建物の構造物やラックの据え付けなどサービス提供に関する設備は震度7の揺れでも耐えられるように考慮。空調や入室管理、監視カメラなども設置。配信センターの事業所全体をカバーする特殊な建屋システムを導入し、構造物への落雷や雷サージによる被害も回避できる設備。	(a)約15秒毎にヘルスチェック。24時間コールセンターで監視し、電話連絡。 (b) 約15秒毎にヘルスチェック。異常検知時120分おきにメール連絡。 (c)サーバーから約50秒毎に死活監視を実施。切断時にはメールで通知。 (d)サーバーから15秒毎に送信する死活監視用の電文の送信と、65秒毎に端末から送信される死活監視用の電文受信で死活監視を行う。利用者に対して電話等で通知(24時間体制)。 (e)サーバーでは接続状態は確認できない。	(a)(b)通常なし。端末毎にテスト報の配信が可能。 (c)端末毎に本物、訓練の配信が可能。 (d)個別配信はできない。 (e)個別配信はできない。	(a)(b) 2 (c) 1: 利用者がユーザ用Web画面から指定することで可能。 (d) 2: 端末から指定することで可能。 (e) x	(a)(b)保存 (c)最低1年間保存 (d)全ての端末との接続履歴、配信履歴を保存している。保存期間は無期限。 (e)配信履歴を保存している。	(a)(b)受信サーバー・各種配信サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している。 (c)サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ2回線を使って(論理4回線、物理2回線)気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している。 (d)サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ2回線を使って(論理4回線、物理2回線)気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している。	(a)(b) 無停電化されたデータセンター内に設置 (c)停電発生確率が極めて低いデータセンターに設置。停電時にはデータセンターの無停電装置がバックアップ。 (d) 無停電化されたデータセンター内に設置 (e)配信センターは2系統の商用電源を受電、CVDFや発動発電機も備え、インストッブで電源供給可能。また、配信サーバーなど2系統で構成されるものはそれぞれ別の電源系統から供給を行い、万が一問題が発生してもサービス継続されるように考慮。	(a)24時間電話受付。機器保守は別途保守契約による。 (b)日中電話受付。 (c)24時間メール受付。通常は業務時間内に電話で受付。 (d)24時間電話受付。 (e)配信センターでは24時間365日、気象業務支援センターとの接続状態、各種サーバーの状態、衛星回線の状態などを監視し、障害発生時には迅速に対応できる体制。販売代理店による保守サポートを契約可能。
	(a)専用線・IP-VPNを前提 (b)安定した回線 (c)専用線/IP-VPN/インターネット (d)インターネット(ルータ間でインターネットVPNを構築) (e)衛星専用線	(a)ほとんどの場合実施 (b)実施 (c)対応可能 (d)対応可能 (e)対応可能	(a)(b)高度セキュリティ確保済みのデータセンター (c)ウイルス対策ソフトを導入済み (d) ウィルス対策、意図しない他者の侵入への対応をサーバー機、ルータ等の通信機器で行っている。 (e)配信システムはインターネットから独立しており、許可された運用者以外には操作できないセキュリティ対策が施されている。配信センターは、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)認定、ISO/IEC27001取得済み。	(a)(b) そのまま配信する。壊れた電文や古い電文への対応は端末にゆだねる。 (c) - (e) 電文が壊れている場合は破棄して再配信しない。フォーマットが正しく古い電文への対応は端末にゆだねる(配信する)。	(a)(b)耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み (c)免震化されたデータセンターに設置 (d) 耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み (e)建物の構造物やラックの据え付けなどサービス提供に関する設備は震度7の揺れでも耐えられるように考慮。空調や入室管理、監視カメラなども設置。配信センターの事業所全体をカバーする特殊な建屋システムを導入し、構造物への落雷や雷サージによる被害も回避できる設備。	(a)約15秒毎にヘルスチェック。24時間コールセンターで監視し、電話連絡。 (b) 約15秒毎にヘルスチェック。異常検知時120分おきにメール連絡。 (c)サーバーから約50秒毎に死活監視を実施。切断時にはメールで通知。 (d)サーバーから15秒毎に送信する死活監視用の電文の送信と、65秒毎に端末から送信される死活監視用の電文受信で死活監視を行う。利用者に対して電話等で通知(24時間体制)。 (e)サーバーでは接続状態は確認できない。	(a)(b)通常なし。端末毎にテスト報の配信が可能。 (c)端末毎に本物、訓練の配信が可能。 (d)個別配信はできない。 (e)個別配信はできない。	(a)(b) 2 (c) 1: 利用者がユーザ用Web画面から指定することで可能。 (d) 2: 端末から指定することで可能。 (e) x	(a)(b)保存 (c)最低1年間保存 (d)全ての端末との接続履歴、配信履歴を保存している。保存期間は無期限。 (e)配信履歴を保存している。	(a)(b)受信サーバー・各種配信サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している。 (c)サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ2回線を使って(論理4回線、物理2回線)気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している。 (d)サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ2回線を使って(論理4回線、物理2回線)気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している。	(a)(b) 無停電化されたデータセンター内に設置 (c)停電発生確率が極めて低いデータセンターに設置。停電時にはデータセンターの無停電装置がバックアップ。 (d) 無停電化されたデータセンター内に設置 (e)配信センターは2系統の商用電源を受電、CVDFや発動発電機も備え、インストッブで電源供給可能。また、配信サーバーなど2系統で構成されるものはそれぞれ別の電源系統から供給を行い、万が一問題が発生してもサービス継続されるように考慮。	(a)24時間電話受付。機器保守は別途保守契約による。 (b)日中電話受付。 (c)24時間メール受付。通常は業務時間内に電話で受付。 (d)24時間電話受付。 (e)配信センターでは24時間365日、気象業務支援センターとの接続状態、各種サーバーの状態、衛星回線の状態などを監視し、障害発生時には迅速に対応できる体制。販売代理店による保守サポートを契約可能。
	専用線/IP-VPN/インターネット(ルータ間でインターネットVPNを構築)	対応可能	ウィルス対策、意図しない他者の侵入への対応をサーバー機、ルータ等の通信機器で行っている。	電文が壊れている場合は破棄して再配信しない。フォーマットが正しく古い電文への対応は端末にゆだねる(配信する)。	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	サーバーから約50秒毎に死活監視を実施。切断時にはメールで通知。	端末毎に本物、訓練の配信が可能	2: 端末から指定することで可能。	全ての端末との接続履歴、配信履歴を保存している。保存期間は無期限。	サーバーは2台構成で、各サーバーはそれぞれ2回線を使って(論理4回線、物理2回線)気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している。	無停電化されたデータセンター内に設置	24時間電話受付。端末が故障した場合は、コールスタンバイの予備機との交換が可能。
	専用線・IP-VPN	対応可能	ウィルス対策ソフトを導入済み。	電文が壊れている場合は破棄して再配信しない。フォーマットが正しく古い電文への対応は端末にゆだねる(配信する)。	免震化されたデータセンターに設置	サーバーから約50秒毎に死活監視を実施。切断時にはメールで通知。	端末毎に本物、訓練の配信が可能	1: 利用者がユーザ用Web画面から指定することで可能。	最低1年間保存。	複数台のサーバーでデュアル配信が可能。ロードバランサーにより冗長化されたサーバーからの配信が可能。	停電発生確率が極めて低いデータセンターに設置。停電時にはデータセンターの無停電装置がバックアップ。	24時間メール受付。通常は業務時間内に電話で受付。
CATV網		CATV事業者インフラにより冗長化を考慮。CATV事業者によっては、重要線路における光伝送路の冗長化、線路内の光受信ノードの機器冗長化などで伝送路のルートが冗長化されている場合もある。	ウィルス対策、情報暗号化。端末認証機能あり。	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	CATV事業者の環境によるが、おおよそ耐震固定実施、空調導入済みの良好な環境に設置。	放送型のため、接続確認機能はない。	グループ毎にテスト報の配信が可能。	x	告知放送の放送履歴は緊急地震速報以外の緊急放送や一般放送も含めて1万件保存され、それ以上になると古いものから削除される。	自家発電設備、放送機材無停電化あり。	システムエンジニアによる対応と一部リモート監視機能あり。	
インターネット回線	インターネット回線であるので、網の部分のみ冗長構成である。	ウィルス等の影響を受けにくい独自ソフトウェアを含む構成を使用。	電文が壊れている場合でも電文種別が読めれば配信を行う。古い電文・壊れた電文への対応は主に端末にゆだねる。	耐震固定、冗長電源等装備したサーバーラックに設置されている。	固有端末のハードウェアIDおよび認証情報により接続状況の確認は可能。	個別配信の機能はなし。	x	保存機能あり。	冗長化されている。	無停電電源が装備されている。	コールセンターにて受付(9:00~21:00)。 代替機交換可能。	
情報事務資材株式会社	専用回線、IPVPN、インターネット	可能	Linux Server Security Soft	過去のものや地震動予報に必要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信した場合は破棄し配信や緊急地震速報(業)に用いない。	良好	可能	可能	2	あり	あり	あり	整備されている
	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	整備されている
	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	整備されている

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	配信・許可事業者によるサポート			配信・許可事業者によるサポート		
	利用者に連絡する手段あり	利用者の利用方法の把握	気象庁から端末までの配信経路を公開	サーバー端末間の通信手順やデータフォーマットを公開 公開する:○ 公開しない:×	利用者からの配信状況問い合わせに対応可能	ガイドラインに記された必須項目を全て満たした場合にはその旨を公開
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	・ 気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等をメールで連絡 ・ 大きい地震の場合当日(または翌日)速報を送付 ・ 毎月ニュースレターを送付	販売時も事後も利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用についてご案内	利用者に対する配信経路は一経路のみ。 気象業務支援センター → ANET → 顧客	×	24時間、緊急地震速報や自社ソフトウェア等の専門的な知識を有する職員が対応可能(夜間はコールセンタ取次ぎ)	(ガイドライン制定時には対応予定) 現状は既に明示している
株式会社エイツー	気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等をメールで連絡	エイツーは把握していない 代理店によっては運用までサポート可	気象業務支援センター → HomeSeismoデータセンター(株式会社エイツー) → 緊急地震速報受信端末(HomeSeismo HS301) Webサイトに明示している。 別途契約で、気象業務支援センター → HomeSeismo再配信サーバー(契約者) → 緊急地震速報受信端末(HomeSeismo HS301)も可。	△:公開可能なものは公開する。 セキュリティ上公開できないものもあり。	平日9時30分～17時までの対応	(ガイドライン制定時には対応予定)
	各端末の設置場所の連絡先を所有(主にマンション設置のため管理会社、管理人室) 端末メンテナンス時などは管理会社経由で入居者への告知を書面で行う。	弊社が端末を導入後、ユーザーが設定変更などはできない。 ※端末メンテナンス等はシーフアイプが実施。	マンション入居説明会などで入居者へ説明。 気象業務支援センター→株式会社シーフアイプ→緊急地震速報受信端末(EQ-RV10)	△:公開可能なものは公開する。 セキュリティ上公開できないものもあり。	ユーザー専用問い合わせ窓口を用意。08:00-23:00 365日対応。	(ガイドライン制定時には対応予定)
株式会社先端力学シミュレーション研究所	(a/b)気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等をメールで連絡。大きい地震の場合、当日(または翌日)速報を送付。毎月ニュースレターを送付。 (c)顧客専用のマージンリストを作成して、気象庁からの情報を配信。 (d)気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等を電話・メールで連絡。 (e)気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等を電話・メール・サービス専用WEBで連絡。	(a/b)販売時も事後も利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用についてご案内。 (c)顧客導入時に、顧客毎に管理表を作成して利用形態を把握。 (d)端末設置時に利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用について助言を実施。 (e)サービス契約時に利用者の利用形態を把握し、必要に応じて緊急地震速報の適切な利用について、助言を実施。	(a/b)利用者に対する配信経路は一経路のみ。気象業務支援センター→ANET→端末 (c)利用者に対する配信経路は一経路のみ。気象業務支援センター→リアルタイム地震情報利用協議会→端末。配信構成図を渡して明示。 (d)利用者に対する配信経路は1経路のみ。気象業務支援センター→アイテック阪急阪神(株)→Quick-i。取扱説明書に明示。 (e)利用者に対する配信経路は一経路のみ。気象業務支援センター→スカパーJSAT(株)→衛星受信機→端末。サービス専用WEBや取扱説明書に明示。	(a)-(e):○:秘密保持契約の上、配信事業者より手順・フォーマットが公開されている。	(a)24時間緊急地震速報の専門的知識を有する職員が対応可能。夜間はコールセンターで取次ぎ。 (b)日中、緊急地震速報の専門的知識を有する職員が対応可能。 (c)保守専用員が電話対応。 (d)24時間緊急地震速報や端末の専門的知識を有する職員が対応可能。 (e)代理店経由、24時間配信状況の問い合わせに対応。サービス専用WEBでは常時、配信状況を公開。	ガイドライン制定時には対応予定。
	(a/b)気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等をメールで連絡。大きい地震の場合、当日(または翌日)速報を送付。毎月ニュースレターを送付。 (c)顧客専用のマージンリストを作成して、気象庁からの情報を配信。 (d)気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等を電話・メールで連絡。 (e)気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等を電話・メール・サービス専用WEBで連絡。	(a/b)販売時も事後も利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用についてご案内。 (c)顧客導入時に、顧客毎に管理表を作成して利用形態を把握。 (d)端末設置時に利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用について助言を実施。 (e)サービス契約時に利用者の利用形態を把握し、必要に応じて緊急地震速報の適切な利用について、助言を実施。	(a/b)利用者に対する配信経路は一経路のみ。気象業務支援センター→ANET→端末 (c)利用者に対する配信経路は一経路のみ。気象業務支援センター→リアルタイム地震情報利用協議会→端末。配信構成図を渡して明示。 (d)利用者に対する配信経路は1経路のみ。気象業務支援センター→アイテック阪急阪神(株)→Quick-i。取扱説明書に明示。 (e)利用者に対する配信経路は一経路のみ。気象業務支援センター→スカパーJSAT(株)→衛星受信機→端末。サービス専用WEBや取扱説明書に明示。	(a)-(e):○:秘密保持契約の上、配信事業者より手順・フォーマットが公開されている。	(a)24時間緊急地震速報の専門的知識を有する職員が対応可能。夜間はコールセンターで取次ぎ。 (b)日中、緊急地震速報の専門的知識を有する職員が対応可能。 (c)保守専用員が電話対応。 (d)24時間緊急地震速報や端末の専門的知識を有する職員が対応可能。 (e)代理店経由、24時間配信状況の問い合わせに対応。サービス専用WEBでは常時、配信状況を公開。	ガイドライン制定時には対応予定。
	気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等を電話・メールで連絡。	端末設置時に利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用について助言を実施。	利用者に対する配信経路は1経路のみ。気象業務支援センター→アイテック阪急阪神(株)→Quick-i。 取扱説明書に明示するとともに、気象業務支援センターとアイテック阪急阪神の間の接続状態についても端末PC画面に表示。これにより、緊急地震速報を受信できる状態であるか否かが分かる。	○:秘密保持契約の上、配信事業者より手順・フォーマットが公開されている。	24時間緊急地震速報や端末の専門的知識を有する職員が対応可能。	ガイドライン制定時には対応予定。
	顧客専用のマージンリストを作成して、気象庁からの情報を配信。	導入時に利用形態を把握。設置工事まで一貫して行うため、先に接続される機器についても把握している。	利用者に対する配信経路は一経路のみ。気象業務支援センター→リアルタイム地震情報利用協議会→端末。配信構成図を渡して明示。	○:秘密保持契約の上、配信事業者より手順・フォーマットが公開されている。	保守専用員が電話対応。	ガイドライン制定時には対応予定
	気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等を通知している。	端末設置時に把握できている。	利用者に対する配信経路は、CATV事業者ごとに異なるが、1つのCATV事業者につき一経路のみ。気象業務支援センター→CATV事業者→端末、または気象業務支援センター→スカパーJSAT→CATV事業者→端末	×	平日日中の対応可能。	ガイドライン制定時には対応予定
	あり(電話、郵送、端末の画面表示が可能)	データベースにて管理。ただし、端末は外部出力機能を持たないため、端末からの報知以外の用途には使用できない。	利用者に対する配信経路は、一経路のみ。気象業務支援センター→ウェザーニューズ→端末 現状では取扱説明書には記載なし。	○:秘密保持契約の上、配信事業者より手順・フォーマットが公開されている。	配信記録の確認等の問い合わせはコールセンターで対応。	ガイドライン制定時には対応予定
情報事務資材株式会社	あり	把握	明示	×	可能	明示する
	あり	把握	明示	N/A	可能	明示する
	あり	把握	明示	N/A	可能	明示する

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	端末	製造者(製造元)	製品名	型番 (ソフトウェアの場合はバージョン管理番号)	製造年月日	製品の用途 A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御 C 端末の報知による人の危険回避	演算方式	受信装置の種類	価格		その他		(1) 端末基礎機能
									販売価格	通信費等運営費(月間)	製品紹介ホームページURL	(備考)	サーバーとの接続監視、通信障害の検知
株式会社ANET	1	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社・三菱スペース・ソフトウェア株式会社	緊急地震速報受信・通報システム	タイプA・タイプB・タイプS	2006年08月～	A	端末予報型	サーバシステム一式 (LinuxまたはWindows向けソフト内蔵)	数百万円程度 (システム込み)	2.5万円 (配信費用月額 回線別)	http://www.anetr.net/		約15秒おきヘルスチェック 24時間コールセンター等で監視 電話連絡
	2	株式会社ANET	EQMessenger DX	ver.2	2009年10月～	A	端末予報型	サーバシステム・Windows向けソフト (システム販売前提)	百数十万円程度 (システム込み)	2.5万円 (配信費用月額 回線別)	http://www.anetr.net/	http://www.anetr.net/service/ew/receive/soft.html	約15秒おきヘルスチェック 24時間コールセンター等で監視 電話連絡
	3	株式会社ANET	EQMessenger 7	ver.2	2009年10月～	A	端末予報型	PC・Windows向けソフト (システム販売前提)	数十万円 (システム込み)	2.5万円 (配信費用月額 回線別)	http://www.anetr.net/	http://www.anetr.net/service/ew/receive/soft.html	約15秒おきヘルスチェック 24時間コールセンター等で監視 電話連絡
	4	株式会社ANET	EQMessenger Standard	ver.2	2008年10月～	C	端末予報型	PC・Windows向けソフト	定価 4万円 (ソフトのみ)	0.6万円 (配信費用月額 回線別)	http://www.anetr.net/	http://www.anetr.net/service/ew/receive/soft.html	約15秒おきヘルスチェック 120分おきメール連絡
	5	株式会社ANET	EQ+	(型番なし)	2009年10月～	A, B, C	配信側サーバにて予測 結果を配信 ※気象情報配信も含む	PC・Windows向けソフト	配信費用を含む	3.0万円 (配信費用月額 回線別)	http://www.anetr.net/	http://www2.anetr.net/index.html	接続が切断される度に画面表示、メール連絡
	6	計算結果配信：株式会社ANET 端末：パトライト株式会社	FTE-ANT	(型番なし)	2007年10月～	A, B, C	配信側サーバにて予測 結果を配信	表示専用端末	端末定価 20万円弱	2.5万円 (配信費用月額 回線別)	http://www.anetr.net/		約15秒おきヘルスチェック 24時間コールセンター等で監視 電話連絡
三菱スペース・ソフトウェア株式会社	1	パトライト株式会社	FTE-MJ	N/A	2007年10月～	A, B, C	サーバ予報型	緊急地震速報専用端末	オープン価格	販売店による	http://www.patlite.jp/download/PATLITE_FTE-D04_2224H.pdf		サーバーから端末に向けて15秒毎に送信される死活監視データを監視。切断したときは液晶画面にて表示
	2	明星電気株	QCAST 受信ユニット	S740-MJ (Ver2.0.6)	2008年1月31日～	A, C	サーバ予報型	緊急地震速報専用端末 (再配信あり)	N/A	配信事業者による 保守費用は別途	http://www.meisei.co.jp/special/qcast/ http://www.meisei.co.jp/products/earthq/s740.html	製造中止予定なし	端末及びサーバ相互に設定時間 (デフォルト60秒) 毎に死活監視を行い、切断したときは表示、メール通知、接点出力。
明星電気株式会社	1	明星電気株	QCAST 受信ユニット	S740 (Ver2.0.6)	2008年1月31日～	A, C	端末予報型	緊急地震速報専用端末 (再配信あり)	標準価格 33万円	配信事業者による 保守費用は別途	http://www.meisei.co.jp/special/qcast/ 及び http://www.meisei.co.jp/products/earthq/s740.html	製造中止予定なし	端末及びサーバ相互に設定時間 (デフォルト60秒) 毎に死活監視を行い、切断したときは表示、メール通知、接点出力。
	2	明星電気株	QCAST 受信装置	S704-FC2 (Ver3.0.2)	2004年2月1日～	A, C	端末予報型	緊急地震速報専用端末 (再配信あり)ソフトハード一体	標準価格 210万円	配信事業者による 保守費用は別途	http://www.meisei.co.jp/special/qcast/ http://www.meisei.co.jp/products/earthq/s704.html	製造中止予定なし	端末及びサーバ相互に設定時間 (デフォルト60秒) 毎に死活監視を行い、切断したときは表示、メール通知、接点出力。
	3	明星電気株	QCAST 警報ユニット	S705 (~Ver4.2.9)	2004年2月1日～	A, C	端末予報型	緊急地震速報専用端末	標準価格 98万円	配信事業者による 保守費用は別途	なし	H.20年3月製造中止	端末及びサーバ相互に設定時間 (デフォルト60秒) 毎に死活監視を行い、切断したときは表示、メール通知、接点出力。
株式会社ハレックス	1	(株)ハレックス	緊急地震速報提供システム “なまずきん”	Ver. 3.36	2010年3月31日	A, B, C	端末予報型	緊急地震速報専用端末	210,000円 (基本構成、3年保守契約の場合)	75,000円 (基本構成、3年契約)	http://www.halex.co.jp/halexbrain/earthquake/index.html		センターサーバから端末に向けて30秒ごとに死活監視を行い、切断したときは画面に表示
	2	(株)パトライト	FTE-D04型	N/A	N/A	A, C	サーバ予報型	緊急地震速報表示端末	N/A	N/A	http://www.patlite.jp		センターサーバからサーバに向けて30秒ごとに死活監視を行い、切断したときは画面に表示
	3	(株)ハレックス	なまずきん Desktop	Ver.4.1.1.0(OON), Ver.4.1.1.1(FLETS)	2009年6月24日	C	端末予報型	汎用PC (OS: Windows)	該当しない	500円 (月額)	http://www.oon.ne.jp/iishinsokuho/howto/#01		インターネットによる提供のため、監視機能はなし
白山工業株式会社	1	白山工業株式会社	表示ソフトウェア	KS-2000H (ver.1.5)	2009年10月1日	B, C	端末予報型	ウィンドウズ用のソフトウェア	N/A	N/A	http://www.hakusan.co.jp/kinkyu-iishin/pdf/cat_ks-2000h.pdf		ソフトから受信端末 (KB-2000Tなど) に対して10秒ごとに死活監視を行い、異常時には画面で通知。
	2	白山工業株式会社	緊急地震速報受信機	KB-2000T・KB-2100T (ver.1.5) KB-2000J・KB-2100J (ver.1.5) SB-2000・SB-2100 (ver.1.5) KB-3000 (ver.2.0) + KB-1100 (ver.2.0) ※KB-3000 (再配信サーバ) とKB-1100 (接点制御端末) はセットで使用	2000シリーズ：2009年11月30日 2100シリーズ：2009年11月30日 KB-3000・KB-1100：2009年10月7日	A, B, C	端末予報型	緊急地震速報専用端末	N/A	N/A	http://www.hakusan.co.jp/kinkyu-iishin/products/index.shtml		死活監視の間隔は配信事業者のサービスに依存するが、端末側ではサーバとの接続が切断された場合にLEDの点滅および接点出力にて通知可能。

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(1) 端末基礎機能											
	受信してから0.2秒以内に報知または制御を開始	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合の対処方法	動作履歴の保存	耐震固定等地震の揺れへの対策が可能	自己診断機能	外部出力機能	音声や表示による報知機能		テスト報により試験ができること	端末単独で外部出力の試験ができること	端末単独で外部出力の試験機能 を有している: ○ 有していない: ×	訓練報により訓練支援の報知ができる: ○ できない: ×
							予測震度及び猶予時間の伝達* 1	画面表示やライトなど(具体的な報知内容を記述のこと)				
株式会社ANET	○	動作しない	○	耐震固定器具を使用	切断時画面表示あり	あり 別途接続装置必要	○	画面表示、別途表示灯等	該当しない	○	○	×
	○	動作しない	○	耐震固定器具を使用	切断時画面表示あり	あり 別途接続装置必要	○	画面表示、別途表示灯等	任意時刻テスト電文(申込制)によるセルフ訓練可能	○	○	×
	○	動作しない	○	耐震固定器具を使用	切断時画面表示あり	あり 別途接続装置必要	○	画面表示、別途表示灯等	任意時刻テスト電文(申込制)によるセルフ訓練可能	○	○	×
	○	動作しない	なし	耐震固定器具を使用	切断時画面表示あり	なし	○	画面表示、別途表示灯等	該当しない	○	○	×
	○	動作しない	○	耐震固定器具を使用	切断時画面表示あり	あり 別途接続装置必要	○	画面表示、別途表示灯等	該当しない	○	○	×
	○	動作しない	なし	壁掛け用のねじ止めあり	切断時画面表示あり	あり 接続装置内蔵 4 接続	○	画面表示、別途表示灯等	任意時刻テスト電文(申込制)によるセルフ訓練可能	○	○	×
三菱スペース・ソフトウェア株式会社	○	端末としては、配信サーバーから専用のプロトコルで送信された情報を受信すると、必ず地震速報を報知します。よって、不正な地震速報は、配信サーバー側で不正と判断し、送信しないことにより、端末では受信せず、動作しないこととなります。	あり、20電文まで保存可。	壁掛け用のねじ止めあり	切断時、時刻合わせ失敗時等、液晶画面にメッセージを表示	あり、接続数4、接続毎に震度、タイミングの指定が可能。	液晶画面: 予測震度と猶予時間 音声: 猶予時間のみ(デフォルト)	端末自体が備えているLEDランプ、液晶画面、後付音声による伝達	○: テスト電文を受けて接続信号として出力することが可能。	○: 制御対象機器を接続しておけば、テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連のテストを実施することが可能	○: 本体機能に単独で動作するデモモードがあり、実際に受信する地震速報を設定し、端末単独で訓練報知可能。 その際に外部出力リレーの制御設定をしていけば、端末単独でリレー(外部出力)を制御します。	○: 配信サーバーから訓練報を地震速報として送信され、端末で受信することにより、訓練報により訓練支援の報知が可能となります。
	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文はログは残すが動作しない。	あり、保存情報は以下の通り (a) 電文データ (b) 上位サーバ通信履歴 (c) 演算結果 (d) エラー (e) 操作、接続出力、動作履歴など (f) 過去地震 (g) 再配信状態 (h) メール送信 (i) その他 IP-V6状態記録)	壁かけ用金具とのねじ止めあり	あり: 通信障害時には、表示、接続出力、停電時にLED表示、その他のエラー、時刻情報未受信では、表示及びメール通知	あり: 接続数8 接続毎に震度、時間の範囲設定可 キャンセル報、通信障害、深発地震津波条件及び訓練報動作の設定可能 メールにより外部通知可能	大型LED表示器及び内蔵スピーカにより、推定震度及び猶予時間を文字、音声により伝達する。あいまい表現音声が可能	○: テスト電文を受けて接続信号として出力することが可能。また、個別の設定により出力しないことも可能。	○: テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連のテスト機能を行うことが可能。	○	○	
明星電気株式会社	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文はログは残すが動作しない。	あり、保存情報は以下の通り (a) 電文データ (b) 上位サーバ通信履歴 (c) 演算結果 (d) エラー (e) 操作、接続出力、動作履歴など (f) 過去地震 (g) 再配信状態 (h) メール送信 (i) その他 IP-V6状態記録)	壁かけ用金具とのねじ止めあり	あり: 通信障害時には、表示、接続出力、停電時にLED表示、その他のエラー、時刻情報未受信では、表示及びメール通知	あり: 接続数8 接続毎に震度、時間の範囲設定可 キャンセル報、通信障害、深発地震津波条件及び訓練報動作の設定可能 メールにより外部通知可能	大型LED表示器及び内蔵スピーカにより、推定震度及び猶予時間を文字、音声により伝達する。あいまい表現音声が可能	○: テスト電文を受けて接続信号として出力することが可能。また、個別の設定により出力しないことも可能。	○: テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連のテスト機能を行うことが可能。	○	○	
	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文はログは残すが動作しない。	あり、保存情報は以下の通り (a) 電文データ (b) 上位サーバ通信履歴 (c) 演算結果 (d) エラー (e) 操作、接続出力、動作履歴など (f) 過去地震 (g) 再配信状態 (h) メール送信	要望によりPCの耐震固定器具を使用	あり: 通信障害時には、表示、接続出力、その他のエラー、時刻情報未受信では、表示及びメール通知	あり: 接続数16 接続毎に震度、時間の範囲設定可 キャンセル報、通信障害、深発地震津波条件及び訓練報動作の設定可能 メールにより外部通知可能	文字、音声による伝達に加え、震動から地震波が伝わる様子のアニメーション表示機能あり 別ウインドウにより最大200地点の推定結果の表示が可能	○: テスト電文を受けて接続信号として出力することが可能。また、個別の設定により出力しないことも可能。	○: テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連のテスト機能を行うことが可能。	○	○	
	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	あり、保存情報は以下の通り (a) 電文データ (b) 上位サーバ通信履歴 (c) 演算結果 (d) エラー (e) 操作、接続出力、動作履歴など (f) 過去地震	壁かけ用金具とのねじ止めあり	あり: 通信障害時には、表示、接続出力、その他のエラー、時刻情報未受信で表示	あり: 接続数8 接続毎に震度、時間の範囲設定可 キャンセル報、通信障害、深発地震津波条件及び訓練報動作の設定可能	大型LED表示器及び内蔵スピーカにより、推定震度及び猶予時間を文字、音声により伝達する。あいまい表現による報知を行う。	○: テスト電文を受けて接続信号として出力する	○: テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連のテスト機能を行うことが可能。	×	×	
株式会社ハレックス	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	あり(1ヶ月単位で、容量の許す限り保存が可能)	PCの耐震固定器具を使用	エラーは端末ログに出力。	あり: 接続数8、接続ごとに閾値設定可	文字、音声による伝達に加え、震動から地震波が伝わる様子のアニメーション表示機能あり また、三色灯による警告機能あり	○: テスト電文を受けて接続信号として出力することが可能	○: テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連の機能をテストすることが可能	○	○	
	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	最大20件まで保存	壁かけ用のねじ止めあり	N/A	あり: 接続数4、接続ごとに閾値設定可	端末自体が備えている三色灯、文字、音声による伝達	○: テスト電文を受けて接続信号として出力することが可能	○: テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連の機能をテストすることが可能	○	○	
	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	一部あり、電文受信履歴、エラー履歴をそれぞれのログファイルに保存、それらを見るユーザーインターフェースはない。	契約した個人のPCであるため不明	通信障害時には、回線切断の旨をメイン画面に表示する。	個人PCモニター画面と音声で報知する機能に特化しているため、外部出力はなし	文字、音声による伝達に加え、震動から地震波が伝わる様子のアニメーション表示機能あり	個人PCモニター画面と音声で報知する機能に特化しているため、外部出力はなし	個人PCモニター画面と音声で報知する機能に特化しているため、外部出力はなし	×	○	
白山工業株式会社	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	状況によるが数ヶ月は保存可能。	PCの耐震固定器具を使用	時刻同期の異常、配信が受けられなくなった場合など、異常を表示で通知する機能あり。	ソフトウェアのためなし	文字、音声による伝達に加え、震動から地震波が伝わる様子のアニメーション表示機能あり	○: テスト電文による動作と分かる表示	ソフトウェアのためなし	×	○	
	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	状況によるが数ヶ月は保存可能。	一部の機種でラックマウント金具あり、金具がない物はPC用の耐震ベルトなどで固定。	時刻同期の異常、配信が受けられなくなった場合など、LEDの点滅および接続出力にて通知可能。	2000シリーズ: 8接続 2100シリーズ: 18接続 KB-3000・KB-1100: 18接続 接続ごとに個別に閾値や異常通知などを設定可能	○ (ただし、接続に接続された機器に依存)	○ (ただし、接続に接続された機器に依存)	○: テスト電文を受けて接続信号として出力することが可能。	×: 制御対象機器は、エレベーター放送設備など他社製品のため、確認できるのは弊社側接続出力まで。	○	○

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(1) 端末基礎機能				(2) 地震動予報機能						(3) 報知・制御出力条件設定機能			
	訓練報により訓練用の外部出力を動作できる ○ できない: ×	端末単独で訓練報知できる ○ できない: ×	訓練電文を受信し、報知を確認できること	訓練が実施できる機能を有すること(オペレーターによる訓練も含む)	利用者の特定する場所での震度や到達時間の予想	時刻のズレが日本標準時に対し1秒以内になるよう自動時刻校正	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合は地震動予報を行わない	予報履歴の保存し、利用者が参照可能	気象庁の発表する緊急地震速報の内容等の変更に対応可能	予震震度や猶予時間の開値	緊急地震速報(警報)による動作	報知音の選択	予想した震度や猶予時間の報知表現 具体的な数値を使わない表現にしているか? 利用者側で表示選択できる: ○ していない: ×	緊急地震速報の精度情報による動作
株式会社ANET	×	○	×	○	あり	NTPによる自動校正	動作しない	あり	改修による	震度開値設定 猶予時間がない場合の報知もあり	事前設定	可能	×(高度利用者向けであるため、 具体的表示のみ)	事前設定
	×	○ (ANETサーバからのテスト報も利用可能)	×	○	あり	NTPによる自動校正	動作しない	あり(既存電文全てについて再計算)	改修による	震度開値設定 猶予時間がない場合の報知もあり	接点動作内容任意	可能	×(高度利用者向けであるため、 具体的表示のみ)	固定
	×	○ (ANETサーバからのテスト報も利用可能)	×	○	あり	NTPによる自動校正	動作しない	あり(既存電文全てについて再計算)	改修による	震度開値設定 猶予時間がない場合の報知もあり	音量・接点動作内容任意	可能	×(高度利用者向けであるため、 具体的表示のみ)	固定
	×	○ (ANETサーバからのテスト報も利用可能)	×	○	あり	NTPによる自動校正	動作しない	あり(既存電文全てについて再計算)	改修による	震度開値設定任意 猶予時間がない場合の報知もあり	音量任意	可能	×(高度利用者向けであるため、 具体的表示のみ)	固定
	×	○	×	○	あり	NTPによる自動校正	動作しない	あり	改修による	震度開値設定任意 猶予時間がない場合の報知もあり	音量任意	可能	×(高度利用者向けであるため、 具体的表示のみ)	固定
	×	○ (パナソニック製端末の機能。ANETサーバからのテスト報も利用可能)	×	○	あり	NTPによる自動校正	動作しない	あり 20地震分	配信サーバ側で対応	震度開値設定任意 猶予時間がない場合の報知もあり	接点動作内容任意	可能	×(高度利用者向けであるため、 具体的表示のみ)	固定
三菱スペース・ソフトウェア株式会社	○ 実際の地震速報受信時の設定で外部出力リレーを動作するように設定しておれば、訓練報を配信サーバ側で実際の地震速報として送信することにより訓練用の外部出力を動作できます。	○ 本体機能に単独で動作するデモモードがあり、実際に受信する地震速報を設定し、端末単独で訓練報知可能。	○	○	あり	NTPによる自動校正を0.5時間毎に実施	端末には予報機能なし	あり 20電文	配信サーバ側で吸収	震度開値設定任意 猶予時間がない場合の報知もあり	(予報)との区別なし	可能	◎	なし
	○	○	○	○ 押しボタンスイッチにより、予め設定された推定震度、猶予時間で訓練可能	あり	①NTPによる自動校正(間隔設定可能) ②規定条件により定時報で校正可能	サーバや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文はログは残すが動作しない。	履歴ファイルを利用者が読み出して参照可能	配信サーバ側で吸収	震度開値による動作設定機能あり 猶予時間がない場合の報知もあり	なし(通信記録のみ)	設定機能あり(デフォルトはNHK音)	◎	設定機能あり(デフォルトは、1地点の緊急地震速報は使用しない)
明星電気株式会社	○	○	○	○ 押しボタンスイッチにより、予め設定された推定震度、猶予時間で訓練可能	あり	①NTPによる自動校正(間隔設定可能) ②規定条件により定時報で校正可能	サーバや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文はログは残すが動作しない。	履歴ファイルを利用者が読み出して参照可能	あり:メモリーカード又は通信回線経由でソフトウェアの更新が可能。対応条件は別途	震度開値による動作設定機能あり 猶予時間がない場合の報知もあり	なし(通信記録のみ)	設定機能あり(デフォルトはNHK音)	◎	設定機能あり(デフォルトは、1地点の緊急地震速報は使用しない)
	×	○	○	○ 予め設定した地震情報により訓練可能	あり	①NTPによる自動校正(間隔設定可能) ②規定条件により定時報で校正可能	サーバや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文はログは残すが動作しない。	履歴ファイル(任意設定件数)を参照可能	あり:ソフトウェアの更新が可能。対応条件は別途	震度開値による動作設定機能あり 猶予時間がない場合の報知もあり	なし(通信記録のみ)	設定機能あり(デフォルトはNHK音)	◎	設定機能あり(デフォルトは、1地点の緊急地震速報は使用しない)
	×	×	○ (但し、動作は通常の地震)	×	あり	①NTPによる自動校正(間隔設定可能) ②規定条件により定時報で校正可能	サーバや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文はログは残すが動作しない。	履歴ファイルを利用者が読み出して参照可能	あり:通信回線経由又はメモリーカードでソフトウェアの更新が可能。対応条件は別途	震度開値による動作設定機能あり 猶予時間がない場合の報知もあり	なし(通信記録のみ)	設定機能あり(デフォルトはNHK音)	○	設定機能あり(デフォルトは、1地点の緊急地震速報は使用しない)
株式会社ハレックス	○	○	○	○	あり	NTPによる自動校正を行う。	サーバや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去のものや動作の判断に必要な重要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信しても地震動予報を行わない	あり:設定値分(デフォルト:3,000)を保存	あり:通信回線経由でソフトウェアのバージョンアップが可能。無償。	設定機能あり(デフォルトは0だが、運用開始に際しては、個々のユーザと打ち合わせの上、最適な値に設定する) 猶予時間がない場合の報知もあり	設定機能あり(デフォルトは動作なし)	設定機能あり(デフォルトは当社独自音)	◎	設定機能あり(デフォルトは、1地点の緊急地震速報は使用しない)
	N/A	○	○	○	あり	NTPによる自動校正を行う。	サーバや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去のものや動作の判断に必要な重要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信しても地震動予報を行わない	N/A	不可	製造元の仕様による	製造元の仕様による	製造元の仕様による	N/A	製造元の仕様による
	×	×	○	○	あり	NTPによる自動校正を行う。	サーバや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去のものや動作の判断に必要な重要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信しても地震動予報を行わない	予報履歴はない。電文受信のためのユーザーインターフェイスはない。	あり:通信回線経由でソフトウェアの自動更新が可能。無償。	設定機能あり(デフォルトは0で、運用開始に際して個々のユーザが希望の値に設定する) 猶予時間がない場合の報知もあり	設定機能なし	不可。地震情報や現在地への到達時刻は、言葉による音声にて報知する方式。	◎	動作する。
白山工業株式会社	×	○	○	○	あり	自社製のNTPクライアントソフトを使用	サーバや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	あり。ソフトウェアのメニューにて参照可能。期間はHDDの容量が許す限り。	対応可能。現地でバージョンアップを実施。有償。	設定機能あり。猶予時間がない場合の報知もあり。	設定機能あり。	設定機能あり。	× (どのメーカーでも同じだと思いますが、PC上の画面に震度と猶予時間を表示します)	設定機能あり(デフォルトは、1地点の緊急地震速報は使用しない)。
	○	○	○	○	あり	30分ごとにNTPにて自動校正。衛星の場合は衛星からの時刻パケットにて校正。	サーバや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	あり。端末のWEB画面やログ管理ツールから閲覧可能。状況に応じて数ヶ月は保存可能。	対応可能。現地でバージョンアップを実施。有償。	設定機能あり。猶予時間がない場合の報知もあり。	設定機能あり。	なし。(接点に接続された機器に依存)	◎ (接点の先に接続される機器に依存します)	設定機能あり(デフォルトは、1地点の緊急地震速報は使用しない)。

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(3) 報知・制御出力条件設定機能								配信・許可事業者の通信能力				
	100ガル超え緊急地震速報に対する動作	同一内容の緊急地震速報を複数受信した場合の動作	同一地震について複数回緊急地震速報(業)を受信した場合の動作 緊急地震速報(予報)の続報により緊急地震速報(業)の予想震度が小さくなる・猶予時間も短くなっても報知を変更しない? 変更しない:○ 変更する:×	ある地震の緊急地震速報を受信した後、続けて別の地震の緊急地震速報を受信した場合の動作	深発地震についての緊急地震速報(業)に対する動作	キャンセル報を受信した際の動作	訓練報を受信した際の動作	テスト報を受信した際の動作	気象庁の発表から端末に届くまで1秒未満	気象業務支援センターから事業者のサーバーまでの通信回線の冗長化	サーバーから端末間の論理通信回線の冗長化	複数サーバーから端末に緊急地震速報を同時に配信している:○ していない:×	セキュリティ対策(なりすまし防止等)
株式会社ANET	事前設定	配信側で対応	△(画面表示は最新のもの ただし出力動作は最大のもの)	排他処理機能あり	事前設定	事前設定	なし	なし	○	○	可能	○	専用線・IP-VPN前提
	×	配信側で対応	△(画面表示は最新のもの ただし出力動作は最大のもの)	排他処理機能あり	なし	なし	なし	通常と同じ	○	○	可能	○	独自の暗号化
	×	配信側で対応	△(画面表示は最新のもの ただし出力動作は最大のもの)	排他処理機能あり	なし	なし	なし	通常と同じ	○	○	可能	○	独自の暗号化
	×	配信側で対応	×	排他処理機能あり	なし	なし	なし	なし	○	○	可能	○	独自の暗号化
	×	配信側で対応	△(画面表示は最新のもの ただし出力動作は最大のもの)	排他処理機能あり	なし	なし	なし	通常と同じ	○	○	可能	○	独自の暗号化
	×	配信側で対応	△(画面表示は最新のもの ただし出力動作は最大のもの)	排他処理機能あり	なし	画面表示	なし	通常と同じ	○	○	可能	○	独自の暗号化
三菱スペース・ソフトウェア株式会社	100ガル超え緊急地震速報は、配信サーバから配信されない。	配信側で対応	○	配信サーバ側にて設定可能	深発地震の緊急地震速報は、配信サーバから配信されない。	地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	気象庁より配信される訓練報は、端末へは配信されない。 一方、設定により配信サービスによる訓練報の配信が可能。この場合、端末は緊急地震速報と同じ動作を行う。	テスト報は、端末へは配信されない。	○	N/A	N/A	N/A	N/A
	100ガル超え緊急地震速報は、配信サーバから配信されない。	配信側で対応	設定した震度しきい値により○および×の動作条件が可能	到着順に動作設定に従って処理する	深発地震の緊急地震速報は、配信サーバから配信されない。	有効時間以内のキャンセル報はキャンセル動作 する/しない設定可(デホルト「する」) キャンセル動作を以下に示す ・表示消灯、音声停止 ・キャンセル音声 ・動作接点解除 ・キャンセル接点出力 ・ログ記録 ただし、同時刻に複数の地震発生の場合キャンセル報を原則受け付けない。	気象庁より配信される訓練報は、端末へは配信されない。 一方、設定により配信サービスによる訓練報の配信が可能。この場合、端末は緊急地震速報と同じ動作を行う。	テスト報は、端末へは配信されない。	○	N/A	N/A	N/A	N/A
明星電気株式会社	報知/制御出力しない	通信ログに記録するのみ	設定した震度しきい値により○および×の動作条件が可能	到着順に動作設定に従って処理する	設定機能あり(デフォルトは通常動作と同じ)	有効時間以内のキャンセル報はキャンセル動作 する/しない設定可 デホルト「する」 キャンセル動作を以下に示す ・表示消灯、音声停止 ・キャンセル音声 ・動作接点解除 ・キャンセル接点出力 ・ログ記録 ただし、同時刻に複数の地震発生の場合キャンセル報を原則受け付けない。	設定機能あり(デフォルトは動作しない設定。動作する設定では、訓練報を受けた際には報知音の後「これは訓練報です。地震ではありません。」を報知し、推定震度、猶予時間の表示を行う)制御接点は個別に動作設定が可能	配信事業者により下記2つに分かれます ・動作テストアナウンス ・通常地震アナウンス	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない
	報知/制御出力しない	通信ログに記録するのみ	設定した震度しきい値により○および×の動作条件が可能	到着順に動作設定に従って処理する	設定機能あり(デフォルトは通常動作と同じ)	有効時間以内のキャンセル報はキャンセル動作 する/しない設定可 デホルト「する」 キャンセル動作を以下に示す ・表示消灯、音声停止 ・キャンセル音声 ・動作接点解除 ・キャンセル接点出力 ・ログ記録 ただし、同時刻に複数の地震発生の場合キャンセル報を原則受け付けない。	設定機能あり(デフォルトは動作しない設定。動作する設定では、訓練報を受けた際には報知音の後「これは訓練報です。地震ではありません。」を報知し、推定震度、猶予時間の表示を行う)制御接点は個別に動作設定が可能	配信事業者により下記2つに分かれます ・動作テストアナウンス ・通常地震アナウンス	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない
	設定機能あり(デフォルトは、報知/制御出力しない)	通信ログに記録するのみ	設定した震度しきい値により○および×の動作条件が可能	到着順に動作設定に従って処理する	設定機能 なし	有効時間以内のキャンセル報はキャンセル動作 する/しない設定可 デホルト「する」 キャンセル動作を以下に示す ・表示消灯、音声停止 ・キャンセル音声 ・動作接点解除 ・キャンセル接点出力 ・ログ記録	設定機能あり。デフォルトは動作しない動作する設定では通常地震動	配信事業者により下記2つに分かれます ・動作テストアナウンス ・通常地震アナウンス	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない
株式会社ハレックス	設定機能あり(デフォルトは、使用しない)	排他処理機能あり	○	入電順に表示	設定機能あり(デフォルトは動作する)	発表表示の情報に対してのみ動作する。	設定機能あり(デフォルトは動作しない設定。動作する設定では、実際の地震の際と同じ動作)	設定機能あり(デフォルトは動作しない設定。動作する設定では、実際の地震の際と同じ動作)	○	○	対応可能	○	N/A
	製造元の仕様による	製造元の仕様による	N/A	製造元の仕様による	製造元の仕様による	製造元の仕様による	製造元の仕様による	製造元の仕様による	○	○	対応可能	×	N/A
	動作する。	排他処理機能あり。コードに書き込まれているのでユーザは変更できない。	○	地震IDが異なり、現在報知中の地震到達予測が10秒以内で無く、フィルタリング条件を満たせば新着の地震情報を報知する。	設定機能なし。700kmより深い場合は深さ700kmとして計算続行。変更可能。	動作する。	動作する。	動作する。	以下の事項については、配信事業者であるNTTコミュニケーションズの所掌	N/A	N/A	×	N/A
白山工業株式会社	受信履歴に文字にて震源情報のみ表示。画面には使用しない。	下記の多重地震に順ずる。	×	予測震度が大きい・猶予時間が短い。のいずれかを報知。完了後、別の地震の緊急地震速報を報知。	震源情報とEBIを表示。震度計算は行わない。	既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	設定機能あり。(デフォルトは動作しない設定。動作する設定では、訓練報を受けた際は、画面上に「訓練」と表示)。	訓練報に同じ。ただし画面上に「テスト」と表示。ここで「テスト報」とは識別符20を指す。	該当しない	該当しない	該当しない	N/A	該当しない
	設定機能あり(デフォルトは、使用しない)。	排他処理機能あり。	○	予測震度が大きい・猶予時間が短い。のいずれかを報知。完了後、別の地震の緊急地震速報を制御。	震度計算は行わない。受信ログは残す。	既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	設定機能あり。(デフォルトは動作しない設定。動作する設定では、訓練報を受けた際は、ログに「訓練」と表示)。	訓練報に同じ。ただしログ上に「テスト」と表示。ここで「テスト報」とは識別符20を指す。	該当しない	該当しない	該当しない	N/A	該当しない

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(4) 配信・許可事業者の能力											
	サーバーの機能			サーバーの機能								
	通信回線	サーバーから端末間の物理通信回線の冗長化	セキュリティ対策(ウイルス対策等)	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合は配信等を行わない	設置環境良好(耐震対策等)	端末毎に接続の確認可能	端末毎に個別配信可能	端末毎に利用者の求めに応じて訓練報・テスト報配信可能	配信履歴の保存・管理	冗長化	無停電化	保守体制が整備
株式会社ANET	専用線・IP-VPN	ほとんどの場合実施	高度セキュリティ確保済みのデータセンター	行わない	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	約15秒おきヘルスチェック 24時間コールセンター等で監視電話連絡	通常なし	×	保存	受信サーバー・各種配信サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している	データセンターの機能十分	24時間電話受付 機器保守は別途保守契約による
	専用線・IP-VPN推奨 固定IP	実施	高度セキュリティ確保済みのデータセンター	行わない	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	約15秒おきヘルスチェック 24時間コールセンター等で監視電話連絡	お客様申し込み可能なテスト報	2	保存	受信サーバー・各種配信サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している	データセンターの機能十分	24時間電話受付 機器保守は別途保守契約による
	専用線・IP-VPN推奨 固定IP	実施	高度セキュリティ確保済みのデータセンター	行わない	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	約15秒おきヘルスチェック 24時間コールセンター等で監視電話連絡	お客様申し込み可能なテスト報	2	保存	受信サーバー・各種配信サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している	データセンターの機能十分	24時間電話受付 機器保守は別途保守契約による
	安定した回線 固定IP不要	実施	高度セキュリティ確保済みのデータセンター	行わない	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	約15秒おきヘルスチェック 120分おきメール連絡	通常なし	×	保存	受信サーバー・各種配信サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している	データセンターの機能十分	日中電話受付 作業はお客様による
	安定した回線 固定IP不要	実施	高度セキュリティ確保済みのデータセンター	行わない	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	接続が切断される度に画面表示、メール連絡	通常なし	×	保存	受信サーバー・各種配信サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している	データセンターの機能十分	日中電話受付 作業はお客様による
	専用線・IP-VPN推奨 固定IP	実施	高度セキュリティ確保済みのデータセンター	行わない	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	約15秒おきヘルスチェック 24時間コールセンター等で監視電話連絡	お客様申し込み可能なテスト報	2	保存	受信サーバー・各種配信サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している	データセンターの機能十分	24時間電話受付 機器保守は別途保守契約による
三菱スペース・ソフトウェア株式会社	インターネット	N/A	N/A	N/A	耐震化(震度7クラス対応。地震リスク分析においてPML値最高ランク)されたデータセンターに設置。データセンターは、安全確保でゆとりのある電源・空調設備。耐震固定も実施	サーバーから端末の接続・切断状況の確認を所定の間隔で実施。切断継続時、利用者にメールで通知。別途、販売店からの電話サービスもあり。	端末毎に、配信条件(震度しきい値)の設定、配信サービスによる訓練報の設定が可能	N/A	配信履歴の閲覧が可能。また、特に、保存期限は設けない	N/A	データセンターによる24時間365日の電源供給サービス	24時間365日電話受付 代替品確保は、販売店サービスの範疇。機器保守は別途メーカー保守契約による。
	インターネット	N/A	N/A	N/A	耐震化(震度7クラス対応。地震リスク分析においてPML値最高ランク)されたデータセンターに設置。データセンターは、安全確保でゆとりのある電源・空調設備。耐震固定も実施	サーバーから端末の接続・切断状況の確認を所定の間隔で実施。切断継続時、利用者にメールで通知。別途、販売店からの電話サービスもあり。	端末毎に、配信条件(震度しきい値)の設定、配信サービスによる訓練報の設定が可能	N/A	配信履歴の閲覧が可能。また、特に、保存期限は設けない	N/A	データセンターによる24時間365日の電源供給サービス	24時間365日電話受付 代替品確保は、販売店サービスの範疇。機器保守は別途メーカー保守契約による。
明星電気株式会社	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	24時間電話受付 保守サービスメニューにより対応可
	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	24時間電話受付 保守サービスメニューにより対応可
	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	24時間電話受付 保守サービスメニューにより対応可
株式会社ハレックス	専用線/ IP-VPN(8フレットグループアクセスへの対応可)	対応可能	N/A	過去のものや地震動予報に必要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信した場合は廃棄し配信や緊急地震速報(業)に用いない。	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	サーバーから端末の接続・切断状況の確認を30秒ごとに実施。切断時には、利用者に対して10分以内に電話やメール等で通知。	端末ごとに実際の緊急地震速報や訓練、テスト報の配信設定が可能	1	1ヶ月間の端末ごとに配信した結果を保存可能	サーバーは2台1組(フォルトトレラント)の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している。	データセンターへの無停電電源装置の導入により瞬断も生じない。	24時間対応可能。PCが故障したときは、メーカーによる当日4時間対応オンサイト保守により復旧を図る。
	専用線/ IP-VPN(8フレットグループアクセスへの対応可)	対応可能	N/A	過去のものや地震動予報に必要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信した場合は廃棄し配信や緊急地震速報(業)に用いない。	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	サーバーから端末の接続・切断状況の確認を30秒ごとに実施。切断時には、利用者に対して10分以内に電話やメール等で通知。	端末ごとに実際の緊急地震速報や訓練、テスト報の配信設定が可能	1	1ヶ月間の端末ごとに配信した結果を保存可能	サーバーは2台1組(フォルトトレラント)の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している。	データセンターへの無停電電源装置の導入により瞬断も生じない。	24時間対応可能。PCが故障したときは、メーカーによる当日4時間対応オンサイト保守により復旧を図る。
	N/A	N/A	N/A	過去のものや地震動予報に必要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信した場合は廃棄し配信や緊急地震速報(業)に用いない。	N/A	N/A	N/A	×	N/A	N/A	N/A	N/A
白山工業株式会社	該当しない	該当しない	該当しない	N/A	該当しない	該当しない	該当しない	N/A	該当しない	該当しない	該当しない	保守会社が数社あり 体制は各社のサービスに依存
	該当しない	該当しない	該当しない	N/A	該当しない	該当しない	該当しない	N/A	該当しない	該当しない	該当しない	保守会社が数社あり 体制は各社のサービスに依存

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	配信・許可事業者によるサポート			配信・許可事業者によるサポート		
	利用者に連絡する手段あり	利用者の利用方法の把握	気象庁から端末までの配信経路を公開	サーバー端末間の通信手順やデータフォーマットを公開 公開する:○ 公開しない:×	利用者からの配信状況問い合わせに対応可能	ガイドラインに記された必須項目を全て満たした場合にはその旨を公開
株式会社 ANET	<ul style="list-style-type: none"> 気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等をメールで連絡 大きい地震の場合当日(または翌日) 速報を送付 毎月ニュースレターを送付 	販売時も事後も利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用についてご案内	利用者に対する配信経路: 気象業務支援センター → ANET → 顧客	×(データフォーマットについては、秘密保持契約締結先には公開)	24時間、緊急地震速報や自社ソフトウェア等の専門的な知識を有する職員が対応可能(夜間はコールセンタ取次ぎ)	(ガイドライン制定時には対応予定) 現状は既に明示している
	<ul style="list-style-type: none"> 気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等をメールで連絡 大きい地震の場合当日(または翌日) 速報を送付 毎月ニュースレターを送付 	販売時も事後も利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用についてご案内	利用者に対する配信経路: 気象業務支援センター → ANET → 顧客	×(データフォーマットについては、秘密保持契約締結先には公開)	24時間、緊急地震速報や自社ソフトウェア等の専門的な知識を有する職員が対応可能(夜間はコールセンタ取次ぎ) および、お客様毎の専用WEBページ	(ガイドライン制定時には対応予定) 現状は既に明示している
	<ul style="list-style-type: none"> 気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等をメールで連絡 大きい地震の場合当日(または翌日) 速報を送付 毎月ニュースレターを送付 	販売時も事後も利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用についてご案内	利用者に対する配信経路: 気象業務支援センター → ANET → 顧客	×(データフォーマットについては、秘密保持契約締結先には公開)	24時間、緊急地震速報や自社ソフトウェア等の専門的な知識を有する職員が対応可能(夜間はコールセンタ取次ぎ) および、お客様毎の専用WEBページ	(ガイドライン制定時には対応予定) 現状は既に明示している
	<ul style="list-style-type: none"> 気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等をメールで連絡 大きい地震の場合当日(または翌日) 速報を送付 毎月ニュースレターを送付 	販売時も事後も利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用についてご案内	利用者に対する配信経路: 気象業務支援センター → ANET → 顧客	×(データフォーマットについては、秘密保持契約締結先には公開)	日中、緊急地震速報や自社ソフトウェア等の専門的な知識を有する職員が対応可能	(ガイドライン制定時には対応予定) 現状は既に明示している
	<ul style="list-style-type: none"> 気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等をメールで連絡 大きい地震の場合当日(または翌日) 速報を送付 毎月ニュースレターを送付 	販売時も事後も利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用についてご案内	利用者に対する配信経路: 気象業務支援センター → ANET → 顧客	×(データフォーマットについては、秘密保持契約締結先には公開)	日中、緊急地震速報や自社ソフトウェア等の専門的な知識を有する職員が対応可能	(ガイドライン制定時には対応予定) 現状は既に明示している
三菱スペース・ソフトウェア株式会社	N/A	N/A	利用者に対する配信経路は一経路のみ。 気象業務支援センター → MSS/MJ@ert → 緊急地震速報受信端末。 販売店が契約時に説明している。	N/A	N/A	N/A
	N/A	N/A	利用者に対する配信経路は一経路のみ。 気象業務支援センター → MSS/MJ@ert → 緊急地震速報受信端末。 販売店が契約時に説明している。	N/A	N/A	N/A
明星電気株式会社	販売店及び営業担当より気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせ等を電話・メールで連絡	販売店及び営業担当は利用者の利用形態の把握に努め、緊急地震速報の適切な利用について、助言を実施	販売店 及び 営業担当より利用者に説明 配信は別途配信事業者との契約による	○	別途配信事業者との契約による	ガイドライン制定時には対応予定
	販売店及び営業担当より気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせ等を電話・メールで連絡	販売店及び営業担当は利用者の利用形態の把握に努め、緊急地震速報の適切な利用について、助言を実施	販売店 及び 営業担当より利用者に説明 配信は別途配信事業者との契約による	○	別途配信事業者との契約による	ガイドライン制定時には対応予定
	販売店及び営業担当より気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせ等を電話・メールで連絡	販売店及び営業担当は利用者の利用形態の把握に努め、緊急地震速報の適切な利用について、助言を実施	販売店 及び 営業担当より利用者に説明 配信は別途配信事業者との契約による	○	別途配信事業者との契約による	N/A
株式会社ハレックス	気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等をメール・電話等で連絡	端末販売時に利用者の利用形態を把握するとともに、緊急地震速報の発信状況や効果、地震に関する話題等をまとめたマンスリーレポートを発行し、ウェブサイトに掲載。	利用者に対する配信経路は一経路のみ。 気象業務支援センター → (株)ハレックス → 緊急地震速報専用端末サービス仕様書に明示している。	○	24時間、緊急地震速報や自社ソフトウェア等の専門的な知識を有する職員が対応可能	ガイドライン制定時には対応可能
	気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等をメール・電話等で連絡	端末販売時に利用者の利用形態を把握するとともに、緊急地震速報の発信状況や効果、地震に関する話題等をまとめたマンスリーレポートを発行し、ウェブサイトに掲載。	利用者に対する配信経路は一経路のみ。 気象業務支援センター → (株)ハレックス → 緊急地震速報専用端末サービス仕様書に明示している。	N/A	24時間、緊急地震速報や自社ソフトウェア等の専門的な知識を有する職員が対応可能	ガイドライン制定時には対応可能
	N/A	緊急地震速報の発信状況や効果、地震に関する話題等をまとめたマンスリーレポートを発行し、ウェブサイトに掲載。	N/A	N/A	N/A	N/A
白山工業株式会社	直販以外は代理店を経由しての連絡となる。	防災センターなどにて画面表示。	問い合わせに応じて開示。ただし配信プロバイダの協力が必要。	N/A	配信プロバイダの協力が必要。	メリットがあれば対応したい。
	直販以外は代理店を経由しての連絡となる。	エレベータ制御、非常放送・業務放送の鳴動、自動ドア制御、など。個別には把握していない。	問い合わせに応じて開示。ただし配信プロバイダの協力が必要。	N/A	配信プロバイダの協力が必要。	メリットがあれば対応したい。

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	端末	製造者(製造元)	製品名	型番 (ソフトウェアの場合はバージョン管理番号)	製造年月日	製品の用途 A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御 C 端末の報知による人の危険回避	演算方式	受信装置の種類	価格		その他		(1)端末基礎機能 サーバーとの接続監視、通信障害の検知
									販売価格	通信費等運営費(月間)	製品紹介ホームページURL	(備考)	
株式会社 小堀輝二 研究所	1	小堀輝二研究所	基幹システム	客先により受注生産	随時	A, C	端末予報型	ウインドウズ用のソフトウェア	仕様により異なる	仕様により異なる	なし	今後の製造予定なし	毎秒の死活監視を行っている。切断は自動的に関係者へメール通知、画面上に表示。プザーを鳴らす仕様も用意されている。
独立行政法人防災 科学技術研究所	1	防災科学技術研究所	緊急地震速報受信システム	V1.0	2008年4月1日	C(ハードソフトを機能追加し、Aの実験は過去に実施)	端末予報型	ウインドウズ用のソフトウェア	N/A	N/A	なし	販売していません。利用実験も、平成22年度までであり、配信も含め、以降は未定。	端末からサーバーに向けて5分毎に死活監視を行い、接続状況を画面背景色で表示。(OK:ベージュ、NG:赤)
アールシーソリュー ション株式会社	1	アールシーソリューション(株)	ゆれくるコール”クライアントアプリケーション	Ver1.0.0	2010年1月18日	A, C	サーバー予報型	ウインドウズ用のソフトウェア	ソフトウェア無償	月額250円の予定	なし		端末からサーバーに向けて50秒毎に死活監視を行い、切断したときは画面に表示。
	2	(株)バトライト	緊急地震速報表示端末	FTE-D04	不明	A, C	サーバー予報型	緊急地震速報専用端末	約15万円	月額3,000円	http://www.palite.co.jp/product/detail.php?i=298	弊社開発の通信装置GM3000を介してサーバーとデータ送受信。GM3000を利用しない場合は、ゆれくるコール”クライアントアプリケーションが必要。	端末からサーバーに向けて50秒毎に死活監視を行い、切断したときはLEDランプの点滅、画面表示でお知らせ。
株式会社ジュピター テレコム	1	DXアンテナ株式会社	緊急告知放送端末装置	RKW30J	2008年1月	C	端末予報型	専用端末(緊急地震速報+簡易告知放送兼用)	なし(レンタルのみ)	480円もしくは800円(税抜) ※端末レンタル費用含む	http://www.dxantenna.co.jp/catalog/pdf/catv/08705.pdf	http://www.jcom.co.jp/services/secure.html	【接続監視】 なし。 【通信障害検知】 受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、音声とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定。
	2	DXアンテナ株式会社	緊急地震速報端末装置	RKW33J	2009年3月	A	端末予報型	専用端末(緊急地震速報+簡易告知放送兼用)	300,000円(定価)	4,500~15,000円(税抜) ※契約者の属性、保守/監視サービスの内容により変動。	なし		【接続監視】 監視サーバーから60秒毎に死活監視を行い、切断された場合は、監視サーバー側で異常と判断する。 ※通信用機器の外付けが必要なため、有料オプション 【通信障害検知】 受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、文字表示「ツウシンインジコウ」とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定
	3	DXアンテナ株式会社	緊急地震速報端末装置	RKW51J	2008年8月	A	端末予報型	専用端末(緊急地震速報+簡易告知放送兼用)	350,000円(定価)	4,500~15,000円(税抜) ※契約者の属性、保守/監視サービスの内容により変動。 ※別途、①通信回線(専用線等)費用が30,000円程度、②サーバー接続料金として100,000円/月が必要。	なし		【接続監視】 監視サーバーから60秒毎に死活監視を行い、切断された場合は、監視サーバー側で異常と判断する。 ※通信用機器の外付けが必要なため、有料オプション 【通信障害検知】 受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、文字表示「ツウシンインジコウ」とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定
	4	DXアンテナ株式会社	緊急地震速報システム受信端末	BFX100	2007年12月	C	端末予報型	専用端末(緊急地震速報+簡易告知放送兼用)	なし(レンタルのみ)	480円もしくは800円(税抜) ※端末レンタル費用含む	なし	http://www.jcom.co.jp/services/secure.html	【接続監視】 なし。 【通信障害検知】 受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、音声とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定。
	5	DXアンテナ株式会社	緊急地震速報システム受信端末	BFX9101	2009年2月	A	端末予報型	専用端末(緊急地震速報+簡易告知放送兼用)	300,000円(定価)	4,500~15,000円(税抜) ※契約者の属性、保守/監視サービスの内容により変動。	なし		【接続監視】 監視サーバーから60秒毎に死活監視を行い、切断された場合は、監視サーバー側で異常と判断する。 ※通信用機器の外付けが必要なため、有料オプション 【通信障害検知】 受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、文字表示「ツウシンインジコウ」とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定
	6	DXアンテナ株式会社	緊急地震速報端末装置	RKW32J	2008年7月	A	端末予報型	専用端末(緊急地震速報+簡易告知放送兼用)	300,000円(定価)	4,500~15,000円(税抜) ※契約者の属性、保守/監視サービスの内容により変動。 ※別途、通信回線(専用線等)費用が30,000円程度必要。	なし		【接続監視】 監視サーバーから60秒毎に死活監視を行い、切断された場合は、監視サーバー側で異常と判断する。 ※通信用機器の外付けが必要なため、有料オプション 【通信障害検知】 受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、文字表示「ツウシンインジコウ」とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定
三洋電機コンシュー マエレクトロニクス 株式会社		三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社	緊急地震速報受信装置	TEL-LANW60 (Ver.1.1.1) TEL-LANT60 (Ver.1.1.1)	2008年6月20日	C	端末予報型	緊急地震速報サービス対応 デジタルコードレス留守番電話機	オープン価格	500円(NTTコミュニケーションズ)	http://products.jp.sanyo.com/products/tel/TEL-LANW60_W/index.html		サーバーと端末間で死活監視を行い、約2分半~3分程度で通信障害を検知可能としている。通信障害発生を検知した場合は端末のLCD画面表示、LEDランプ表示、エラー音鳴動によって利用者へ通知する。

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(1) 端末基礎機能												
	受信してから0.2秒以内に報知または制御を開始	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合の対処方法	動作履歴の保存	耐震固定等地震の揺れへの対策が可能	自己診断機能	外部出力機能	音声や表示による報知機能		テスト報により試験ができること	端末単独で外部出力の試験ができること	端末単独で外部出力の試験機能 を有している: ○ 有していない: ×	訓練報により訓練支援の報知ができる: ○ できない: ×	
							予測震度及び猶予時間の伝達*1	画面表示やライトなど(具体的な報知内容を記述のこと)					
株式会社 小堀輝二 研究所	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	あり、保存期限は基本的にない	PCの耐震固定器具を使用	あり: システムの一部に、監視機能だけを独立したPCを設置し、予報端末・制御装置・表示装置等の異常を自動検知し、自動的に関係者にメールで通報し、画面上に表示する、等を行う。再起動の必要がある場合には、自動的にシステム再起動も行う。	あり: 出力点数は任意、接点毎に閾値設定可	○	文字、ブザー、光点滅による伝達	○: テスト電文を受けて接点信号として出力することが可能	○: テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連のテスト機能を行うことが可能	○	○	
独立行政法人防災 科学技術研究所	○	サーバー側でコードチェックし、正常情報のみ配信	あり(ファイル内行数で制限) ・通信履歴: 最新500件(約2日、件数は最大値、エラー情報ありの場合は、保存件数が減る) ・地震情報受信履歴: 最新5000件(1報1件で履歴保存) ・報知履歴: 最新500件(件数は最大値、エラー情報ありの場合は、保存件数が減る) ・予報履歴: 制限無(1つの地震を1報1報から最終報で1件)として保存)	PCの耐震固定器具を使用。	なし	なし	○	文字、音声による伝達に加え、震央から地震波が伝わる様子のアニメーション表示機能あり	N/A	N/A	×	×	
アールシーソリューション株式会社	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	あり、直近の500kバイトを保存	なし	あり: 障害が発生した旨を画面表示する。	あり、FTE-D04Iに出力可能	○	文字、音声による伝達	○: テスト電文を受けてFTE-D04Iに出力することが可能。	○: テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連のテストを行うことが可能。	○	×	
	○	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	あり、直近の20件を保存	壁かけ用のねじ止めあり	あり: 停電時、時計情報が得られない又は通信異常が発生した旨を画面表示し、LEDを点滅させる。	あり、接点数4、接点毎に閾値設定可	○	端末自体が備えているLEDランプ、文字による伝達	○: テスト電文を受けて接点信号として出力することが可能。	○: テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連のテストを行うことが可能。	○	×	
株式会社ジュビターテレコム	○	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の3データ(3電文)の受信時刻・震度。	壁掛け用のネジ止めあり	受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、音声とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定	なし	○	音声と共に、本体のライトが赤く点滅し、ディスプレイに震度が表示される。	接点出力なし	接点出力なし	○	※接点出力はなし。本体音声出力と発光を行う。	○
	○	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の10地震IDの、最大予測震度と最大予測震度となった報の受信時刻。	壁面固定	①受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、文字表示「ツウシンイジヨウ」とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定 ②予備電源に切り替わった場合に、アラームランプで報知する	あり、閾値(震度3以上で震度毎)設定が可能な3端子と、キャンセル報用1端子。	○	音声・接点出力と共に、ディスプレイに震度が表示される	○: テスト電文を受けて接点信号の出力が可能	○: テスト電文を受けて接点信号の出力が可能	○	○	
	○	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の10地震IDの、最大予測震度と最大予測震度となった報の受信時刻。	壁面固定	①受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、文字表示「ツウシンイジヨウ」とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定 ②予備電源に切り替わった場合に、アラームランプで報知する	あり、閾値(震度3以上で震度毎)設定が可能な3端子と、キャンセル報用1端子。	○	音声・接点出力と共に、ディスプレイに震度が表示される	○: テスト電文を受けて接点信号の出力が可能	○: テスト電文を受けて接点信号の出力が可能	○	○	
	○	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の5データ(5電文)の受信時刻・震度。	壁掛け用のネジ止めあり	受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、音声とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定	なし	○	音声と共に、本体のライトが赤く点滅し、ディスプレイに震度が表示される。	接点出力なし	接点出力なし	○	※接点出力はなし。本体音声出力と発光を行う。	○
	○	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の10地震IDの、最大予測震度と最大予測震度となった報の受信時刻。	壁面固定	①受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、文字表示「ツウシンイジヨウ」とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定 ②予備電源に切り替わった場合に、アラームランプで報知する	あり、閾値(震度3以上で震度毎)設定が可能な3端子と、キャンセル報用1端子。	○	音声・接点出力と共に、ディスプレイに震度が表示される	○: テスト電文を受けて接点信号の出力が可能	○: テスト電文を受けて接点信号の出力が可能	○	○	
	○	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の10地震IDの、最大予測震度と最大予測震度となった報の受信時刻。	壁面固定	①受信装置兼通信装置から60秒に1回送信される自動時刻校正を、n回受信できなかった場合に、文字表示「ツウシンイジヨウ」とアラームランプで報知する。 ※通信装置での一括設定 ②予備電源に切り替わった場合に、アラームランプで報知する	あり、閾値(震度3以上で震度毎)設定が可能な3端子と、キャンセル報用1端子。	○	音声・接点出力と共に、ディスプレイに震度が表示される	○: テスト電文を受けて接点信号の出力が可能	○: テスト電文を受けて接点信号の出力が可能	○	○	
三洋電機コンピュータエレクトロニクス株式会社	○	予報しない。	過去20件分の報知ログ保存機能を有する。また、過去20件分の通信障害ログ保存機能を有する。	壁かけ用のねじ止めあり。	あり: 上記死活監視を含めて障害発生時にはLCD画面表示、LEDランプ表示、エラー音鳴動によって、障害が発生した旨を利用者へ通知する。	あり、スピーカー出力ソケット	○	端末自体が備えているLED画面、LEDランプ、音声ガイダンスによる伝達	○: テスト電文を受けて接点信号として出力することが可能。	○: テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連のテスト機能を行うことが可能。	×	外部出力はありません。	○

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(1) 端末基礎機能				(2) 地震動予報機能				(3) 報知・制御出力条件設定機能					
	訓練報により訓練用の外部出力を動作できる できる:○ できない:×	端末単独で訓練報知できる できる:○ できない:×	訓練電文を受信し、報知を確認できること	訓練が実施できる機能を有すること(オペレーターによる訓練も含む)	利用者の特定する場所での震度や到達時間の予想	時刻のズレが日本標準時に対し1秒以内になるよう自動時刻校正	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合は地震動予報を行わない	予報履歴の保存し、利用者が参照可能	気象庁の発表する緊急地震速報の内容等の変更に対応可能	予測震度や猶予時間の間値	緊急地震速報(警報)による動作	報知音の選択	予想した震度や猶予時間の報知表現 具体的な数値を使わない表現にしているか? 利用者側で表示選択できる: ◎ している:○ していない:×	緊急地震速報の精度情報による動作
株式会社 小堀輝二 研究所	○	○	○	○	あり	NTPによる自動校正を15分毎に実施	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去のものや動作の判断に必要な重要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信しても地震動予報を行わない。	あり、当日は端末の画面にでも参照可能、保存期限は基本的にない	あり、通信回線経由でソフトウェアの更新が可能。内容によりあり。	設定機能あり(設定内容は要求仕様により異なる)猶予時間が無い場合でも報知可能(設定内容は要求仕様により異なる)	デフォルトは対応なし(設定により対応も可能)	設定機能あり(デフォルトはNHKのチャイム音)	◎ している:○ していない:×	設定機能あり(デフォルトは、1地点の緊急地震速報を使用する)
独立行政法人防災科学技術研究所	×	×	未対応	○	あり	ウインドウズの時刻校正機能使用	行いません。(サーバー側で配信しません)	あり、ソフトウェアのメニューにて参照可能。予報履歴の保存件数は制限なし、期間を指定し、日本地図上への震度表示および数値での確認(位置、規模、深さ)が可能。	あり、必要に応じて、ソフトウェアを改造し、CD等で更新ソフトウェアを配布。無償。	設定機能あり(予測震度デフォルト値:4)到達予測時間で報知は消える	設定機能なし(報知しない)	設定機能なし(固定音)	×	設定機能なし
アールシーソリューション株式会社	×	○	○	○	あり	ウインドウズの時刻校正機能使用	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	なし	サーバー予報型のためサーバー側で対応可能	設定機能あり(デフォルトは震度3)猶予時間が無い場合の報知もあり	設定機能なし	設定機能あり(デフォルトはREIC音)	×	設定機能なし
	×	○	○	○	あり	NTPによる自動校正を60分毎に実施	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	あり、端末の画面にて参照可能。	サーバー予報型のためサーバー側で対応可能	設定機能あり(デフォルトは震度3)猶予時間が無い場合の報知もあり	設定機能なし	設定機能なし	×	設定機能なし
株式会社ジュピターテレコム	×	○	○	○	あり	NTPをもとにした受信装置兼通信装置の時刻を、通信装置経由で60秒に1回受信し、自動時刻校正を行う。	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の3データ(3電文)の受信時刻・震度。	ソフトウェアの更新が出来ないため不可。ただし、変更の内容によっては、受信装置兼通信装置(配信元)での対応は可能。	【予測震度】 「震度3以上」もしくは「震度4以上」で選択可能 【猶予時間】 猶予時間がマイナスの場合も、「身を守ってください」などのアナウンスを行う。	なし	不可(REIC音で固定)。	×	機能なし ただし、受信装置兼通信装置での間値設定は可能。
	○	○	○	○	あり	NTPをもとにした受信装置兼通信装置の時刻を、通信装置経由で60秒に1回受信し、自動時刻校正を行う。	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の10地震IDの、最大予測震度と最大予測震度となった報の受信時刻。	ソフトウェアの更新が出来ないため不可。ただし、変更の内容によっては、受信装置兼通信装置(配信元)での対応は可能。	【予測震度】 「震度3以上」もしくは「震度4以上」で選択可能 ※接点出力は、震度3以上で自由に設定可能。 【猶予時間】 猶予時間がマイナスの場合も、「身を守ってください」などのアナウンスを行う。	なし	可(デフォルトはREIC音)。	◎	機能なし ただし、受信装置兼通信装置での間値設定は可能。
	○	○	○	○	あり	NTPをもとにした受信装置兼通信装置の時刻を、通信装置経由で60秒に1回受信し、自動時刻校正を行う。	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の10地震IDの、最大予測震度と最大予測震度となった報の受信時刻。	ソフトウェアの更新が出来ないため不可。ただし、変更の内容によっては、受信装置兼通信装置(配信元)での対応は可能。	【予測震度】 「震度3以上」もしくは「震度4以上」で選択可能 ※接点出力は、震度3以上で自由に設定可能。 【猶予時間】 猶予時間がマイナスの場合も、「身を守ってください」などのアナウンスを行う。	なし	可(デフォルトはREIC音)。	◎	機能なし ただし、受信装置兼通信装置での間値設定は可能。
	×	○	○	○	あり	NTPをもとにした受信装置兼通信装置の時刻を、通信装置経由で60秒に1回受信し、自動時刻校正を行う。	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の5データ(5電文)の受信時刻・震度。	ソフトウェアの更新が出来ないため不可。ただし、変更の内容によっては、受信装置兼通信装置(配信元)での対応は可能。	【予測震度】 「震度3以上」もしくは「震度4以上」で選択可能 ※接点出力は、震度3以上で自由に設定可能。 【猶予時間】 猶予時間がマイナスの場合も、「身を守ってください」などのアナウンスを行う。	なし	不可(REIC音で固定)。	×	機能なし ただし、受信装置兼通信装置での間値設定は可能。
	○	○	○	○	あり	NTPをもとにした受信装置兼通信装置の時刻を、通信装置経由で60秒に1回受信し、自動時刻校正を行う。	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の10地震IDの、最大予測震度と最大予測震度となった報の受信時刻。	ソフトウェアの更新が出来ないため不可。ただし、変更の内容によっては、受信装置兼通信装置(配信元)での対応は可能。	【予測震度】 「震度3以上」もしくは「震度4以上」で選択可能 ※接点出力は、震度3以上で自由に設定可能。 【猶予時間】 猶予時間がマイナスの場合も、「身を守ってください」などのアナウンスを行う。	なし	可(デフォルトはREIC音)。	◎	機能なし ただし、受信装置兼通信装置での間値設定は可能。
	○	○	○	○	あり	NTPをもとにした受信装置兼通信装置の時刻を、通信装置経由で60秒に1回受信し、自動時刻校正を行う。	動作範囲外の過去時間である場合、動作に必要な要素が欠損した電文は無視し動作しない。	動作の有無に関わらず、直近の10地震IDの、最大予測震度と最大予測震度となった報の受信時刻。	ソフトウェアの更新が出来ないため不可。ただし、変更の内容によっては、受信装置兼通信装置(配信元)での対応は可能。	【予測震度】 「震度3以上」もしくは「震度4以上」で選択可能 ※接点出力は、震度3以上で自由に設定可能。 【猶予時間】 猶予時間がマイナスの場合も、「身を守ってください」などのアナウンスを行う。	なし	可(デフォルトはREIC音)。	◎	機能なし ただし、受信装置兼通信装置での間値設定は可能。
三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社	×	○	○	○	あり	NTPによる自動校正を1時間毎に実施する。	予報しない。	あり、過去20件分の地震について保存し、ネットワーク接続したパソコンのブラウザ画面にて参照可能。	あり、通信回線経由でソフトウェアの更新が可能。無償。	設定機能あり(震度3又は震度4を設定可能、初期値は震度3)。猶予時間が無い場合の報知もあり。	設定機能なし(動作しない固定)。	設定機能なし(NHK音固定)。	◎	設定機能なし(1地点の緊急地震速報も使用する固定)。

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(3) 報知・制御出力条件設定機能								配信・許可事業者の通信能力						
	100ガル超え緊急地震速報に対する動作	同一内容の緊急地震速報を複数受信した場合の動作	同一地震について複数回緊急地震速報(業)を受信した場合の動作	緊急地震速報(予報)の続報により緊急地震速報(業)の予想震度が小さくなる・猶予時間も短くなった場合も変更しない? 変更しない:○ 変更する:×	ある地震の緊急地震速報を受信した後、続けて別の地震の緊急地震速報を受信した場合の動作	深発地震についての緊急地震速報(業)に対する動作	キャンセル報を受信した際の動作	訓練報を受信した際の動作	テスト報を受信した際の動作	気象庁の発表から端末に届くまで1秒未満	気象業務支援センターから事業者のサーバーまでの通信回線の冗長化	サーバーから端末間の論理通信回線の冗長化	複数サーバーから端末に緊急地震速報を同時に配信している:○ していない:×	セキュリティ対策(なりすまし防止等)	
株式会社 小堀輝二 研究所	設定機能あり(デフォルトは、使用しない)	排他処理機能あり	×	(予想震度が小さくても報知を変更しないが、猶予時間が短くなる場合には変更する。しかし、館内放送のような予想震度や猶予時間を表現しないものでは変更しない。)	×	予測震度の大きくなった場合、到着予想までの秒数が短くなった場合に報知	別途申請している震度予測方法であり、震度予測可能であるため、報知することが可能	既に放置した地震に対してキャンセル報が出された時のみ動作する	設定機能あり(デフォルトは動作しない設定)	設定機能あり(デフォルトは動作しない設定)	○	(緊急地震速報受信は専用回線ではなく一般回線経由であり、信号伝達もLAN経由である。従って、厳密に言えば、通信の仕組みからして、到達時間の保証は出来ない。しかし、通常は到達時間を満たす。)	○	該当しない (配信者は客先が選定し、契約するものであり、当方の所管外。当方では、気象業務支援センター、NTTコミュニケーションズ、あるいは、IJのサービスから選択して利用することが可能である。)	インターネット配信電文の暗号化
独立行政法人防災科学技術研究所	設定機能なし(但し、マグニチュードがないため、震度0となり報知しない)	排他処理機能なし	○	後の地震を報知	設定機能なし(デフォルトは動作しない)	未対応	設定機能なし(サーバー側で送信に制限をかけているため、送られてこない)	設定機能なし(サーバー側で送信に制限をかけているため、送られてこない)	○	対応可能	対応可能	×	なし		
アールシーソリューション株式会社	設定機能なし	設定機能なし(サーバー側で排他処理を行っている)	○	設定機能なし	設定機能なし(深発地震の場合はサーバー側で処理対象外とする)	設定機能なし(サーバー側で既に報知した地震に対してキャンセル報を出すよう制御)	設定機能なし	設定機能なし	○	×	×	×	×	×	端末認証、配信電文の暗号化
	設定機能なし	設定機能なし(サーバー側で排他処理を行っている)	○	設定機能なし	設定機能なし(深発地震の場合はサーバー側で処理対象外とする)	設定機能なし(サーバー側で既に報知した地震に対してキャンセル報を出すよう制御)	設定機能なし	設定機能なし	○	×	×	×	×	×	端末認証
株式会社ジュビータレコム	キャンセル報と同じ動作を行う。 ※現在は配信事業者側でカット。	受信の都度演算を行う。	×	※予想震度が大きく、もしくは猶予時間が短くなった場合は、アナウンス文言の区切りで情報を更新する。	×	識別IDに関わらず、受信の都度演算を行い、その時点で最も大きな予測震度で報知を行う。	通常の電文と同様に演算・報知する。	報知履歴の有無に関わらず、「先ほどの地震速報は繰り返す」のアナウンスを2回繰り返す。 ※接点出力は、キャンセル報用の主力端子が動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	○	○	○	○	【配信事業者～CATV局】 ①専用線/VPNの場合、回線自体のセキュリティ+両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 ②インターネットの場合、両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 【CATV局～端末】 放送サービスのため、対応不要
	キャンセル報と同じ動作を行う。 ※現在は配信事業者側でカット。	受信の都度演算を行う。	×	※予想震度が大きく、もしくは猶予時間が短くなった場合は、アナウンス文言の区切りで情報を更新する。	×	識別IDに関わらず、受信の都度演算を行い、その時点で最も大きな予測震度で報知を行う。	通常の電文と同様に演算・報知する。	報知履歴の有無に関わらず、「先ほどの地震速報は繰り返す」のアナウンスを2回繰り返す。 ※接点出力は、キャンセル報用の主力端子が動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	○	○	○	○	【配信事業者～CATV局】 ①専用線/VPNの場合、回線自体のセキュリティ+両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 ②インターネットの場合、両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 【CATV局～端末】 放送サービスのため、対応不要
	キャンセル報と同じ動作を行う。 ※現在は配信事業者側でカット。	受信の都度演算を行う。	×	※予想震度が大きく、もしくは猶予時間が短くなった場合は、アナウンス文言の区切りで情報を更新する。	×	識別IDに関わらず、受信の都度演算を行い、その時点で最も大きな予測震度で報知を行う。	通常の電文と同様に演算・報知する。	報知履歴の有無に関わらず、「先ほどの地震速報は繰り返す」のアナウンスを2回繰り返す。 ※接点出力は、キャンセル報用の主力端子が動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	○	○	○	○	【配信事業者～CATV局】 ①専用線/VPNの場合、回線自体のセキュリティ+両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 ②インターネットの場合、両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 【CATV局～端末】 標準では冗長化していないが、要望により対応可。
	キャンセル報と同じ動作を行う。 ※現在は配信事業者側でカット。	受信の都度演算を行う。	×	※予想震度が大きく、もしくは猶予時間が短くなった場合は、アナウンス文言の区切りで情報を更新する。	×	識別IDに関わらず、受信の都度演算を行い、その時点で最も大きな予測震度で報知を行う。	通常の電文と同様に演算・報知する。	報知履歴の有無に関わらず、「先ほどの地震速報は繰り返す」のアナウンスを2回繰り返す。 ※接点出力は、キャンセル報用の主力端子が動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	○	○	○	○	【配信事業者～CATV局】 ①専用線/VPNの場合、回線自体のセキュリティ+両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 ②インターネットの場合、両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 【CATV局～端末】 放送サービスのため、対応不要
	キャンセル報と同じ動作を行う。 ※現在は配信事業者側でカット。	受信の都度演算を行う。	×	※予想震度が大きく、もしくは猶予時間が短くなった場合は、アナウンス文言の区切りで情報を更新する。	×	識別IDに関わらず、受信の都度演算を行い、その時点で最も大きな予測震度で報知を行う。	通常の電文と同様に演算・報知する。	報知履歴の有無に関わらず、「先ほどの地震速報は繰り返す」のアナウンスを2回繰り返す。 ※接点出力は、キャンセル報用の主力端子が動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	○	○	○	○	【配信事業者～CATV局】 ①専用線/VPNの場合、回線自体のセキュリティ+両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 ②インターネットの場合、両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 【CATV局～端末】 放送サービスのため、対応不要
	キャンセル報と同じ動作を行う。 ※現在は配信事業者側でカット。	受信の都度演算を行う。	×	※予想震度が大きく、もしくは猶予時間が短くなった場合は、アナウンス文言の区切りで情報を更新する。	×	識別IDに関わらず、受信の都度演算を行い、その時点で最も大きな予測震度で報知を行う。	通常の電文と同様に演算・報知する。	報知履歴の有無に関わらず、「先ほどの地震速報は繰り返す」のアナウンスを2回繰り返す。 ※接点出力は、キャンセル報用の主力端子が動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	○	○	○	○	【配信事業者～CATV局】 ①専用線/VPNの場合、回線自体のセキュリティ+両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 ②インターネットの場合、両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 【CATV局～端末】 放送サービスのため、対応不要
	キャンセル報と同じ動作を行う。 ※現在は配信事業者側でカット。	受信の都度演算を行う。	×	※予想震度が大きく、もしくは猶予時間が短くなった場合は、アナウンス文言の区切りで情報を更新する。	×	識別IDに関わらず、受信の都度演算を行い、その時点で最も大きな予測震度で報知を行う。	通常の電文と同様に演算・報知する。	報知履歴の有無に関わらず、「先ほどの地震速報は繰り返す」のアナウンスを2回繰り返す。 ※接点出力は、キャンセル報用の主力端子が動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	通常の電文と同様に演算・報知する。ただし、報知の冒頭と最後に「テストです」とアナウンスする。 ※接点出力は、通常の電文と同じ動作。	○	○	○	○	【配信事業者～CATV局】 ①専用線/VPNの場合、回線自体のセキュリティ+両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 ②インターネットの場合、両端のルーターでの限定IPアドレス制御+両端の固有識別子による機器認証、で対応。 【CATV局～端末】 放送サービスのため、対応不要
三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社	設定機能なし(使用しない固定)。	排他処理機能あり。	×			予測震度の大きい方を報知する。	設定機能なし(動作しない固定)。	既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたときにのみ動作する。	設定機能なし(動作する固定)。 訓練報を受けた際にはチャイム音の後に「緊急地震速報テストです」を2回繰り返して報知した後に訓練報の内容による報知を行う。	設定機能なし(動作する固定)。 試験報を受けた際にはチャイム音の後に「緊急地震速報テストです」を2回繰り返して報知した後に試験報の内容による報知を行う。	○	不明	不明	該当しない	不明

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(4) 配信・許可事業者の能力											
			サーバーの機能				サーバーの機能					
	通信回線	サーバーから端末間の物理通信回線の冗長化	セキュリティ対策(ウイルス対策等)	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合は配信を行わない	設置環境良好(耐震対策等)	端末毎に接続の確認可能	端末毎に個別配信可能	端末毎に利用者の求めに応じて訓練報・テスト報配信可能	配信履歴の保存・管理	冗長化	無停電化	保守体制が整備
株式会社 小堀輝二 研究所	専用線/インターネット、ユーザーの希望に応じて対応可能	対応可能	緊急地震速報受信機をLinuxでROMベースのウイルスに侵される危険のない構成とし、同機とサーバーを分離することで、サーバーは外部へ接続されないためセキュリティが確保出来る	(配信者は客先が選定し、契約するものであり、当方の所管外。当方では、気象業務支援センター、NTTコミュニケーションズ、あるいは、IJのサービスから選択して利用することが可能である。)	該当しない	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	サーバーから端末への接続状況の確認を毎秒行っている。管理者に対して、切断時にメールによる通報が自動的に行われる。	端末毎に配信設定が可能	配信履歴をすべて保存	冗長化は選択可能である。稼働確保のため、監視機能だけを独立したPCで設けており、再起動等の処置で対応することを標準としている。	汎用のUPSを使用	監視機能PCIにより、24時間の異常監視を自動で行っている。異常はメールで自動的管理者に知らされる。復旧体制は、仕様により異なる。
独立行政法人防災科学技術研究所	インターネットのみ対応	未対応	ウイルスソフトの導入済み	行いません。	耐震化された建物内で、空調導入済み	接続確認は、端末側からのみ実施。接続している端末は、サーバー側でモニタできる。	端末毎の配信設定は実施していない。	x	全体への配信結果を保存。制限なし	サーバーは1台の構成で、気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している(回線は、2系統準備しており、冗長化の準備はあり)	無停電電源装置の導入により瞬断は生じない	平日9:00~17:30までの電話受付と24時間メール受付での対応
アールシーソリューション株式会社	インターネット	x	ウイルス対策ソフト、ファイアウォールの導入済み	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	サーバーから端末の接続・切断状況の確認を50秒毎に実施。	端末毎に緊急地震速報の配信設定が可能	2	2年間の端末ごとに配信した結果を保存可能	x	無停電電源装置の導入により瞬断は生じない	営業時間内の電話、メールによる問い合わせに対応。サーバーは24時間の監視体制あり。障害発生時に開発担当者への緊急連絡手段あり。
	インターネット	x	ウイルス対策ソフト、ファイアウォールの導入済み	サーバーや通信回線等に何らかの障害が発生し、過去の緊急地震速報を受信したり、動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	耐震化された建物内で、耐震固定も実施、空調導入済み	サーバーから端末の接続・切断状況の確認を50秒毎に実施。利用者に対して切断時の電話・メール等での通知	端末毎に緊急地震速報の配信設定が可能	2	2年間の端末ごとに配信した結果を保存可能	x	無停電電源装置の導入により瞬断は生じない	営業時間内の電話、メールによる問い合わせに対応。サーバーは24時間の監視体制あり。障害発生時に開発担当者への緊急連絡手段あり。
株式会社 ジュビターテレコム	【配信事業者~CATV局】IP専用線/VPNなどのクローズドな回線の使用を推奨。【CATV局~端末】CATV放送回線のみ。	【配信事業者~CATV局】冗長化済み。【CATV局~端末】対応不可。	【受信装置兼通信装置】限定IPアドレス制御された通信のみを行い、特定管理者のみアクセスを許可する。【通信装置(HE制御装置)】受信装置兼通信装置とは、限定IPアドレス制御された通信のみを行う。送出側は放送のため侵入がない。	以下の場合を除き、全て配信を行う。 ・データの大きさやフォーマット自体が異常 ・過去に受信したものと同一 ・特定の排除条件を設定(35号電文など)	【受信装置兼通信装置】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み。【通信装置(HE制御装置)】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み	端末との接続確認は不可。	端末毎の配信は不可。 ※テスト報を除く。	2	【受信装置兼通信装置】受信履歴・配信履歴とも3年以上保存。【通信装置(HE制御装置)】配信履歴を90日間保存。	【受信装置兼通信装置】必ず2台1組の構成で、論理回線4回線(物理回線2回線)で、気象業務支援センターからの受信を行っている。	各サーバーの取容施設が、すべて無停電化に対応済み。	【配信事業者】24時間体制で、受信装置兼通信装置の保守監視、通信装置の監視を行う。受配信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。【CATV局】受信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。
	【配信事業者~CATV局】IP専用線/VPNなどのクローズドな回線の使用を推奨。【CATV局~端末】CATV放送回線のみ。	【配信事業者~CATV局】冗長化済み。【CATV局~端末】対応不可。	【受信装置兼通信装置】限定IPアドレス制御された通信のみを行い、特定管理者のみアクセスを許可する。【通信装置(HE制御装置)】受信装置兼通信装置とは、限定IPアドレス制御された通信のみを行う。送出側は放送のため侵入がない。	以下の場合を除き、全て配信を行う。 ・データの大きさやフォーマット自体が異常 ・過去に受信したものと同一 ・特定の排除条件を設定(35号電文など)	【受信装置兼通信装置】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み。【通信装置(HE制御装置)】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み	端末との接続確認は不可。	端末毎の配信は不可。 ※テスト報を除く。	2	【受信装置兼通信装置】受信履歴・配信履歴とも3年以上保存。【通信装置(HE制御装置)】配信履歴を90日間保存。	【受信装置兼通信装置】必ず2台1組の構成で、論理回線4回線(物理回線2回線)で、気象業務支援センターからの受信を行っている。	各サーバーの取容施設が、すべて無停電化に対応済み。	【配信事業者】24時間体制で、受信装置兼通信装置の保守監視、通信装置の監視を行う。受配信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。【CATV局】受信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。
	【配信事業者~CATV局】IP専用線/VPNなどのクローズドな回線の使用を推奨。【CATV局~端末】IP回線のみ(専用線やVPNを推奨)。	【配信事業者~CATV局】冗長化済み。【CATV局~端末】標準では冗長化していないが、要望により対応可。	【受信装置兼通信装置】限定IPアドレス制御された通信のみを行い、特定管理者のみアクセスを許可する。【通信装置(HE制御装置)】受信装置兼通信装置とは、限定IPアドレス制御された通信のみを行う。送出側は放送のため侵入がない。	以下の場合を除き、全て配信を行う。 ・データの大きさやフォーマット自体が異常 ・過去に受信したものと同一 ・特定の排除条件を設定(37号電文など)	【受信装置兼通信装置】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み。【通信装置(HE制御装置)】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み	端末との接続確認は不可。	端末毎の配信は不可。 ※テスト報を除く。	2	【受信装置兼通信装置】受信履歴・配信履歴とも3年以上保存。【通信装置(HE制御装置)】配信履歴を90日間保存。	【受信装置兼通信装置】必ず2台1組の構成で、論理回線4回線(物理回線2回線)で、気象業務支援センターからの受信を行っている。	各サーバーの取容施設が、すべて無停電化に対応済み。	【配信事業者】24時間体制で、受信装置兼通信装置の保守監視、通信装置の監視を行う。受配信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。【CATV局】受信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。
	【配信事業者~CATV局】IP専用線/VPNなどのクローズドな回線の使用を推奨。【CATV局~端末】CATV放送回線のみ。	【配信事業者~CATV局】冗長化済み。【CATV局~端末】対応不可。	【受信装置兼通信装置】限定IPアドレス制御された通信のみを行い、特定管理者のみアクセスを許可する。【通信装置(HE制御装置)】受信装置兼通信装置とは、限定IPアドレス制御された通信のみを行う。送出側も、限定IPアドレス制御された通信のみを行う。	以下の場合を除き、全て配信を行う。 ・データの大きさやフォーマット自体が異常 ・過去に受信したものと同一 ・特定の排除条件を設定(38号電文など)	【受信装置兼通信装置】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み。【通信装置(HE制御装置)】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み	端末との接続確認は不可。	端末毎の配信は不可。 ※テスト報を除く。	2	【受信装置兼通信装置】受信履歴・配信履歴とも3年以上保存。【通信装置(HE制御装置)】配信履歴を90日間保存。	【受信装置兼通信装置】必ず2台1組の構成で、論理回線4回線(物理回線2回線)で、気象業務支援センターからの受信を行っている。	各サーバーの取容施設が、すべて無停電化に対応済み。	【配信事業者】24時間体制で、受信装置兼通信装置の保守監視、通信装置の監視を行う。受配信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。【CATV局】受信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。
	【配信事業者~CATV局】IP専用線/VPNなどのクローズドな回線の使用を推奨。【CATV局~端末】CATV放送回線のみ。	【配信事業者~CATV局】冗長化済み。【CATV局~端末】対応不可。	【受信装置兼通信装置】限定IPアドレス制御された通信のみを行い、特定管理者のみアクセスを許可する。【通信装置(HE制御装置)】受信装置兼通信装置とは、限定IPアドレス制御された通信のみを行う。送出側は放送のため侵入がない。	以下の場合を除き、全て配信を行う。 ・データの大きさやフォーマット自体が異常 ・過去に受信したものと同一 ・特定の排除条件を設定(39号電文など)	【受信装置兼通信装置】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み。【通信装置(HE制御装置)】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み	端末との接続確認は不可。	端末毎の配信は不可。 ※テスト報を除く。	2	【受信装置兼通信装置】受信履歴・配信履歴とも3年以上保存。【通信装置(HE制御装置)】配信履歴を90日間保存。	【受信装置兼通信装置】必ず2台1組の構成で、論理回線4回線(物理回線2回線)で、気象業務支援センターからの受信を行っている。	各サーバーの取容施設が、すべて無停電化に対応済み。	【配信事業者】24時間体制で、受信装置兼通信装置の保守監視、通信装置の監視を行う。受配信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。【CATV局】受信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。
	【配信事業者~CATV局】IP専用線/VPNなどのクローズドな回線の使用を推奨。【CATV局~端末】CATV放送回線のみ。	【配信事業者~CATV局】冗長化済み。【CATV局~端末】対応不可。	【受信装置兼通信装置】限定IPアドレス制御された通信のみを行い、特定管理者のみアクセスを許可する。【通信装置(HE制御装置)】受信装置兼通信装置とは、限定IPアドレス制御された通信のみを行う。送出側は放送のため侵入がない。	以下の場合を除き、全て配信を行う。 ・データの大きさやフォーマット自体が異常 ・過去に受信したものと同一 ・特定の排除条件を設定(40号電文など)	【受信装置兼通信装置】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み。【通信装置(HE制御装置)】防犯・防火対策済、耐震化済の建物内に耐震固定し、空調導入済み	端末との接続確認は不可。	端末毎の配信は不可。 ※テスト報を除く。	2	【受信装置兼通信装置】受信履歴・配信履歴とも3年以上保存。【通信装置(HE制御装置)】配信履歴を90日間保存。	【受信装置兼通信装置】必ず2台1組の構成で、論理回線4回線(物理回線2回線)で、気象業務支援センターからの受信を行っている。	各サーバーの取容施設が、すべて無停電化に対応済み。	【配信事業者】24時間体制で、受信装置兼通信装置の保守監視、通信装置の監視を行う。受配信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。【CATV局】受信の回線・受信装置兼通信装置とも冗長化されており、故障時もサービス断は発生しない。
三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社	インターネット	不明	不明	該当しない	不明	不明	不明	該当しない	不明	不明	不明	365日電話受付を行い、端末が故障したときには不良修理あるいは代替端末で対応をおこなう。

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	配信・許可事業者によるサポート			配信・許可事業者によるサポート		
	利用者に連絡する手段あり	利用者の利用方法の把握	気象庁から端末までの配信経路を公開	サーバー端末間の通信手順やデータフォーマットを公開 公開する:○ 公開しない:×	利用者からの配信状況問い合わせに対応可能	ガイドラインに記された必須項目を全て満たした場合にはその旨を公開
株式会社 小堀輝二 研究所	電話・メールで連絡	変更もこちらの対応なしでは出来ないもので、利用形態はすべて把握している。	配信事業者との契約は利用者で行っている。	該当しない (配信者は客先が選定し、契約するものであり、当方の所掌外。)	弊社営業時間内に対応可能	(ガイドライン制定時には対応予定)
独立行政法人防災 科学技術研究所	気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等を電話・メールで連絡	実験として実施しているため、適宜、意見交換を実施	利用者に対する配信経路は、一経路のみ。 気象業務支援センター → 防災科学技術研究所 → 緊急地震速報受信端末 利用者へは口頭での説明のみ	×	平日9:00～17:30までの電話受付と24時間メール受付での対応 緊急地震速報や自社ソフトウェア等の専門的な知識を有する職員が対応可能	(ガイドライン制定時には対応予定)
アールシーソリュー ション株式会社	気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等を電話・メールで連絡	ソフトウェア販売時に利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用について、助言を実施	明示していない。	○	営業時間内の電話、メールによる問い合わせに対応。専門的な知識を有する職員が対応可能。	ガイドライン制定時には対応予定
	気象庁からの訓練等の緊急地震速報に係るお知らせやサーバー保守によるサービス停止の通知等を電話・メールで連絡	端末販売時に利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用について、助言を実施	明示していない。	○	営業時間内の電話、メールによる問い合わせに対応。専門的な知識を有する職員が対応可能。	ガイドライン制定時には対応予定
株式会社ジューバ ーテレコム	【配信事業者】 配信先(CATV局)への連絡が可能。 【許可事業者】 提供事業者(CATV局)への連絡が可能。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者へ、メール・ホームページ告知・電話などでの連絡が可能。	【配信事業者/許可事業者】 配信契約時(=システム・端末導入時)に、提供事業者向けに適切な利用について説明し、継続して情報提供を行う。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者との契約時に、実利用者向けに、適切な利用について説明。	パンフレット・ホームページなどで、経路「気象業務支援センター→(株)テクノロジーネットワークス各CATV局」を、実利用者に明示。	×	実利用者からの問合せを、各事業の顧客センターで受付可能。 ※受付時間はCATV局毎に設定。	満たした場合には、自社媒体などで発表予定。
	【配信事業者】 配信先(CATV局)への連絡が可能。 【許可事業者】 提供事業者(CATV局)への連絡が可能。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者へ、メール・ホームページ告知・電話などでの連絡が可能。	【配信事業者/許可事業者】 配信契約時(=システム・端末導入時)に、提供事業者向けに適切な利用について説明し、継続して情報提供を行う。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者との契約時に、実利用者向けに、適切な利用について説明。	パンフレット・ホームページなどで、経路「気象業務支援センター→(株)テクノロジーネットワークス各CATV局」を、実利用者に明示。	×	実利用者からの問合せを、各事業の顧客センターで受付可能。 ※受付時間はCATV局毎に設定。	満たした場合には、自社媒体などで発表予定。
	【配信事業者】 配信先(CATV局)への連絡が可能。 【許可事業者】 提供事業者(CATV局)への連絡が可能。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者へ、メール・ホームページ告知・電話などでの連絡が可能。	【配信事業者/許可事業者】 配信契約時(=システム・端末導入時)に、提供事業者向けに適切な利用について説明し、継続して情報提供を行う。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者との契約時に、実利用者向けに、適切な利用について説明。	パンフレット・ホームページなどで、経路「気象業務支援センター→(株)テクノロジーネットワークス各CATV局」を、実利用者に明示。	×	実利用者からの問合せを、各事業の顧客センターで受付可能。 ※受付時間はCATV局毎に設定。	満たした場合には、自社媒体などで発表予定。
	【配信事業者】 配信先(CATV局)への連絡が可能。 【許可事業者】 提供事業者(CATV局)への連絡が可能。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者へ、メール・ホームページ告知・電話などでの連絡が可能。	【配信事業者/許可事業者】 配信契約時(=システム・端末導入時)に、提供事業者向けに適切な利用について説明し、継続して情報提供を行う。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者との契約時に、実利用者向けに、適切な利用について説明。	パンフレット・ホームページなどで、経路「気象業務支援センター→(株)テクノロジーネットワークス各CATV局」を、実利用者に明示。	×	実利用者からの問合せを、各事業の顧客センターで受付可能。 ※受付時間はCATV局毎に設定。	満たした場合には、自社媒体などで発表予定。
	【配信事業者】 配信先(CATV局)への連絡が可能。 【許可事業者】 提供事業者(CATV局)への連絡が可能。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者へ、メール・ホームページ告知・電話などでの連絡が可能。	【配信事業者/許可事業者】 配信契約時(=システム・端末導入時)に、提供事業者向けに適切な利用について説明し、継続して情報提供を行う。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者との契約時に、実利用者向けに、適切な利用について説明。	パンフレット・ホームページなどで、経路「気象業務支援センター→(株)テクノロジーネットワークス各CATV局」を、実利用者に明示。	×	実利用者からの問合せを、各事業の顧客センターで受付可能。 ※受付時間はCATV局毎に設定。	満たした場合には、自社媒体などで発表予定。
	【配信事業者】 配信先(CATV局)への連絡が可能。 【許可事業者】 提供事業者(CATV局)への連絡が可能。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者へ、メール・ホームページ告知・電話などでの連絡が可能。	【配信事業者/許可事業者】 配信契約時(=システム・端末導入時)に、提供事業者向けに適切な利用について説明し、継続して情報提供を行う。 【提供事業者(CATV局)】 実利用者との契約時に、実利用者向けに、適切な利用について説明。	パンフレット・ホームページなどで、経路「気象業務支援センター→(株)テクノロジーネットワークス各CATV局」を、実利用者に明示。	×	実利用者からの問合せを、各事業の顧客センターで受付可能。 ※受付時間はCATV局毎に設定。	満たした場合には、自社媒体などで発表予定。
三洋電機コンシュー マエレクトロニクス 株式会社	利用者への連絡手段はありません。	販売時に利用者の利用形態を把握することはできません。	利用者に対する配信経路は、一経路のみ。 気象業務支援センター → NTTコミュニケーションズ(株) → 緊急地震速報受信端末(TEL-LAN60)	×	365日、緊急地震速報や自社端末等の専門的な知識を有する職員が対応可能。	利用者への連絡手段はありません。

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	端末	製造者(製造元)	製品名	型番 (ソフトウェアの場合はバージョン管理番号)	製造年月日	製品の用途 A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御 C 端末の報知による人の危険回避	演算方式	受信装置の種類	価格		その他		(1)端末基礎機能
									販売価格	通信費等運営費(月間)	製品紹介ホームページURL	(備考)	サーバーとの接続監視、通信障害の検知
安全・安心サポート株式会社	1	安全・安心サポート株式会社	緊急地震速報受信クライアント	Version1.14.0	2003年	A, B, C	端末予報型	ウィンドウズ用のソフトウェア	80,000円	12,500円	http://www.anan-susp.co.jp/product/product_ishin_soft.html		サーバーから端末に向けて50秒毎に死活監視を行い、切断した時は画面表示とメール送信を行う。
エヌ・エス・シー株式会社	1	(株)オリテックス	SignalNow	SIG-A	2008年8月1日	A, B, C	端末予報型	「高度利用者向け緊急地震速報」専用通報装置(放送用音声出力タイミング他の調整機能、外部装置の制御機能付き)	オープン価格	10,000円(税別)	http://www.estrat.co.jp/index.htm http://www.ncs-japan.co.jp/business.html		端末側では、サーバーとの接続状態の確認を1分毎に行い、切断を検知した場合には再接続を試行し、それでも接続出来ないときは前面の表示装置での表示内容を点滅させてお知らせ。さらにサーバー側では、各端末との接続状態の確認を30分毎に行い、切断を検知した場合には再接続を待ち、それでも復旧しないときはEメールで切断通知メールを出してお知らせ。
Takusu株式会社	1	製造者: Takusu株式会社 (株式会社 茨城富士)	Takusu-P II	TP2100-TF-01 (音声2系統、リレー12接点出力付き ラックマウント対応型)	2008年12月1日～	A, B	サーバー予報型	緊急地震速報専用端末 (多出力型) (企業向け/ビル、マンション、工場、 業客施設など)	オープン価格 (参考標準価格1200,000円) (設置調整費別途)	～10,000円 (「情報配信料」のみです。別途回線使用料、インターネット使用料などが必要です。)	http://www.takusu.co.jp		あり 端末～サーバー間で相互に監視信号を一定周期で送受信する。 端末、サーバーともにこれらの信号を監視し、異常発生時はサーバーはレポートを発生。 サーバーはレポートを発生。 さらに一日一回時報音(ピピッピ)を送信するので、顧客がこの時報音を聞くことによりシステム全体の正常動作を確認することが出来る。 (異常時には別途契約によりメール発行が可能)
	2	製造者: Takusu株式会社 (本体: ユビテル工業株式会社) (表示器: 株式会社ハトライト)	Takusu-S	本体: Takusu-S(TY-TV13-1) (卓上型、スピーカー内蔵、) (緊急コールボタンおよび子機使用可能) 表示器: FTE-D04	2010年6月1日～	A, B, C	サーバー予報型	本体、緊急地震速報専用端末 表示器、緊急地震速報用表示器 (事務所向: 表示器接続対応)	オープン価格 (参考標準価格370,000円) (表示器込み)	～6,000円 (「情報配信料」のみです。別途回線使用料、インターネット使用料などが必要です。)	http://www.takusu.co.jp http://www.yupiteru.co.jp/products/eq/index.html	(表示器) http://www.patlite.jp/	あり 端末～サーバー間で相互に監視信号を一定周期で送受信する。 端末、サーバーともにこれらの信号を監視し、異常発生時はサーバーはレポートを発生。 端末は契約により表示器に表示することが可能。 さらに一日一回時報音(ピピッピ)を送信するので、顧客がこの時報音を聞くことによりシステム全体の正常動作を確認することが出来る。 (異常時には別途契約によりメール発行が可能)
	3	製造者: Takusu株式会社 (ユビテル工業 株式会社)	Takusu-V 「一般向け」	TY-TV11-1: (卓上型、スピーカー内蔵、) (緊急コールボタンおよび子機使用可能)	2007年10月1日	C	サーバー予報型	緊急地震速報専用端末 (一般家庭/小規模事業所向 : 付加機能つき)	オープン価格	～500円 (「情報配信料」のみです。別途回線使用料、インターネット使用料などが必要です。)	http://www.takusu.co.jp http://www.yupiteru.co.jp/products/eq/index.html		あり 端末～サーバー間で相互に監視信号を一定周期で送受信する。 端末、サーバーともにこれらの信号を監視し、異常発生時はサーバーはレポートを発生。 Takusu-Vplusは端末に表示することが可能。 さらに一日一回時報音(ピピッピ)を送信するので、顧客がこの時報音を聞くことによりシステム全体の正常動作を確認することが出来る。 (異常時には別途契約によりメール発行が可能)
	4	製造者: Takusu株式会社 (ユビテル工業 株式会社)	Takusu-V II A1 「カウントダウン」	TY-TV10LA-1*: (卓上型、スピーカー別付け、出力端子つき) (緊急コールボタンおよび子機使用可能)	2007年10月1日	C							
	5	製造者: Takusu株式会社 (ユビテル工業 株式会社)	Takusu-V II A2 「暖味表現」	TY-TV10LA-1*: (卓上型/スピーカー別付け、出力端子つき) (緊急コールボタンおよび子機使用可能)	2007年10月1日	C							
	6	製造者: Takusu株式会社 (ユビテル工業 株式会社)	Takusu-V II C 「簡易制御」	TY-TV10LA-1*: (壁取付型、スピーカー別付け、出力端子つき) (緊急コールボタンおよび子機使用可能)	2007年10月1日	A, B, C							
	7	製造者: Takusu株式会社 (ユビテル工業 株式会社)	Takusu-Vplus 「一般向け」	TY-TVPL-10*: (卓上型/壁取付型、スピーカー内蔵、セキュリティ付加機能つき) (緊急コールボタンおよび子機使用可能)	2008年7月1日	C							
	8	Takusu株式会社	現地演算サーバー「ドントこい」	Version 2.21	2008年5月23日	A, B	端末予報型	Windows用のソフトウェア	350,000円(ソフトのみ)	～6,000円 (「情報配信料」のみです。別途回線使用料、インターネット使用料などが必要です。)	http://www.takusu.co.jp	今後掲載予定	あり サーバーから15秒毎に送信される死活監視用の電文受信の監視と、65秒毎にサーバーへ送信する死活監視用の電文送信で死活監視を行う。切断したときには画面に表示。
株式会社ドリームウェア	1	ドリームウェア	緊急地震速報受信装置	SH200-J(V1.52)	2006年7月11日	A, B, C	端末予報型	緊急地震速報専用端末	N/A	N/A	http://www.dpass.jp/		端末からサーバーに向けて3分毎に死活監視を行い、切断したときに画面およびLEDランプの点滅で表示。
	2	ドリームウェア	緊急地震速報受信装置	SH230-J(V1.03)	2007年3月26日	A, B, C	端末予報型	緊急地震速報専用端末	N/A	N/A	http://www.dpass.jp/		端末からサーバーに向けて3分毎に死活監視を行い、切断したときにLEDランプ点灯(赤)で表示し、管理者宛てにメール送信。
	3	ドリームウェア	緊急地震速報受信装置	SH240-J(V1.2)	2008年2月25日	A, B, C	端末予報型	緊急地震速報専用端末	N/A	N/A	なし	H21.7月末で販売終了	端末からサーバーに向けて30秒毎に死活監視を行い、切断したときに画面およびLEDランプの点滅で表示。
	4	ドリームウェア	緊急地震速報受信装置	EMC-SH210 (V1.44)	2008年9月13日	A, B, C	サーバー演算型	緊急地震速報予演算装置	N/A	N/A	http://www.dpass.jp/		端末からサーバーに向けて3分毎に死活監視を行い、切断したときにパネル上のランプの点滅で表示し、管理者宛てにメール送信。
	5	ドリームウェア	緊急地震速報受信装置	SH210-J (V1.24)	2008年1月26日	A, B, C	サーバー演算型	緊急地震速報専用受信端末	N/A	N/A	http://www.dpass.jp/		サーバー演算装置からの配信経路で異常があった場合、端末側のLEDランプ(青)点滅で表示。
	6	ドリームウェア	緊急地震速報受信装置 専用オプションユニット	SH210-J-0 (V2.11)	2010年8月18日	A, B, C	N/A	緊急地震速報専用端末用 専用オプションユニット	N/A	N/A	http://www.dpass.jp/		観機端末との接続障害発生時にLED点滅(赤、緑)で表示

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(1) 端末基礎機能												
	受信してから0.2秒以内に報知または制御を開始	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合の対処方法	動作履歴の保存	耐震固定等地震の揺れへの対策が可能	自己診断機能	外部出力機能	音声や表示による報知機能		テスト報により試験ができること	端末単独で外部出力の試験ができること	端末単独で外部出力の試験機能 を有している ○ 有していない: ×	訓練報により訓練支援の報知ができる ○ できない: ×	
							予測震度及び発報時間の伝達*	画面表示やライトなど(具体的な報知内容を記述のこと)					
安全・安心サポート株式会社	○	電文が不完全である場合、起動することはありません。	あり、最低3ヶ月の履歴を保存。設定変更により無制限に保存することが可能	PCの耐震固定器具を使用	あり: 障害発生時には異常を通知する	あり: 接点数は8以上。接点毎に閾値設定が可能	○	文字、音声による伝達に加え、震度から地震波が伝わる様子のアニメーション表示機能有	○: テスト電文を受けて接点信号として出力することが可能	○: テスト電文を受けて制御対象機器まで含めた一連のテスト機能を行うことが可能。個別機器毎の出力テストも可能	○	× バージョンアップで対応予定	
エヌ・エス・シー株式会社	○	過去に受信した地震IDは、受信ログに記録して予報処理は行わない。文字化けや必要データの脱落も受信ログに記録して予報処理は行わない。	あり。通報履歴・制御出力履歴以外に、キャンセル報やサーバからの受信ログに記録する。受信ログは2年分を保存する。希望者に対しては、月の初めに前月分の動作履歴を月次報告書としてEメールで提出	19インチラックへ搭載する場合は専用金具を用いて搭載し、ラック自体の耐震対策を利用。単体で設置する場合は、PC用の耐震固定器具を利用して固定する。	端末単体では無し。 但し、サーバからも、1日に1回の頻度で各端末に対してハードウェア状態の確認を行い、結果を弊社の管理者へ通知する仕組みがある。	あり: 接点数5。 5つの接点毎に出力時間を設定可能。 5つの接点を3グループに分けておりそのグループ毎に震度の閾値設定が可能。	○	端末に内蔵されているスピーカーで発報時間と震度を発声。(発声内容はカウントダウン、意味表現等の4種類標準装備。顧客状況に合わせて選択。一部発声内容の変更も可能) 端末の前面に備えているVFD表示器で発報時間と震度を表示。端末の前面に備えているLEDランプで震度の目安レベルと制御出力端子の動作状況を表示。	○ サーバからのテスト電文を受け、テスト発報を行い、接点信号を出力することが可能。	○ 本体のスイッチ操作、またはサーバからのテスト電文受信により、テスト発報を行い、制御対象機器まで含めた一連のテスト機能を行うことが可能。	○	○	
Takusu株式会社	○	但し、接続される放送機器などの特性により、音声報知は遅れる場合がある。	サーバにて保存 (保存期間は、許可事業者として求められる期間(2年間保存)) 端末にて動作したことを示すLED表示あり(表示のリセットはユーザーがリセットボタンを押す)	付属金具を用いて固定する。	あり: ・サーバとの通信不可のときは LED点灯 ・故障検知はウォッチドッグタイマー ・停電時はLED消灯	あり: 設定震度以上、震度5弱以上、取り消し報、訓練、到達、など12イベントから選択可能	音声ガイダンスあり: (あいまい表現) 到達予想時間 ①31秒後以上のとき NHK音(ビロン、ボロン) +地震が発生しました ②30秒~11秒前の期間 NHK音(ビロン、ボロン) +まもなく地震が来ます ③10秒~到達まで NHK音(ビロン、ボロン) +すぐに地震が来ます	・動作リレーのLED表示、 報知済みのLEDラッチ表示	可能: (サーバからテスト電文を送信)	可能: (サーバからテスト電文を送信)	×	○	
	○	◎端末では演算しないので該当しない。 ◆万一、サーバからのデータが所定のデータ形式を保持して遅れて届いた場合には、届いたデータに即した動作を行う。 (データの遅れ時間は無視される) ◆サーバ~端末間の予報データ量は1パケット以内に収まるような小さなデータなので、データ欠損は考えにくい。	サーバにて保存 (保存期間は、許可事業者として求められる期間(2年間保存))	・本体: 卓上型のため固定具はない (耐震粘着パッドなどを利用して固定可能) ・表示器は付属金具にて固定	あり: ・故障検知はウォッチドッグタイマー ・停電時はLED消灯	あり: 表示器に出力機能あり、設定震度以上のとき	音声ガイダンスあり: (あいまい表現と震度、残時間表現の選択可能)	・赤色大型LEDによる表示部の点滅 指定の表示器による震度と到達時刻のカウントダウン数字表示ならびに警報音報知	可能: (サーバからテスト電文を送信)	可能: (サーバからテスト電文を送信)	×	○	
	○	◆動作の判断に使うデータが欠損している場合はデータを廃棄し動作しない。	サーバにて保存 (保存期間は、許可事業者として求められる期間(2年間保存))	卓上型のため固定具はない (耐震粘着パッドなどを利用して固定可能) 専用取付台で、壁面に固定可能。	あり: ・故障検知はウォッチドッグタイマー ・停電時はLED消灯	なし	音声ガイダンスあり: (あいまい表現)	・赤色大型LEDによる表示部の点滅	可能: (サーバからテスト電文を送信)	該当しない	該当しない	○	○
	○	専用取付台で、壁面に固定可能。	サーバにて保存 (保存期間は、許可事業者として求められる期間(2年間保存))	専用取付台で、壁面に固定可能。	あり: ・故障検知はウォッチドッグタイマー ・停電時はLED消灯	あり: 照明制御用SS出力	音声ガイダンスあり: (あいまい表現)	可能: ただし外部出力付の機種のみ (サーバからテスト電文を送信)	可能: (サーバからテスト電文を送信)	可能: ただし外部出力付の機種のみ (サーバからテスト電文を送信)	×	○	○
	○	専用取付台で、壁面に固定可能。	専用取付台で、壁面に固定可能。	あり: リレー接点出力	あり: 音声ガイダンスあり: (あいまい表現)	なし	音声ガイダンスあり: (あいまい表現)	可能: ただし外部出力付の機種のみ (サーバからテスト電文を送信)	可能: (サーバからテスト電文を送信)	可能: ただし外部出力付の機種のみ (サーバからテスト電文を送信)	×	○	○
○	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり: 動作ログに保存。保存期間は無期限	PCの耐震固定器具を使用すれば可能	あり: サーバとの接続状態が異常の場合は画面に表示。	あり: シリアル経由でTakusu-P IIへ出力。	○	PC画面(予想震度・発報時間の表示、震度から地震波が伝わる様子のアニメーション表示)での伝達とPCスピーカーからの報知音出力。	ソフトウェア単体でTakusu-P IIに 対してテスト出力が可能。サーバからテスト電文を送信する機能はない。	ソフトウェア単体でTakusu-P IIに 対してテスト出力し、制御対象機器まで含めた一連のテストを行うことが可能。サーバからテスト電文を送信する機能はない。	○	○	○	
株式会社ドリームウェア	○	動作しない	あり: 直近4件まで保存(電源、通信が途絶えた場合はリセットされる。)	壁掛けブラケット付属	あり: 障害発生時、端末左の上のLEDランプ点滅。停電時の通知はなし。	あり: 接点数2、接点動作は本体と連動 音声出力端子x1 専用オプションユニットと連動可能 専用オプションユニットの接点数は2、接点毎に閾値設定可	○	文字、音声、LEDランプによる伝達	○: テスト電文を受けて接点信号として出力すること、および音声報知が可能	○	○	○	
	○	動作しない	あり: メモリの許す限りログで保存	ラックマウントブラケット付属 サーバラックに取り付け可能	あり: 障害発生時、画面及びメールにて通知。停電時の通知はなし。	あり: 接点数5、本体動作とは別に個別に閾値設定可能	○	文字、音声、LEDランプによる伝達 演算結果のメール通知機能、パトライト等の外部ネットワーク機器との連動可能	○: テスト電文を受けて接点信号として出力すること、および音声報知が可能	○	○	○	
	○	動作しない	あり: 直近4件まで保存(電源、通信が途絶えても保持。)	壁掛けブラケット付属	あり: 障害発生時、端末左上のLEDランプ点滅。停電時の通知はなし。	あり: 接点数1、本体動作とは別に任意に閾値設定可能	○	文字、音声、LEDランプによる伝達	○: テスト電文を受けて接点信号として出力すること、および音声報知が可能	○	○	○	
	○	動作しない	受信配信履歴を1年分保存 (古くなったものから消去)	ラックマウントブラケット付属 サーバラックに取り付け可能	あり: LEDランプ(赤)点灯で表示。停電時の通知方法はなし。	該当しない	○	本体のLED上に文字による伝達あり、演算結果のメール通知機能あり。	○: テスト電文を受けて受信端末へ信号を出力することが可能	該当しない	該当しない	○	
	○	動作しない	本体は履歴保存機能なし。但し、オプションユニットとの組み合わせで対応可能	テープなどで貼り付け固定可能	時計は持たない。 端末異常時には、LED点滅(青)により表示。	なし 但し、オプションユニットとの連動により可能。	○	LEDランプ(青)点滅で表示。	○: テスト電文を受けて報知動作可能	○	× (オプション製品で対応可能)	○	
○	動作しない	電話録音機との連動により履歴保存可能	ビス止め可能	時計は持たない。 端末異常時には、LED点滅(赤、緑)により表示。外部出力不良の検出は不可	あり: 接点数2、本体動作とは別に任意に閾値設定可能 カスケード接続により、接点数最大10まで増設可能	○	スピーカー接続による音声伝達およびLED点滅(緑)により表示あり。	○: テスト電文を受けて接点信号として出力することが可能	○	○	○		

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(1) 端末基礎機能				(2) 地震動予報機能				(3) 報知・制御出力条件設定機能					
	訓練報により訓練用の外部出力を動作できる ○: できる, ×: できない	端末単独で訓練報知できる ○: できる, ×: できない	訓練電文を受信し、報知を確認できること ○	訓練が実施できる機能の有無 (オペレーターによる訓練も含む) ○	利用者の特定する場所での震度や到達時間の予想 ○	時刻のズレが日本標準時に対し1秒以内になるよう自動時刻校正 ○	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合は地震動予報を行わない ○	予報履歴の保存し、利用者が参照可能 ○	気象庁の発表する緊急地震速報の内容等の変更に対応可能 ○	予測震度や猶予時間の開値 ○	緊急地震速報(警報)による動作 ○	報知音の選択 ○	予想した震度や猶予時間の報知表現 具体的な数値を使わない表現にしているか? ○: している, ×: していない	緊急地震速報の精度情報による動作 ○
安全・安心サポート株式会社	× バージョンアップで対応予定	○	○	○	あり	あり、ウインドウズの時刻校正機能とNTPソフトウェアの2重化による校正を実施	過去に起動したIDと同じ場合は破棄する。電文が不完全な場合は起動しない	あり、ソフトウェアの専用画面にて確認可能。原則として無制限に確認可能	あり、リモート操作により更新が可能。別途年間保守契約が必要。8000円/年	設定機能あり(デフォルトは震度5弱)、猶予時間がない場合も報知を行う。報知内容は予報震度と都道府県を告知	設定機能あり。通常の動作と同じ	設定機能あり(デフォルトはREIC音、NHK音の設定可能)	◎	設定機能あり(デフォルトは1地点から報知を実施)
エヌ・エス・シー株式会社	○	○	○	○	あり	NTPによる時刻補正実施している。(ハードが保有する時刻精度を評価して補正時間を決定)	過去に受信した地震IDは、予報処理を行わない。	あり。(必ず保存する)。端末が受け取った全ての電文を保存。参照はPCのWebブラウザを用いて端末の設定画面から閲覧可能。端末側の対応が必要な場合は、通信回線経由でソフトウェアの自動更新が可能。現時点は無償対応。	あり。	同一地震IDで複数回送付された途中に(警報)情報を受けた場合は、前に(予報)通報を行っていた場合にも、警報通報に変えて通報を行い、以降は最後まで警報通報を継続。但し警報時の予測震度が設定震度閾値以下の場合は通報しない。(*: 震度閾値の設定を震度5弱よりも大きい値(5強以上)に設定した場合には、警報震度を越える値を設定しようとしている事を警告を促している。)	設定機能あり。デフォルトは、警報の場合はNHK音、予報の場合はREIC音。利用者による独自の音に変更することも可能。	◎	設定機能あり。デフォルトは、震央の確からしさ=テリトリ法(2点)以上、震源深さの確からしさ=テリトリ法(2点)以上。	
Takusu株式会社	○	×	可能	あり サーバーから訓練報を送信することにより可能 (利用者からの所定の申し込みにより利用者の指定した日時に送信可能)	あり サーバーで演算予測。震度が所定値以上の場合、結果を端末に送信(契約時に所在地ならびに報知最低震度を、サーバーに登録)	サーバーにて、自動補正(独立行政法人、情報通信研究機構のNTPサーバーに合作している)	不正な緊急地震速報(予報)を気象業務支援センターから受信しても地震動予報を行わない。	予報業務許可事業者として定められている期間(2年間)保存。利用者の申し出でにより提供可能	演算式、ならびにデータフォーマットの変更など緊急地震速報予報に関するコア部分は、サーバーのソフトを変更することで対応完了。また、端末における出力容の変更や、機能向上ならびに付加機能の改善などのために端末側のファームウェアの変更が必要な場合には、サーバーから通信回線を通じて端末のファームウェアの更新可能。但し、端末ファームウェア変更中は当該端末では緊急地震速報を受信できない。	あり 予測震度: 大きな地震(デフォルトは震度5弱以上)と最低報知震度(デフォルト震度3)の2種類を設定可能。 サーバーにて設定。利用者との契約時に設置場所と報知震度閾値をサーバーに登録設定する。途中変更も可能)	可能	なし(NHK音のみ)	◎	コード電文36、37を使用(コード電文35は使用しない) 但し、RKC指示符のデータの確からしさ指標(n)2~8のデータを使用した予報に変更予定
	○	×	可能	あり サーバーから訓練報を送信することにより可能 (利用者からの所定の申し込みにより利用者の指定した日時に送信可能)	あり サーバーで演算予測。震度が所定値以上の場合、結果を端末に送信(契約時に所在地ならびに報知最低震度を、サーバーに登録)	サーバーにて、自動補正(独立行政法人、情報通信研究機構のNTPサーバーに合作している)	過去の情報を受け取った場合:すでに到達予想時刻を過ぎているので端末に送信しない。 ◆演算に必要なデータが欠損している場合:予報値が算出できないので、端末に送信しない。	予報業務許可事業者として定められている期間(2年間)保存。利用者の申し出でにより提供可能	演算式、ならびにデータフォーマットの変更など緊急地震速報予報に関するコア部分は、サーバーのソフトを変更することで対応完了。また、端末における出力容の変更や、機能向上ならびに付加機能の改善などのために端末側のファームウェアの変更が必要な場合には、サーバーから通信回線を通じて端末のファームウェアの更新可能。但し、端末ファームウェア変更中は当該端末では緊急地震速報を受信できない。	あり 予測震度: 大きな地震(デフォルトは震度5弱以上)と最低報知震度(デフォルト震度3)の2種類を設定可能。 サーバーにて設定。利用者との契約時に設置場所と報知震度閾値をサーバーに登録設定する。途中変更も可能)	可能	なし(NHK音のみ)	◎	コード電文36、37を使用(コード電文35は使用しない) 但し、RKC指示符のデータの確からしさ指標(n)2~8のデータを使用した予報に変更予定
	該当しない	×	可能	あり サーバーから訓練報を送信することにより可能 (利用者からの所定の申し込みにより利用者の指定した日時に送信可能)	あり サーバーで演算予測。震度が所定値以上の場合、結果を端末に送信(契約時に所在地ならびに報知最低震度を、サーバーに登録)	サーバーにて、自動補正(独立行政法人、情報通信研究機構のNTPサーバーに合作している)		予報業務許可事業者として定められている期間(2年間)保存。利用者の申し出でにより提供可能	演算式、ならびにデータフォーマットの変更など緊急地震速報予報に関するコア部分は、サーバーのソフトを変更することで対応完了。また、端末における出力容の変更や、機能向上ならびに付加機能の改善などのために端末側のファームウェアの変更が必要な場合には、サーバーから通信回線を通じて端末のファームウェアの更新可能。但し、端末ファームウェア変更中は当該端末では緊急地震速報を受信できない。	あり 予測震度: 大きな地震(デフォルトは震度5弱以上)と最低報知震度(デフォルト震度3)の2種類を設定可能。 サーバーにて設定。利用者との契約時に設置場所と報知震度閾値をサーバーに登録設定する。途中変更も可能)	可能	なし(NHK音のみ)	◎	コード電文36、37を使用(コード電文35は使用しない) 但し、RKC指示符のデータの確からしさ指標(n)2~8のデータを使用した予報に変更予定
	○	×	可能	あり サーバーから訓練報を送信することにより可能 (利用者からの所定の申し込みにより利用者の指定した日時に送信可能)	あり サーバーで演算予測。震度が所定値以上の場合、結果を端末に送信(契約時に所在地ならびに報知最低震度を、サーバーに登録)	サーバーにて、自動補正(独立行政法人、情報通信研究機構のNTPサーバーに合作している)		予報業務許可事業者として定められている期間(2年間)保存。利用者の申し出でにより提供可能	演算式、ならびにデータフォーマットの変更など緊急地震速報予報に関するコア部分は、サーバーのソフトを変更することで対応完了。また、端末における出力容の変更や、機能向上ならびに付加機能の改善などのために端末側のファームウェアの変更が必要な場合には、サーバーから通信回線を通じて端末のファームウェアの更新可能。但し、端末ファームウェア変更中は当該端末では緊急地震速報を受信できない。	あり 予測震度: 大きな地震(デフォルトは震度5弱以上)と最低報知震度(デフォルト震度3)の2種類を設定可能。 サーバーにて設定。利用者との契約時に設置場所と報知震度閾値をサーバーに登録設定する。途中変更も可能)	可能	なし(NHK音のみ)	◎	コード電文36、37を使用(コード電文35は使用しない) 但し、RKC指示符のデータの確からしさ指標(n)2~8のデータを使用した予報に変更予定
	○	×	可能	あり サーバーから訓練報を送信することにより可能 (利用者からの所定の申し込みにより利用者の指定した日時に送信可能)	あり サーバーで演算予測。震度が所定値以上の場合、結果を端末に送信(契約時に所在地ならびに報知最低震度を、サーバーに登録)	サーバーにて、自動補正(独立行政法人、情報通信研究機構のNTPサーバーに合作している)		予報業務許可事業者として定められている期間(2年間)保存。利用者の申し出でにより提供可能	演算式、ならびにデータフォーマットの変更など緊急地震速報予報に関するコア部分は、サーバーのソフトを変更することで対応完了。また、端末における出力容の変更や、機能向上ならびに付加機能の改善などのために端末側のファームウェアの変更が必要な場合には、サーバーから通信回線を通じて端末のファームウェアの更新可能。但し、端末ファームウェア変更中は当該端末では緊急地震速報を受信できない。	あり 予測震度: 大きな地震(デフォルトは震度5弱以上)と最低報知震度(デフォルト震度3)の2種類を設定可能。 サーバーにて設定。利用者との契約時に設置場所と報知震度閾値をサーバーに登録設定する。途中変更も可能)	可能	なし(NHK音のみ)	◎	コード電文36、37を使用(コード電文35は使用しない) 但し、RKC指示符のデータの確からしさ指標(n)2~8のデータを使用した予報に変更予定
	○	×	可能	あり サーバーから訓練報を送信することにより可能 (利用者からの所定の申し込みにより利用者の指定した日時に送信可能)	あり サーバーで演算予測。震度が所定値以上の場合、結果を端末に送信(契約時に所在地ならびに報知最低震度を、サーバーに登録)	サーバーにて、自動補正(独立行政法人、情報通信研究機構のNTPサーバーに合作している)		予報業務許可事業者として定められている期間(2年間)保存。利用者の申し出でにより提供可能	演算式、ならびにデータフォーマットの変更など緊急地震速報予報に関するコア部分は、サーバーのソフトを変更することで対応完了。また、端末における出力容の変更や、機能向上ならびに付加機能の改善などのために端末側のファームウェアの変更が必要な場合には、サーバーから通信回線を通じて端末のファームウェアの更新可能。但し、端末ファームウェア変更中は当該端末では緊急地震速報を受信できない。	あり 予測震度: 大きな地震(デフォルトは震度5弱以上)と最低報知震度(デフォルト震度3)の2種類を設定可能。 サーバーにて設定。利用者との契約時に設置場所と報知震度閾値をサーバーに登録設定する。途中変更も可能)	可能	なし(NHK音のみ)	◎	コード電文36、37を使用(コード電文35は使用しない) 但し、RKC指示符のデータの確からしさ指標(n)2~8のデータを使用した予報に変更予定
	○	×	可能	あり サーバーから訓練報を送信することにより可能 (利用者からの所定の申し込みにより利用者の指定した日時に送信可能)	あり サーバーで演算予測。震度が所定値以上の場合、結果を端末に送信(契約時に所在地ならびに報知最低震度を、サーバーに登録)	サーバーにて、自動補正(独立行政法人、情報通信研究機構のNTPサーバーに合作している)		予報業務許可事業者として定められている期間(2年間)保存。利用者の申し出でにより提供可能	演算式、ならびにデータフォーマットの変更など緊急地震速報予報に関するコア部分は、サーバーのソフトを変更することで対応完了。また、端末における出力容の変更や、機能向上ならびに付加機能の改善などのために端末側のファームウェアの変更が必要な場合には、サーバーから通信回線を通じて端末のファームウェアの更新可能。但し、端末ファームウェア変更中は当該端末では緊急地震速報を受信できない。	あり 予測震度: 大きな地震(デフォルトは震度5弱以上)と最低報知震度(デフォルト震度3)の2種類を設定可能。 サーバーにて設定。利用者との契約時に設置場所と報知震度閾値をサーバーに登録設定する。途中変更も可能)	可能	なし(NHK音のみ)	◎	コード電文36、37を使用(コード電文35は使用しない) 但し、RKC指示符のデータの確からしさ指標(n)2~8のデータを使用した予報に変更予定
株式会社ドリームウェア	○	○	○	○	あり	NTPによる時刻校正機能。または、ネットワークテスト電文による簡易校正機能。NTPを選択した場合、時刻校正間隔は設定可能。	古い緊急地震速報を受信したり、電文が壊れている場合は、破棄して動作しない。	あり: PC画面で参照可能。永久保存。	あり: ソフトウェアの自動更新。	予測震度: 設定機能あり 猶予時間: 設定機能なし(猶予時間がない場合も動作する)	設定機能なし: 動作しない	設定機能あり: デフォルトはNHK音	◎	画面表示については設定機能なし: 1地点の緊急地震速報も使用する。外部出力については設定機能あり: デフォルトは1地点の緊急地震速報は使用しない。
	○	○	○	○	あり	サーバーとのヘルスチェック時に同期確認し補正	動作しない	なし: 設定閾値以上で動作した演算結果のみ保存(動作しなかったものは保存しない)。	あり: RS232Cにより手動にてプログラムの変更可能。但し、音声データは固定の為、変更不可。送料は利用者負担。	初期値: 震度3(震度1~7を任意に設定可能)、詳細音声(曖昧表現に変更可能) 猶予時間が無い場合は鳴動しない。	なし	端末本体での選択は不可。オプションユニットでピー音、REIC音の選択が可能。(他社サウンドリピーター等の組み合わせでNHK音の報知が可能)	× 猶予時間10秒以下は、カウントダウンする。	なし: 1地点の緊急地震速報より反応する。
	○	○	○	○	あり	サーバーとのヘルスチェック時に同期確認し補正	動作しない	あり: 電文の配信履歴、演算結果を都度保存している	あり: CFカード交換により対応可能。但し、音声データは固定の為、変更不可	初期値: 震度3(震度1~7を任意に設定可能)、詳細音声(曖昧表現に変更可能) 猶予時間が無い場合「地震震度X、ゼロ」と鳴動する。	なし	端末本体での選択は不可。オプションユニットとの連動なし。オプション製品: ◎	× 猶予時間10秒以下は、カウントダウンする。	あり: 初期設定は、1地点の緊急地震速報を使用する。
	○	○	○	○	あり	サーバーとのヘルスチェック時に同期確認し補正	動作しない	なし: 設定閾値以上で動作した演算結果のみ保存(動作しなかったものは保存しない)。	あり: 通信回線経由でソフトの自動更新が可能。但し、音声データは固定の為、変更不可(現在ソフトウェアアップデートのサポート終了。)	初期値: 震度3(震度1~7を任意に設定可能)、詳細音声(曖昧表現に変更可能) 猶予時間が無い場合「地震震度X、ゼロ」と鳴動する。	なし	端末本体での選択は不可。オプションユニットとの連動なし。	× 猶予時間10秒以下は、カウントダウンする。	なし: 1地点の緊急地震速報より反応する。
	該当しない	○	○	○	あり	サーバーとのヘルスチェック時に同期確認し補正	動作しない	受信配信履歴を1年分保存(古くなったものから消去)	V1.4は通信回線経由でソフトの自動更新が可能。 V1.3はCFカードの交換により対応可能	受信したすべての緊急地震速報(予報)電文に対して演算	なし	なし	× 震度、猶予秒数をパネル上に表示。	なし: 1地点の緊急地震速報より反応する。
	○ (オプション製品で対応可能)	○	○	○	あり	該当しない	動作しない	本体は履歴保存機能なし。但し、オプションユニットとの組み合わせで対応可能	あり: 専用ケーブルとPC接続にて対応可能。但し、音声データは固定の為、変更不可	初期値: 震度3(震度1~7を任意に設定可能)、詳細音声(曖昧表現に変更可能) 猶予時間が無い場合は報知動作しない。	なし	なし	× 猶予時間10秒以下は、カウントダウンする。	演算装置に依存する。
	○	○	○	○	該当しない	該当しない	動作しない	電話録音機との連動により履歴保存可能	あり: 専用ケーブルとPC接続にて対応可能。但し、音声データは固定の為、変更不可	初期値: 震度3(震度1~7を任意に設定可能)、詳細音声(曖昧表現に変更可能) 猶予時間が無い場合「地震震度X、ゼロ」と報知動作する。	なし	なし	◎	観機に依存する。

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(3) 報知・制御出力条件設定機能						配信・許可事業者の通信能力							
	100ガル超え緊急地震速報に対する動作	同一内容の緊急地震速報を複数受信した場合の動作	同一地震について複数回緊急地震速報(業)を受信した場合の動作 緊急地震速報(予報)の続報により緊急地震速報(業)の予想震度が小さくなる・猶予時間も短くなっても報知を変更しない? 変更しない:○ 変更する:×	ある地震の緊急地震速報を受信した後、続けて別の地震の緊急地震速報を受信した場合の動作	深発地震についての緊急地震速報(業)に対する動作	キャンセル報を受信した際の動作	訓練報を受信した際の動作	テスト報を受信した際の動作	気象庁の発表から端末に届くまで1秒未満	気象業務支援センターから事業者のサーバーまでの通信回線の冗長化	サーバーから端末間の論理通信回線の冗長化	複数サーバーから端末に緊急地震速報を同時に配信している:○ していない:×	セキュリティ対策(なりすまし防止等)	
安全・安心サポート株式会社	設定機能なし	排他処理機能あり、ユーザーが自由に設定可能	○	予測震度の大きい方を報知	設定機能あり(デフォルトは150kmより深い地震は演算しない)	既に報知した地震に対してのみ、文字と音声で告知する	設定機能あり(デフォルトは動作しない)	設定機能あり、テスト報を受信した場合は、音声で「試験」と事前に告知	○	○	対応可能	○	インターネット配信電文の暗号化実施(AES,RC4,個別キー設定可能)	
エヌ・エス・シー株式会社	設定機能はないが、予報処理は行わない。 受信ログとしては記録。 震源震度情報が不明//となつている為、判断して、予報処理は行わない。	排他処理機能有り、同一の地震IDかつ同一報目のものはサーバー側で排他している。同一の地震IDでの続報は、各端末が通報(発声)状況に応じて適宜判断する。発音が終わった後に続報が来た場合は、再度報知する。発声中に届いた続報によって予報から警報へ変化した場合は、警報としての報知を行う。	予報状態での変化は変更しないが、予報から警報に切り替わった場合に、通報震度閾値を震度3に設定して、設置場所が震度4の場所から、震度3の警報情報を受けた場合は、警報通報に切り替わる。(予報状態の変化の場合は変更しない。予報状態から設置場所が警報となる情報を受信した最初だけ、通報震度閾値以上となる警報情報を受けた場合には警報通報に切り替わる。)	報知内容が頻繁に変化する事による混乱を避けるために、最初の報知が完了するまで後続の緊急地震速報は、受信ログに記録するにとどめる。	直近で報知した地震に対してのキャンセル報が出されたことによる音声を無視する。	深発地震は報知しない。	設定機能無し。(現時点では動作しない。)	弊社オペレータによる独自のテスト電文を受けた場合には必ず動作し、冒頭に「只今から、緊急地震速報の訓練報を通報します」と音声で報知し、最後に「只今のは、訓練通報でした。」と音声で報知する。端末にตอบสนองさせるかどうかの設定機能を設けることは、対応可能。	○	× 現在、物理回線は冗長化していない。論理回線は冗長化している。	× 複数同時接続による冗長は行っていない。サーバーに異常がある場合、サーバーへ切り替わる。	× 但し、利用者の要望に応じて、利用者の負担の範囲で対応可能。	VPNを使用した暗号化によってセキュリティを確保した論理回線で通信している。	
Takusu株式会社	報知しない	端末設置場所における予測震度階が、1以上大きくなったときに情報更新する。	変更しない:○	①はじめの地震が端末設置場所に未到達と予測される場合は、新たな地震の予測震度階が以前のものより1以上大きくなった場合に震度階ならびに到達予想時間を更新する。―― ②最新報知した地震が設置場所にすでに到達したと予測される場合は、新たな地震として取り扱う。	300km以上の深発地震については報知しない。 (揺れが来たのに通知がなかったというユーザーからのクレームがあったので深さ300kmまで演算し、顧客指定の震度階以上の場合に報知することにした。―― 300kmより深くても体に感じる揺れがあるという顧客がいたが、深発地震の精度について説明し了解を得ている)	地震速報を報知した場合は「地震発生は誤報と判断されました」の音声ガイダンスと「キャンセル報の届点」を出力	音声ガイダンスの前に「訓練」の音声を追加して、送られた緊急地震速報(業)の内容に応じた動作を行い、到達予測時刻に「到達を示す破壊音」を流す。また、訓練接点を出力するように設定可能。任意の接点を出力しないようにも設定可能。但しこれらの接点出力の設定は出荷時設定に限る。	(1)サーバーと端末間の通信が健全であることを確認する時報信号―顧客と定めた時刻に毎日自動的にサーバーから端末に送信する。(各端末ごと個別に設定) ＜端末の動作＞時報音「ピッピッピ、ピッピッ、ピッピッ」が流れる。利用者毎決まった時刻にこの時報音を聞くことによりシステムが正常に動作していることを確認することが出来る。 (2)動作試験に必要な任意の電文を送る。(サーバーから必要な端末に対して必要な日時を送る) ＜端末の動作＞上記電文に応じた動作(たとえば音声ガイダンスのみ)	○	○:専用回線	○:サーバー2重化	している:○	対応済み: ・電文暗号化 ・ルーターとネットワーク機器にて対応	
	報知しない	端末設置場所における予測震度階が、1以上大きくなったときに情報更新する。	変更しない:○	①はじめの地震が端末設置場所に未到達と予測される場合は、新たな地震の予測震度階が以前のものより1以上大きくなった場合に震度階ならびに到達予想時間を更新する。―― ②最新報知した地震が設置場所にすでに到達したと予測される場合は、新たな地震として取り扱う。	300km以上の深発地震については報知しない。 (揺れが来たのに通知がなかったというユーザーからのクレームがあったので深さ300kmまで演算し、顧客指定の震度階以上の場合に報知することにした。―― 300kmより深くても体に感じる揺れがあるという顧客がいたが、深発地震の精度について説明し了解を得ている)	地震速報を報知した場合は「地震発生は誤報と判断されました」の音声ガイダンスを流す。	音声ガイダンスの前に「訓練」の音声を追加して、送られた緊急地震速報(業)の内容に応じた動作を行い、到達予測時刻に「到達を示す破壊音」を流す。接点出力は通常通りの出力とする。	(1)サーバーと端末間の通信が健全であることを確認する時報信号―顧客と定めた時刻に毎日自動的にサーバーから端末に送信する。(各端末ごと個別に設定) ＜端末の動作＞時報音「ピッピッピ、ピッピッ、ピッピッ」が流れる。利用者は毎日決まった時刻にこの時報音を聞くことによりシステムが正常に動作していることを確認することが出来る。 (2)動作試験に必要な任意の電文を送る。(サーバーから必要な端末に対して必要な日時を送る) ＜端末の動作＞上記電文に応じた動作(たとえば音声ガイダンスのみ)	○	○:専用回線	○:サーバー2重化	している:○	対応済み: ・電文暗号化 ・ルーターとネットワーク機器にて対応	
	報知しない	端末設置場所における予測震度階が、1以上大きくなったときに情報更新する。	変更しない:○	①はじめの地震が端末設置場所に未到達と予測される場合は、新たな地震の予測震度階が以前のものより1以上大きくなった場合に震度階ならびに到達予想時間を更新する。―― ②最新報知した地震が設置場所にすでに到達したと予測される場合は、新たな地震として取り扱う。	300km以上の深発地震については報知しない。 (揺れが来たのに通知がなかったというユーザーからのクレームがあったので深さ300kmまで演算し、顧客指定の震度階以上の場合に報知することにした。―― 300kmより深くても体に感じる揺れがあるという顧客がいたが、深発地震の精度について説明し了解を得ている)	地震速報を報知した場合は「地震発生は誤報と判断されました」の音声ガイダンスを流す。	音声ガイダンスの前に「訓練」の音声を追加して、送られた緊急地震速報(業)の内容に応じた動作を行い、到達予測時刻に「到達を示す破壊音」を流す。但し、機種バージョンによっては通常の緊急地震速報(業)として報知するものもある。	(1)サーバーと端末間の通信が健全であることを確認する時報信号―顧客と定めた時刻に毎日自動的にサーバーから端末に送信する。(各端末ごと個別に設定) ＜端末の動作＞時報音「ピッピッピ、ピッピッ、ピッピッ」が流れる。利用者は毎日決まった時刻にこの時報音を聞くことによりシステムが正常に動作していることを確認することが出来る。 (2)動作試験に必要な任意の電文を送る。(サーバーから必要な端末に対して必要な日時を送る) ＜端末の動作＞上記電文に応じた動作(たとえば音声ガイダンスのみ)	○	○:専用回線	○:サーバー2重化	している:○	対応済み: ・電文暗号化 ・ルーターとネットワーク機器にて対応	
	画面表示については設定機能なし。動作する。外部出力については設定機能なし。動作しない。	排他処理機能あり	○:画面では報知を変更するが、外部出力では変更しない。	設定機能なし。常に新しい情報に更新。	設定機能なし。動作する。ただし、200km以深の場合は震度予測を行わないため動作しない。	既に出力した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	設定機能あり:デフォルトでは動作しない。動作する設定では、Takusu-P II に対してCTEST種別として出力するとともに、PC画面でも「訓練報」と表示する。	サーバーからのテスト報なし	○	○:専用回線	○:サーバーの二重化	している:○	対応済み:ルーターとネットワーク機器にて対応	
株式会社ドリームウェア	推定マグニチュードが無効の場合は動作しない。	区別せず動作する。	×: 予想震度が端末の動作設定閾値を下回った場合は、報知動作を継続する	閾値以上の震度に対し猶予時間を短くした場合は、報知動作を継続する	現状動作する 2010.6.25以降は、動作しない。	報知動作完了後にキャンセル報を受信した場合のみ動作。動作中のキャンセル報には反応しない。	冒頭「配信テストです」で鳴動する。端末側での非動作選択:不可	実際の地震と同じ動作をする。端末側での非動作選択:不可	○	○	複数の端末を用いれば対応可能	×	端末側の設定情報を直接書換えられない限り不可能	
	推定マグニチュードが無効の場合は動作しない。	区別せず動作する。	×: 予想震度が端末の動作設定閾値を下回った場合は、報知動作を継続する	閾値以上の震度に対し震度が大きくなった場合の地震を報知	現状動作する 2010.6.25以降は、動作しない。	既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	冒頭「配信テストです」で鳴動する。端末側での非動作選択:不可	実際の地震と同じ動作をする。端末側での非動作選択:不可	○	○	○	×	端末側の設定情報を直接書換えられない限り不可能	
	推定マグニチュードが無効の場合は動作しない。	区別せず動作する。	×: 予想震度が端末の動作設定閾値を下回った場合は、報知動作を継続する	閾値以上の震度に対し猶予時間を短くした場合は、報知動作を継続する	現状動作する 2010.6.25以降は、動作しない。	既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	冒頭「配信テストです」で鳴動する。端末側での非動作選択:不可	実際の地震と同じ動作をする。端末側での非動作選択:不可	○	○	○	○	○	弊社では本端末に向けた配信はしていない。弊社では本端末に向けた配信はしていない。弊社では本端末に向けた配信はしていない。弊社では本端末に向けた配信はしていない。
	推定マグニチュードが無効の場合は動作しない。	区別せず動作する。	×: 予想震度が端末の動作設定閾値を下回った場合は、報知動作を継続する	閾値以上の震度に対し一番新しい地震を都度更新	現状動作する 2010.6.25以降は、動作しない。	既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	V14は、訓練報の演算結果の配信可否の選択が可能。 V13は訓練報の配信を行わない。	実際の地震と同じ動作をする。端末側での非動作選択:不可	○	○	○	×	×	端末側の設定情報を直接書換えられない限り不可能
	演算装置に依存する。	演算装置に依存する。	×: 予想震度が端末の動作設定閾値を下回った場合は、報知動作を継続する	閾値以上の震度に対し一番新しい地震を都度更新	現状動作する 2010.6.25以降は、動作しない。	既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	冒頭「配信テストです」で鳴動する。端末側での非動作選択:不可	実際の地震と同じ動作をする。端末側での非動作選択:不可	○	○	×	×	×	端末側の設定情報を直接書換えられない限り不可能
	親機に依存する。	親機に依存する。	×: 予想震度が端末の動作設定閾値を下回った場合は、報知動作を継続する	閾値以上の震度に対し一番新しい地震を都度更新	現状動作する 2010.6.25以降は、動作しない。	既に報知した地震に対してキャンセル報が出されたときのみ動作する。	冒頭「配信テストです」で鳴動する。端末側での非動作選択:不可	実際の地震と同じ動作をする。端末側での非動作選択:可	○	○	○	○	○	○

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(4) 配信・許可事業者の能力												
	通信回線	サーバーから端末間の物理通信回線の冗長化	サーバーの機能			サーバーの機能							
			セキュリティ対策(ウイルス対策等)	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合は配信等を行わない	設置環境良好(耐震対策等)	端末毎に接続の確認可能	端末毎に個別配信可能	端末毎に利用者求めに応じて訓練報・テスト報配信可能	配信履歴の保存・管理	冗長化	無停電化	保守体制が整備	
安全・安心サポート株式会社	専用線/インターネット/IP-VPNなど、ユーザーの希望に応じる事が可能	対応可能	ウイルス対策ソフトを導入済み	過去のものは配信する電文が不正な場合は廃棄している	免震化されたデータセンターに設置	サーバーから50秒毎に死活監視を実施。切断時にはメールで通知する	端末毎に本物、訓練の配信が可能	3	端末毎の配信記録を最低1年間保存	複数台のサーバーでデュアル配信が可能。冗長化できないユーザーに対しては、ロードバランサーにより冗長化されたサーバーからの配信も可能	停電発生確率が極めて低いデータセンターに設置。もし停電した場合には、データセンターのUPSでバックアップ	24時間受付(メール)。通常は業務時間内に電話で受付。サーバー、PCにはオンサイト保守を付けて、最大で、翌営業日までは復旧に入る体制あり。また、日次チェックによる予防保守も実施	
エヌ・エス・シー株式会社	インターネットもしくは専用回線を使用。利用者の希望に応じて利用者の負担の範囲で対応する。(通常はインターネット回線上でVPN環境を自動構築して通信。)	× 但し、利用者の要望に応じて、利用者の負担の範囲で対応可能。	ウイルス対策ソフトおよびファイアウォールによって対策済み。	文字化けや必要データの脱落があるなど、正しい電文とみなされないものは配信しない。電文を受信したログは残す。	専門のデータセンター業者の施設に設置。耐震化された建物内の耐震固定されたラックの中に設置。空調、大型UPS、自家発電設備、有り。	サーバーが各端末との接続状態の確認を30分毎に行い、異常を検知した場合はメールで利用者および設置担当者等へ切断通知メールを出してお知らせ。(お知らせのメールを出すかどうかは利用者からの指定による。)	緊急地震速報の本物の電文・訓練報・テスト報は、端末毎に配信を行うかどうかを設定することが可能。独自にテスト電文は、端末を指定して配信する。	× 但し、気象庁が発報する訓練報については、12月1日の訓練実施までに配信対応を検討中。	サーバーが気象業務支援センターから受けた電文および各端末がサーバーから受けた電文と計算結果は、サーバー内に10分未満以上保存。(消すことはない)	気象業務支援センターから電文を受けるサーバーは、2台1組でコールドスタンバイの構成になっている。今後、ホットスタンバイまたは常時冗長化の構成へ強化することは可能。各端末へ配信するサーバーは複数台存在し、サーバー1台あたりの端末接続数上限を決め、余裕のあるサーバーへの振り分けを行い、冗長化と負荷分散を兼ねる。	サーバーを設置しているデータセンターの設備を利用。商用電源の二重化、自家発電装置の完備、UPSによる瞬間回復を行っている。	配信センター側システムは、24時間・365日の保守対応。ユーザーへの一次対応窓口は、販売特約店が担当。弊社は販売特約店を支援。電話受付(就業時間内)、Eメール受付(24時間)他。端末の故障には代替機を貸出しセンターで対応。サーバーの故障には、予備サーバーで継続し、その間に短時間で修復できる体制を保有しています。	
Takusu株式会社	IPv4常時接続回線、専用線/インターネットいずれも対応可能(光回線、固定IPを推奨)	通信回線を端末ネットワークまで複数本引くことは費用が許せば可能であるが、端末のLAN受信端子はひとつである。したがって端末まで完全に2重化することは出来ない。端末を2台準備すれば可能である。	対応済み・ルーターとネットワーク機器にて対応		大手電力系のデータセンターのハウジングサービスを利用	可能	可能	1	サーバーに保存(最低2年間)	サーバー2重化	データセンターで確保	タクスコールセンター(0120-654-667)にて9:00~18:00平日受付別途契約により24時間サポート可能外部サポート会社と提携済み	
	IPv4常時接続回線、専用線/インターネットいずれも対応可能(光回線、固定IPを推奨)	通信回線を端末ネットワークまで複数本引くことは費用が許せば可能であるが、端末のLAN受信端子はひとつである。したがって端末まで完全に2重化することは出来ない。端末を2台準備すれば可能である。	対応済み・ルーターとネットワーク機器にて対応	弊社では、特別に契約したユーザーおよび弊社の現地演算サーバ(バドントこい)には、サーバー演算による演算結果ではなく、気象業務支援センターからのデータを再配信していますのでその内容を記載します。 <通常> 気象業務支援センターから受信した緊急地震速報(予報)電文を所定の形式に変換して、上記の配信先に再配信する。 <異常受信データに対して> 電文が壊れている(ヘッダに記載されている電文長と実際の電文長が異なるなど)場合には壊れて下位に流さないようになっています。 それ以外は、特に、データ内容のチェックは行っていないので、受信先の処理にゆだねられている。 (備考:左記の受信端末に対してはこの情報は配信していない。)	大手電力系のデータセンターのハウジングサービスを利用	可能	可能	1	サーバーに保存(最低2年間)	サーバー2重化	データセンターで確保	タクスコールセンター(0120-654-667)にて9:00~18:00平日受付別途契約により25時間サポート可能外部サポート会社と提携済み	
	IPv4常時接続回線(光回線を推奨)	通信回線を端末ネットワークまで複数本引くことは費用が許せば可能であるが、端末のLAN受信端子はひとつである。したがって端末まで完全に2重化することは出来ない。端末を2台準備すれば可能である。	対応済み・ルーターとネットワーク機器にて対応		大手電力系のデータセンターのハウジングサービスを利用	可能	可能	1	サーバーに保存(最低2年間)	サーバー2重化	データセンターで確保	タクスコールセンター(0120-654-667)にて9:00~18:00平日受付別途契約により26時間サポート可能外部サポート会社と提携済み	
	IPv4常時接続回線、専用線/インターネットいずれも対応可能(光回線、固定IPを推奨)	パソコンに二つのLAN接続口を設けておかつLAN回線を二重化すれば可能	対応済み・ルーターとネットワーク機器にて対応	地震動予報に必要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信した場合は廃棄し配信や緊急地震速報(業)に用いない。	大手電力系のデータセンターのハウジングサービスを利用	可能	可能	×	サーバーに保存(最低2年間)	サーバー2重化	データセンターで確保	タクスコールセンター(0120-654-667)にて9:00~18:00平日受付別途契約により24時間サポート可能外部サポート会社と提携済み	
株式会社ドリームウェア	インターネット回線	複数の端末を用いれば対応可能	ウイルス対策、アクセス制御、ファイアウォール装置等で対策済み	対応可能である(XML対応時に対応検討予定)	免震化された建物内でサーバーラックに固定、空調、停電時対応済	3分毎のサーバー-端末間の死活確認を実施。	端末毎に緊急地震速報の本物や訓練、テスト報の配信設定が可能	2	2年間の端末毎の配信結果を保存、問合せがあれば閲覧が可能	気象業務支援センターからの緊急地震速報(予報)は2系二重化システムで受け、1系で配信	施設そのものが無停電対応	メールにて24時間受付。電話対応は営業時間中(9:00~18:00)のみ対応可能。端末故障時は代替機の貸し出し可能。	
	インターネット回線	複数の端末を用いれば対応可能	ウイルス対策、アクセス制御、ファイアウォール装置等で対策済み	対応可能である(XML対応時に対応検討予定)	免震化された建物内でサーバーラックに固定、空調、停電時対応済	3分毎のサーバー-端末間の死活確認を実施。切断時にメール通知可能。	端末毎に緊急地震速報の本物や訓練、テスト報の配信設定が可能	1	2年間の端末毎の配信結果を保存、問合せがあれば閲覧が可能	気象業務支援センターからの緊急地震速報(予報)は2系二重化システムで受け、2系で配信	施設そのものが無停電対応	メールにて24時間受付。電話対応は営業時間中(9:00~18:00)のみ対応可能。端末故障時は代替機の貸し出し可能。	
	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	2	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	端末の問い合わせに対してのみ対応。電話対応は営業時間中(9:00~18:00)のみ対応可能。メールは24時間受付可能。
	インターネット回線	複数の端末を用いれば対応可能	ウイルス対策、アクセス制御、ファイアウォール装置等で対策済み	対応可能である(XML対応時に対応検討予定)	免震化された建物内でサーバーラックに固定、空調、停電時対応済	3分毎のサーバー-端末間の死活確認を実施。切断時にメールで通知。	演算装置毎に緊急地震速報の本物や訓練、テスト報の配信設定が可能。但し、演算装置の先に接続されている受信端末には個別配信はできない。	1	2年間の端末毎の配信結果を保存、問合せがあれば閲覧が可能	気象業務支援センターからの緊急地震速報(予報)は2系二重化システムで受け、1系+冗長1系(同時ではなく片側のみ)で配信	施設そのものが無停電対応	メールにて24時間受付。電話対応は営業時間中(9:00~18:00)のみ対応可能。端末故障時は代替機の貸し出し可能。サーバーは冗長構成されているが故障時は、予備サーバーにより切り替え対応可能。(コールドスタンバイ対応)	
	CATV回線	複数の端末を用いれば対応可能	ケーブル局側に委ねられる。ウイルス対策、アクセス制御、ファイアウォール装置を導入済み	対応可能である(XML対応時に対応検討予定)	ケーブル局側に委ねられる。	なし。	サーバーを介さず演算装置単独で端末毎のテスト配信は可能。	1	ケーブル局側で管理。始どの局で配信履歴を長期保存している。	各ケーブル局からケーブル通信網を通じて配信	ケーブル局側に委ねられる。	各ケーブル局にて24時間電話対応。端末故障時は代替機の貸し出し可能。	
	該当しない	複数の端末を用いれば対応可能	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	該当しない	メールにて24時間受付。電話対応は営業時間中(9:00~18:00)のみ対応可能。端末故障時は代替機の貸し出し可能。	

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	配信・許可事業者によるサポート			配信・許可事業者によるサポート		
	利用者に連絡する手段あり	利用者の利用方法の把握	気象庁から端末までの配信経路を公開	サーバー端末間の通信手順やデータフォーマットを公開 公開する:○ 公開しない:×	利用者からの配信状況問い合わせに対応可能	ガイドラインに記された必須項目を全て満たした場合にはその旨を公開
安全・安心サポート株式会社	顧客専用のメーリングリストを作成して、気象庁などの情報を定期的に配信	顧客導入時に、顧客毎に管理表を作成し、利用形態を把握	配信構成図を渡して明示	○	保守専用部隊が電話にて対応 24時間対応の場合は、顧客専用のWEB管理画面を提供	ガイドライン利用時には対応
エヌ・エス・シー株式会社	手段あり。 緊急地震速報配信サービス利用契約時に、窓口担当者を登録し、メールや電話で連絡可能。 月次報告書(受信ログや通報ログ)を送付。 且し、日常連絡は、販売特約店を介して連絡。緊急時は、顧客の事前登録担当者へ連絡可能。気象庁からのお知らせ等は、販売特約店へ通達を指示。	通常は契約特約店を通じて把握。 利用事例の収集も行って居り、必要に応じて特約店や販売店と一緒にユーザー企業も訪問。 訓練現場や設置環境、ユーザーの意向等の確認も行っている。	検討顧客への提案書等にも必要に応じ盛り込んでおり、利用者にも開示している。 電文の配信経路は、一経路のみ。 気象業務支援センター → エヌ・エス・シー株式会社 → SignalNow(SIG-A) 現時点では文章による明示は無し。今後の対応可能。	○ 内容に応じて判断	対応可能 通常は、販売特約店が利用者からの一次問い合わせ窓口になって居り、弊社は販売特約店の回答の補佐をする形で運営している。 その為、適宜販売特約店の研修会を実施している。 直接、弊社の窓口へ電話頂いたお客様のご質問などには、お断りすることなく、対応させて頂いております。	ガイドライン制定後には明示を行う。
Takusu株式会社	契約申込書に連絡先(電話とメール)を記入していただくことを要求している。サーバーには複数箇所のメール配信先を記憶可能(緊急地震速報のメール配信は配信契約が必要)別途、契約により利用者の希望に対応することも可能	・商品説明・提案時に把握 ・設置調整時に確認	・営業時に説明。 ・ホームページならびにパンフレットに記載	公開する:○ 「条件による」 (成りすまし防止などシステムの安全性を保つために、情報漏えい防止の徹底された、本当に必要な相手先へのみ可。)	タスクコールセンターにて対応	明示します。
	契約申込書に連絡先(電話とメール)を記入していただくことを要求している。サーバーには複数箇所のメール配信先を記憶可能(緊急地震速報のメール配信は配信契約が必要)別途、契約により利用者の希望に対応することも可能	・商品説明・提案時に把握 ・設置調整時に利用状態を確認 ・利用申込書にて推察	・営業時に説明。 ・ホームページならびにパンフレットに記載	公開する:○ 「条件による」 (成りすまし防止などシステムの安全性を保つために、情報漏えい防止の徹底された、本当に必要な相手先へのみ可。)	タスクコールセンターにて対応	明示します。
	契約申込書に連絡先(電話とメール)を記入していただくことを要求している。サーバーには複数箇所のメール配信先を記憶可能(緊急地震速報のメール配信は配信契約が必要)別途、契約により利用者の希望に対応することも可能	・利用申込書にて推察	・営業時に説明。 ・ホームページならびにパンフレットに記載	公開する:○ 「条件による」 (成りすまし防止などシステムの安全性を保つために、情報漏えい防止の徹底された、本当に必要な相手先へのみ可。)	タスクコールセンターにて対応	明示します。
	あり:契約申込書にて連絡先(電話とメール)を記入していただく。	・設置調整時に把握 ・利用申込書にて推察	・営業時に説明 ・ホームページならびにパンフレットに記載	公開する:○「条件による」	タスクコールセンターにて対応	明示します。
株式会社ドリームウェア	あり:連絡は当社の代理店・販売店を通じて行うため時間的制約を伴う。配信先利用者に関しては電話番号、メールアドレスが登録されており直接通知可能。但し代理店・販売店を通じて行うことを基本的とする。	利用形態は把握していないが代理店・販売店経由で確認可能。	利用者からの問い合わせがなしい限り特に説明していない。取扱説明書には明示していない。	×:通信手段、Formatの公開は悪意のある攻撃者からのターゲットになる可能性があるためセキュリティ上好ましくないので公開しない。	営業時間中(9:00~18:00)は緊急地震速報や自社端末等の専門的な知識を有する職員が対応可能。	未定
	あり:連絡は当社の代理店・販売店を通じて行うため時間的制約を伴う。配信先利用者に関しては電話番号、メールアドレスが登録されており直接通知可能。但し代理店・販売店を通じて行うことを基本的とする。	利用形態は把握していないが代理店・販売店経由で確認可能。	利用者には販売代理店から説明済。取扱説明書には明示していない。	×:通信手段、Formatの公開は悪意のある攻撃者からのターゲットになる可能性があるためセキュリティ上好ましくないので公開しない。	営業時間中(9:00~18:00)は緊急地震速報や自社端末等の専門的な知識を有する職員が対応可能。	未定
	なし:売り切りの為、利用先の特定ができない。	端末販売経路が複数に枝分かれしていること配信元が弊社でないことから利用形態を把握することは不可能。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	弊社では本端末に向けた配信はしていない。	販売終了のため予定なし
	あり:メール、電話にて直接担当者と連絡が可能。	利用形態は把握している。	現状、特に行っていないが開示することは問題ない。	×:通信手段、Formatの公開は悪意のある攻撃者からのターゲットになる可能性があるためセキュリティ上好ましくないので公開しない。	営業時間中(9:00~18:00)は緊急地震速報や自社端末等の専門的な知識を有する職員が対応可能。	未定
	担当ケーブル局が、エンドユーザーと直接連絡が可能	担当ケーブル局が把握。	現状、特に行っていないが開示することは問題ない。	×:通信手段、Formatの公開は悪意のある攻撃者からのターゲットになる可能性があるためセキュリティ上好ましくないので公開しない。	営業時間中(9:00~18:00)は緊急地震速報や自社端末等の専門的な知識を有する職員が対応可能。	未定
	それぞれの販売形態による。	基本的に把握。	該当しない	該当しない	営業時間中(9:00~18:00)は緊急地震速報や自社端末等の専門的な知識を有する職員が対応可能。	該当しない

端末・配信状況調査

別添 参考

事業者 (許可番号順)	端末	製造者(製造元)	製品名	型番 (ソフトウェアの場合はバージョン管理番号)	製造年月日	製品の用途 A 機械・館内放送設備等の自動制御 B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御 C 端末の報知による人の危険回避	演算方式	受信装置の種類	価格		その他		(1) 端末基礎機能
									販売価格	通信費等運営費(月間)	製品紹介ホームページURL	(備考)	サーバーとの接続監視、通信障害の検知
日本バナナーズ株式会社	1	日本バナナーズ㈱(㈱アイザック)	緊急地震速報受信装置(SIGNAL BEET)	MEI-510(Ver.1.4)	2010年3月1日	A, B, C	端末予報型	緊急地震速報専用端末 (壁掛け型)	238,000円税別 リース(あり)	8,000円～税別	http://www.jpbc.co.jp http://www.isaac.co.jp	現時点で製造中止予定なし	端末からサーバーに向けて180秒毎に死活監視を行い、切断したときはLEDランプの点滅で通知。端末障害は、センターで24時間有人監視しており、異常時利用者へ連絡を行う等のサービスを提供。
	2	日本バナナーズ㈱(㈱アイザック)	緊急地震速報受信装置(SIGNAL BEET Pro)	MEI-510P(Ver.1.4)	2010年3月1日	A	端末予報型	緊急地震速報専用端末 (19インチワイド型)	400,000円税別 リース(あり)	8,000円～税別	http://www.jpbc.co.jp http://www.isaac.co.jp	現時点で製造中止予定なし	端末からサーバーに向けて181秒毎に死活監視を行い、切断したときはLEDランプの点滅で通知。端末障害は、センターで24時間有人監視しており、異常時利用者へ連絡を行う等のサービスを提供。

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(1) 端末基礎機能											
	受信してから0.2秒以内に報知または制御を開始	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合の対処方法	動作履歴の保存	耐震固定等地震の揺れへの対策が可能	自己診断機能	外部出力機能	音声や表示による報知機能		テスト報により試験ができること	端末単独で外部出力の試験ができること	端末単独で外部出力の試験機能 を有している	訓練報により訓練支援の報知が できる
							予測震度及び猶予時間の伝達* 1	画面表示やライトなど(具体的な 報知内容を記述のこと)				
日本ハナニュース株式会社	○	動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	あり、端末は5件保存可(センター側で端末毎に2年間の履歴を保存)	壁かけ用のねじ止めあり	あり: 障害時・通信障害時にランプ点灯で告知。端末障害は、センターで24時間あり人監視しており、異常時利用者へ連絡を行う等のサービスを提供。	あり、接点数3、接点毎に閾値設定可 キャンセル報受信時にパルスを出す制御接点を1所あり	○	端末自体が備えているLEDランプ、液晶表示、音声アナウンスによる伝達	○: テスト電文を受けて接点信号として出力することが可能。(端末テスト発報でも接点出力は可能)	○: テスト電文を受けて対象機器制御まで含めた一連のテストを行うことが可能。(端末テスト発報でも接点出力は可能)	○	○(センター側で設定)
	○	動作の判断に必要な要素が欠損したような電文は廃棄し動作しない。	あり、端末は5件保存可(センター側で端末毎に3年間の履歴を保存)	19インチラックにねじ止め	あり: 障害時・通信障害時にランプ点灯で告知。端末障害は、センターで25時間あり人監視しており、異常時利用者へ連絡を行う等のサービスを提供。	あり、接点数3、接点毎に閾値設定可 キャンセル報受信時にパルスを出す制御接点を2所あり	○	端末自体が備えているLEDランプ、液晶表示、音声アナウンスによる伝達	○: テスト電文を受けて接点信号として出力することが可能。(端末テスト発報でも接点出力は可能)	○: テスト電文を受けて対象機器制御まで含めた一連のテストを行うことが可能。(端末テスト発報でも接点出力は可能)	○	○(センター側で設定)

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(1) 端末基礎機能				(2) 地震動予報機能					(3) 報知・制御出力条件設定機能				
	訓練報により訓練用の外部出力を動作できる できる: ○ できない: ×	端末単独で訓練報知できる できる: ○ できない: ×	訓練電文を受信し、報知を確認できること	訓練が実施できる機能を有すること(オペレーターによる訓練も含む)	利用者の特定する場所での震度や到達時間の予想	時刻のズレが日本標準時に対し1秒以内になるよう自動時刻校正	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合は地震動予報を行わない	予報履歴の保存し、利用者が参照可能	気象庁の発表する緊急地震速報の内容等の変更に対応可能	予測震度や猶予時間の閾値	緊急地震速報(警報)による動作	報知音の選択	予想した震度や猶予時間の報知表現具体的な数値を使わない表現にしているか? 利用者側で表示選択できる: ◎ している: ○ していない: ×	緊急地震速報の精度情報による動作
日本パナニュース株式会社	○	○(テスト報で対応)	受信可能 但し気象庁より訓練電文配信に対し通知を受けた日時にサーバで設定。	利用者端末に任意震度、猶予秒数を設定して配信可能。 配信サーバより任意の端末を選択し配信が可能。	あり	NTPIによる自動校正を3分毎に実施	動作の判断に必要な重要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信しても地震動予報を行わない。	あり、端末の画面にて参照可能。 5地震分を保存	電文の形式変更等があっても独自電文に変更し配信しているためサーバプログラムの改修で対応可能	設定機能あり(デフォルトは震度3) 猶予時間がない場合は音声アラウンスで報知	設定機能あり	設定機能あり(デフォルトはREIC音)	◎(特定モードで選択可)	設定機能あり(デフォルトは、1地点の緊急地震速報は使用しない)
	○	○(テスト報で対応)	受信可能 但し気象庁より訓練電文配信に対し通知を受けた日時にサーバで設定。	利用者端末に任意震度、猶予秒数を設定して配信可能。 配信サーバより任意の端末を選択し配信が可能。	あり	NTPIによる自動校正を4分毎に実施	動作の判断に必要な重要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信しても地震動予報を行わない。	あり、端末の画面にて参照可能。 6地震分を保存	電文の形式変更等があっても独自電文に変更し配信しているためサーバプログラムの改修で対応可能	設定機能あり(デフォルトは震度4) 猶予時間がない場合は音声アラウンスで報知	設定機能あり	設定機能あり(デフォルトはREIC音)	◎(特定モードで選択可)	設定機能あり(デフォルトは、2地点の緊急地震速報は使用しない)

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(3) 報知・制御出力条件設定機能							配信・許可事業者の通信能力					
	100ガル超え緊急地震速報に対する動作	同一内容の緊急地震速報を複数受信した場合の動作	同一地震について複数回緊急地震速報(業)を受信した場合の動作 緊急地震速報(予報)の続報により緊急地震速報(業)の予想震度が小さくなる・猶予時間も短くなっても報知を変更しない? 変更しない:○ 変更する:×	ある地震の緊急地震速報を受信した後、続けて別の地震の緊急地震速報を受信した場合の動作	深発地震についての緊急地震速報(業)に対する動作	キャンセル報を受信した際の動作	訓練報を受信した際の動作	テスト報を受信した際の動作	気象庁の発表から端末に届くまで1秒未満	気象業務支援センターから事業者のサーバーまでの通信回線の冗長化	サーバーから端末間の論理通信回線の冗長化	複数サーバーから端末に緊急地震速報を同時に配信している:○ していない:×	セキュリティ対策(なりすまし防止等)
日本バナニュース株式会社	設定機能あり(デフォルトは、予測震度が含まれない電文は採用しない)	排他処理機能あり	○	予測震度が1以上大きい演算結果の場合、猶予秒数が短くなった場合に都度、通知	提出の補正演算式の演算結果により通知	既に報知した地震に対してキャンセル報が出された時に動作する	デフォルトは動作しない設定。動作する設定では、訓練報を受けた際には警報音の後に「テストです」を報知。	デフォルトは動作しない設定。動作する設定では、テスト電文を受けた際の設定条件で動作。	○	対応可能	対応可能	×(接続サーバー障害時には、端末側が接続先サーバーを自動選択できる機能を搭載)	インターネット配信電文の暗号化
日本バナニュース株式会社	設定機能あり(デフォルトは、予測震度が含まれない電文は採用しない)	排他処理機能あり	○	予測震度が1以上大きい演算結果の場合、猶予秒数が短くなった場合に都度、通知	提出の補正演算式の演算結果により通知	既に報知した地震に対してキャンセル報が出された時に動作する	デフォルトは動作しない設定。動作する設定では、訓練報を受けた際には警報音の後に「テストです」を報知。	デフォルトは動作しない設定。動作する設定では、テスト電文を受けた際の設定条件で動作。	○	対応可能	対応可能	×(接続サーバー障害時には、端末側が接続先サーバーを自動選択できる機能を搭載)	インターネット配信電文の暗号化

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	(4) 配信・許可事業者の能力											
			サーバーの機能				サーバーの機能					
	通信回線	サーバーから端末間の物理通信回線の冗長化	セキュリティ対策(ウイルス対策等)	不正な緊急地震速報(予報)を受信した場合は配信等を行わない	設置環境良好(耐震対策等)	端末毎に接続の確認可能	端末毎に個別配信可能	端末毎に利用者の求めに応じて訓練報・テスト報配信可能 どちらも配信している: 1 テスト報のみ配信している: 2 訓練報のみ配信している: 3 どちらも配信していない: x	配信履歴の保存・管理	冗長化	無停電化	保守体制が整備
日本ハナニュース株式会社	専用線/インターネット回線	対応可能	ウイルス対策、意図しない他者の侵入ソフトの導入済み	地震動予報に必要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信した場合は廃棄し配信や緊急地震速報(業)に用いない。	耐震化されたデータセンター(コンピュータ専用ビル)で、耐震固定も実施、無停電化、空調導入済み。	サーバーから端末の接続・切断状況の確認を180秒毎に実施。利用者に対して切断時の電話・メール等で通知	端末毎に緊急地震速報の本体や訓練、テスト報の配信設定が可能	3	2年間の端末ごとに配信した結果を保存可能	サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している(現在は未対応、対応は可能)	無停電電源装置の導入により瞬断も生じない	24時間有人監視による異常時の電話連絡/端末が故障したときには代替端末を貸し出し可能。サーバーは24時間専門的な知識を有する担当が監視しており、サーバーが故障した際に1日以内に復旧できる体制あり
	専用線/インターネット回線	対応可能	ウイルス対策、意図しない他者の侵入ソフトの導入済み	地震動予報に必要な要素が欠損した緊急地震速報(予報)を受信した場合は廃棄し配信や緊急地震速報(業)に用いない。	耐震化されたデータセンター(コンピュータ専用ビル)で、耐震固定も実施、無停電化、空調導入済み。	サーバーから端末の接続・切断状況の確認を180秒毎に実施。利用者に対して切断時の電話・メール等で通知	端末毎に緊急地震速報の本体や訓練、テスト報の配信設定が可能	3	2年間の端末ごとに配信した結果を保存可能	サーバーは2台1組の構成で、各サーバーはそれぞれ別回線で気象業務支援センターから緊急地震速報(予報)を受信している(現在は未対応、対応は可能)	無停電電源装置の導入により瞬断も生じない	24時間有人監視による異常時の電話連絡/端末が故障したときには代替端末を貸し出し可能。サーバーは24時間専門的な知識を有する担当が監視しており、サーバーが故障した際に1日以内に復旧できる体制あり

端末・配信状況調査

事業者 (許可番号順)	配信・許可事業者によるサポート			配信・許可事業者によるサポート		
	利用者に連絡する手段あり	利用者の利用方法の把握	気象庁から端末までの配信経路を公開	サーバー-端末間の通信手順やデータフォーマットを公開 公開する:○ 公開しない:×	利用者からの配信状況問い合わせに対応可能	ガイドラインに記された必須項目を全て満たした場合にはその旨を公開
日本ハナユーズ株式会社	緊急地震速報に係るお知らせやサーバ保守によるサービス停止の通知等をWebサイトにアップ(特別な場合は電話連絡あり)	端末販売時に利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用について、助言を実施	利用者に対する配信経路は、一経路のみ。 気象業務支援センター → 日本ハナユーズ(株) → 緊急地震速報受信端末(MEI-510)	×	9時～18時、緊急地震速報や自社端末等の専門的な知識を有する職員が対応可能	ガイドライン制定時には対応予定
	緊急地震速報に係るお知らせやサーバ保守によるサービス停止の通知等をWebサイトにアップ(特別な場合は電話連絡あり)	端末販売時に利用者の利用形態を把握し、緊急地震速報の適切な利用について、助言を実施	利用者に対する配信経路は、一経路のみ。 気象業務支援センター → 日本ハナユーズ(株) → 緊急地震速報受信端末(MEI-510P)	×	9時～18時、緊急地震速報や自社端末等の専門的な知識を有する職員が対応可能	ガイドライン制定時には対応予定